

「第2期穴水町人口ビジョン・総合戦略」  
策定に係る世帯主同居家族（18～49歳）  
アンケート調査結果

## 目 次

1) アンケート調査の概要.....	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 調査内容.....	1
(4) 回収率.....	2
(5) 集計方法.....	2
(6) 結果の概要.....	3
2) 調査結果.....	7
【問1】回答者自身について.....	7
【問2】人口減少に対する意識について.....	16
【問3】穴水町の居住・魅力について.....	23
【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について.....	28
【問5】個別施策に関する具体的な取組について.....	56
【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について.....	83
【問7】結婚・出産・子育てについて.....	91

## 1) アンケート調査の概要

### (1) 調査目的

- ・「第2期穴水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に向け、住民意向を把握するために全世帯主と同居する18～49歳の家族を対象としたアンケート調査を実施した。

### (2) 調査方法

- ・アンケート調査票は広報と合わせて配布し、郵送により回収を行った。
- ・調査期間は令和元年11月28日～12月20日として設定した。  
(結果は令和2年2月回収分まで反映)

### (3) 調査内容

調査項目	設 問
【問1】回答者自身について	① 性別
	② 年齢
	③ 住まい
	④ 世帯人数
	⑤ 職業
	⑥ 通勤・通学先
【問2】人口減少に対する意識について	⑦ 推計結果
	⑧ 社会への影響（3つ以内で回答）
【問3】穴水町の居住・魅力について	⑨ 居住年数
	⑩ 住み心地
	⑪ 穴水町の自慢（3つ以内で自由回答）
【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について	⑫ 施策に対する満足度と重要度
	⑬ 地域の雇用創出や経済活性化の取組（3つ以内で回答）
	⑭ 来訪・移住・定住促進の取組（3つ以内で回答）
	⑮-1 少子化の取組（3つ以内で回答）
	⑮-2 ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組 （3つ以内で回答）
	⑯-1 安心して暮らせる地域づくりの取組（3つ以内で回答） ⑯-2 高齢者への施策の充実等による取組（3つ以内で回答）

調査項目	設 問
【問5】個別施策に関する具体的な取組について	⑰ スポーツ
	⑱ 健康診断
	⑲ 食生活（野菜摂取）
	⑳ 食生活（塩分摂取）
	㉑ 食生活（外食頻度）
	㉒ バス利用頻度
	㉓ バスを利用するための改善策（5つ以内で回答）
	㉔ バスを公共交通として維持するための対策
	㉕ 墓の所有
	㉖ 合葬墓を利用したいか
	㉗ 合葬墓を利用したい理由（当てはまるものすべて回答）
㉘ 合葬墓を利用したくない理由（当てはまるものすべて回答）	
【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について	㉙ 地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（3つ以内で回答）
	㉚ 穴水町の目指すべき姿（3つ以内で回答）
	㉛ 意見（自由回答）
【問7】結婚・出産・子育てについて（18～49歳）	㉜ 結婚について
	㉝ 将来結婚したいか
	㉞ 独身でいる理由（3つ以内で回答）
	㉟ 理想的な子どもの人数
	㊱ 希望する子どもの数を持っていない場合に想定される要因（3つ以内で回答）
	㊲ 意見（自由回答）

#### （4）回収率

項目	配布枚数	回収枚数	回収率
穴水町 町民アンケート調査 （同居家族）	3,701 票	234 票	6%

#### （5）集計方法

- ・ 前回調査（2015年）と同様の設問については、前回の結果と比較した。
- ・ ⑪、⑳、㉗の自由回答について、1つの回答欄に複数の回答がみられた場合、回答を2つに分けて集計した。（回答者Aが1つの回答欄に「●●、△△」と回答した場合、「●●」「△△」を分けて集計している。）
- ・ クロス集計は「性別」「年代別」「居住地別」に実施した。

(6) 結果の概要

調査項目	設 問	調査結果
【問1】回答者自身について	① 性別	・「女性」が約6割を占める。
	② 年齢	・「40歳代」が約5割と最も多い。
	③ 住まい	・「穴水地区（大町、川島）」が約5割と最も多い。
	④ 世帯人数	・「3人」が約3割と最も多い。
	⑤ 職業	・「有職（正規雇用）」が約6割と最も多い。
	⑥ 通勤・通学先	・「町内」が約6割と最も多い。
【問2】人口減少に対する意識について	⑦ 推計結果	・「知っている」「なんとなく聞いたことがある」「知らない」がそれぞれ約3割となっている。
	⑧ 社会への影響	・「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が225点と最も高い。
【問3】穴水町の居住・魅力について	⑨ 居住年数	・「20年以上」が約6割と最も多い。
	⑩ 住み心地	・「普通」が約4割と最も多い。
	⑪ 穴水町の自慢（自由回答）	・「祭り」「自然」「空港」に関する回答が多い。

調査項目	設 問	調 査 結 果
【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について	⑫ 施策に対する満足度と重要度	<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度が最も高い施策は「地域資源を活かした観光誘客に関する施策」、重要度が最も高い施策は「安心して子育てできる環境づくりに関する施策」となっている。</li> </ul>
	⑬ 地域の雇用創出や経済活性化の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が約6割と最も多い。</li> </ul>
	⑭ 来訪・移住・定住促進の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Uターン者、移住者の増加に向けた情報発信やサポート体制の充実」が約5割と最も多い。</li> </ul>
	⑮-1 少子化の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「若い世代の経済的安定」が約6割と最も多い。</li> </ul>
	⑮-2 ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が約6割と最も多い。</li> </ul>
	⑯-1 安心して暮らせる地域づくりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「健康で安心して暮らせるよう、地域医療体制・福祉サービスの充実」が約6割と最も多い。</li> </ul>
	⑯-2 高齢者への施策の充実等による取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が約8割と最も多い。</li> </ul>

調査項目	設 問	調査結果
【問5】個別施策に関する具体的な取組について	⑰ スポーツ	・「まったく行っていない」が約5割と最も多い。
	⑱ 健康診断	・「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が約6割と最も多い。
	⑲ 食生活（野菜摂取）	・「意識して食べている」が約7割と最も多い。
	⑳ 食生活（塩分摂取）	・「意識はしているが、控える事が出来ていない」が4割と最も多い。
	㉑ 食生活（外食頻度）	・「たまに利用している（概ね月2～3回）」が約6割と最も多い。
	㉒ バス利用頻度	・「バスはほとんど利用しない」が4割と最も多い。
	㉓ バスを利用するための改善策	・「高齢者に対する割引を実施する」が約4割と最も多い。
	㉔ バスを公共交通として維持するための対策	・「町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める」が約3割と最も多い。
	㉕ 墓の所有	・「している」が約8割を占める。
	㉖ 合葬墓を利用したいか	・「どちらでもない」が約5割と最も多い。
	㉗ 合葬墓を利用したい理由	・「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が約7割と最も多い。
㉘ 合葬墓を利用したくない理由	・「共同埋葬に抵抗がある」が約6割と最も多い。	
【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について	㉙ 地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組	・「観光資源や祭りなどの地域資源を活かしたまちづくり」が約6割と最も多い。
	㉚ 穴水町の目指すべき姿	・「子育てや教育環境が充実したまち」が約4割と最も多い。
	㉛ 意見（自由回答）	・「行政」「環境・施設整備」「まちづくり」「交通」に関する回答が多い。

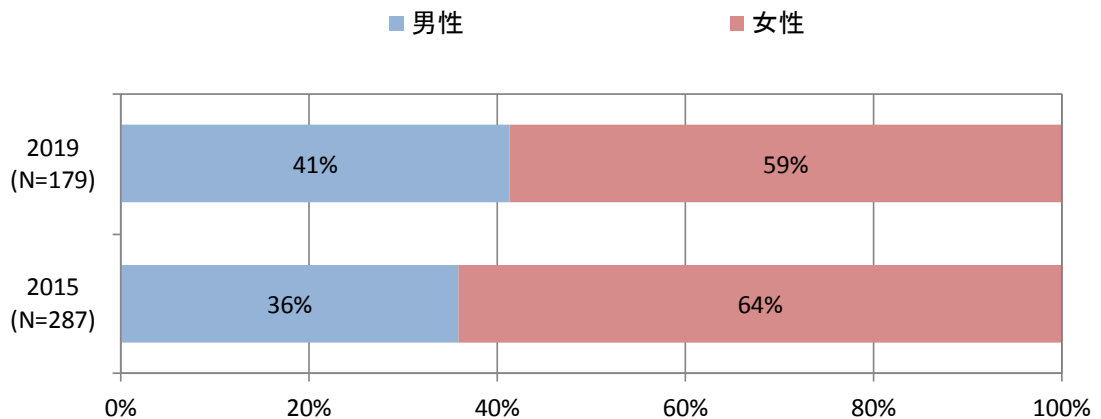
調査項目	設 問	調査結果
【問7】結婚・出産・子育てについて(18～49歳)	③② 結婚について	・「結婚している(又は結婚することが決まっている)」が約5割と最も多い。
	③③ 将来結婚したいか	・「いずれ結婚するつもり、したい」が約6割を占める。
	③④ 独身でいる理由	・「良い相手にまだめぐり合わない(出会いの場がない)から」が約5割と最も多い。
	③⑤ 理想的な子どもの人数	・「2人」が5割と最も多い。
	③⑥ 希望する子どもの数を持ってない場合に想定される要因	・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから(収入が不安定だから)」が256点と最も高い。
	③⑦ 意見(自由回答)	・「子育て」「企業誘致・雇用」「環境・施設整備」に関する回答が多い。



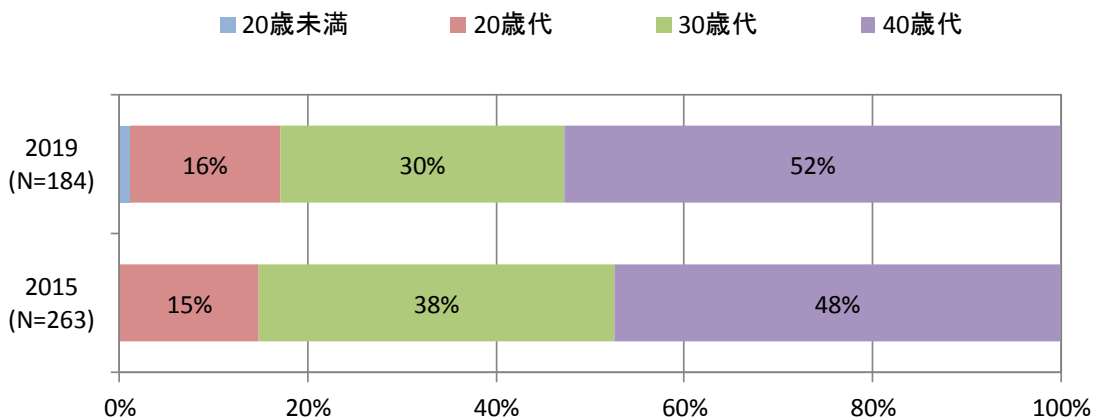
## 2) 調査結果

### 【問1】回答者自身について

①	性別
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性」が59%、「男性」が41%となっている。</li> <li>・前回との比較では、2019年で「女性」が59%と、2015年と比べて5ポイント低くなっている。</li> </ul>



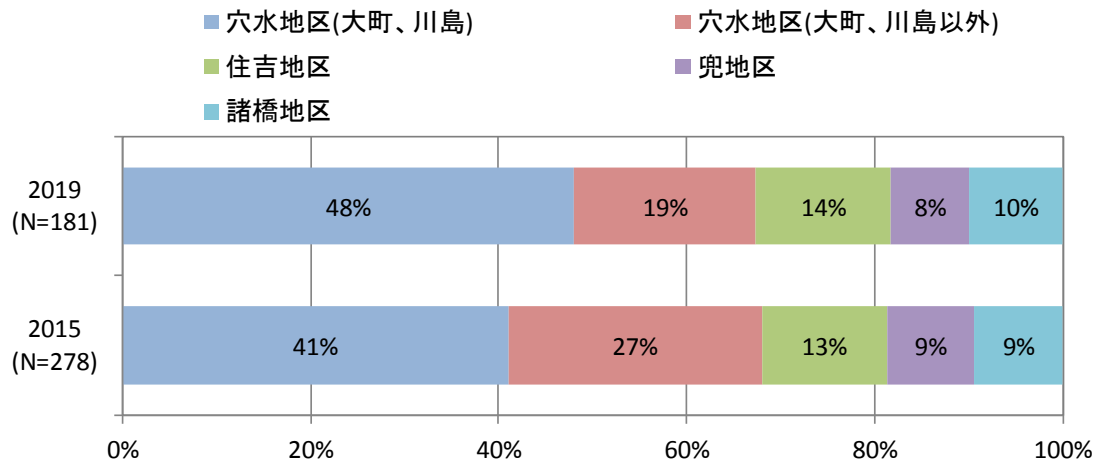
②	年齢
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「40歳代」が52%で最も多く、次いで「30歳代」が30%、「20歳代」が16%となっている。</li> <li>・前回との比較では、2019年で「30歳代」が30%と、2015年と比べて8ポイント低くなっている。</li> </ul>



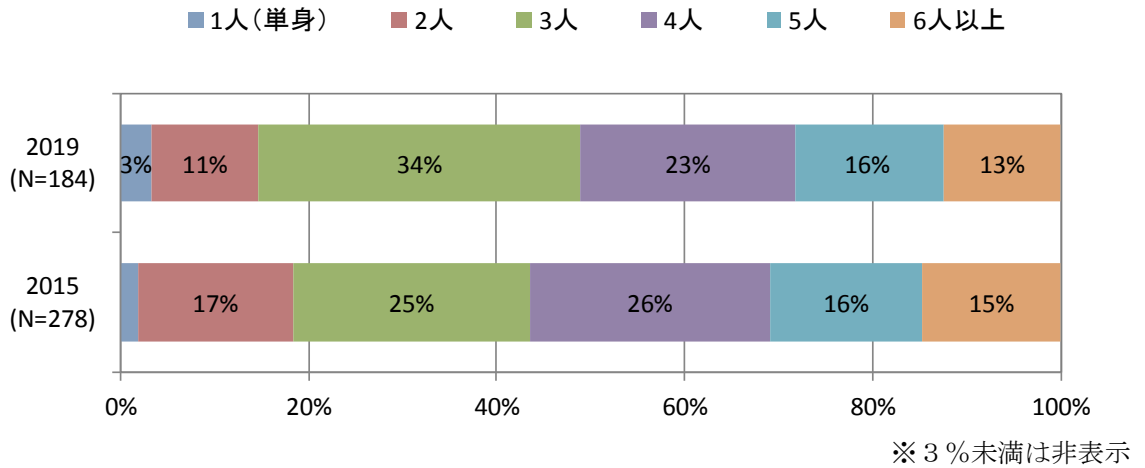
※3%未満は非表示

③ 住まい

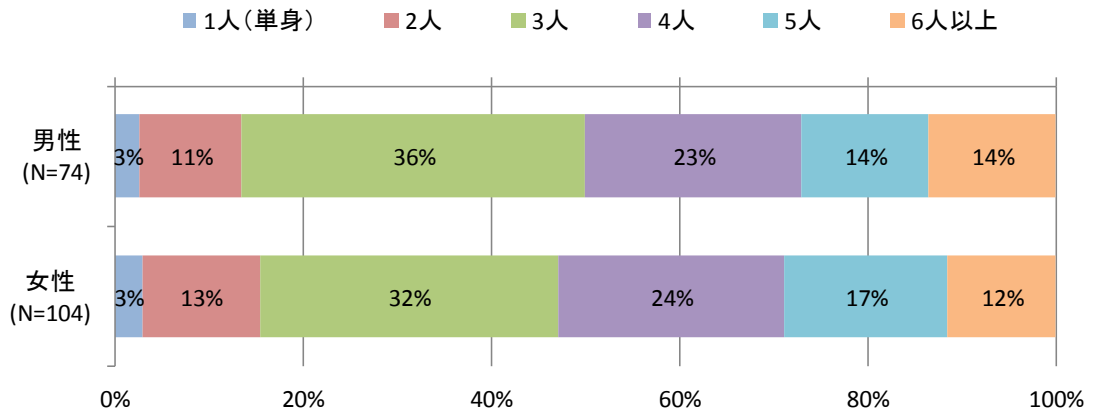
- ・「穴水地区(大町、川島)」が48%で最も多く、次いで「穴水地区(大町、川島以外)」が19%、「住吉地区」が14%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「穴水地区(大町、川島以外)」が19%と、2015年と比べて8ポイント低くなっている。



<b>④</b>	<b>世帯人数</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3人」が34%で最も多く、次いで「4人」が23%、「5人」が16%となっている。</li> <li>・前回との比較では、2019年で「3人」が34%と、2015年と比べて9ポイント高くなっている。</li> </ul>	

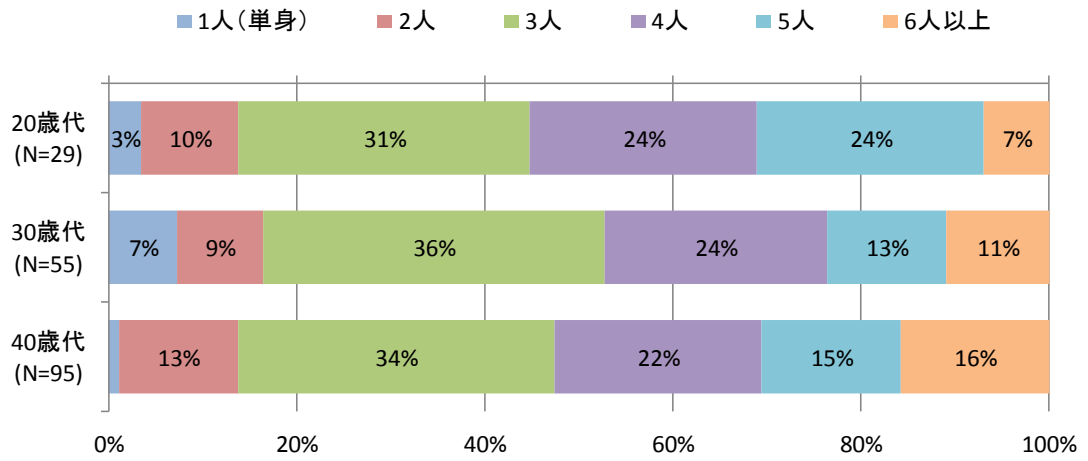


<b>■</b>	<b>世帯人数（性別）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別では、大きな違いはみられなかった。</li> </ul>	



**■世帯人数（年代別）**

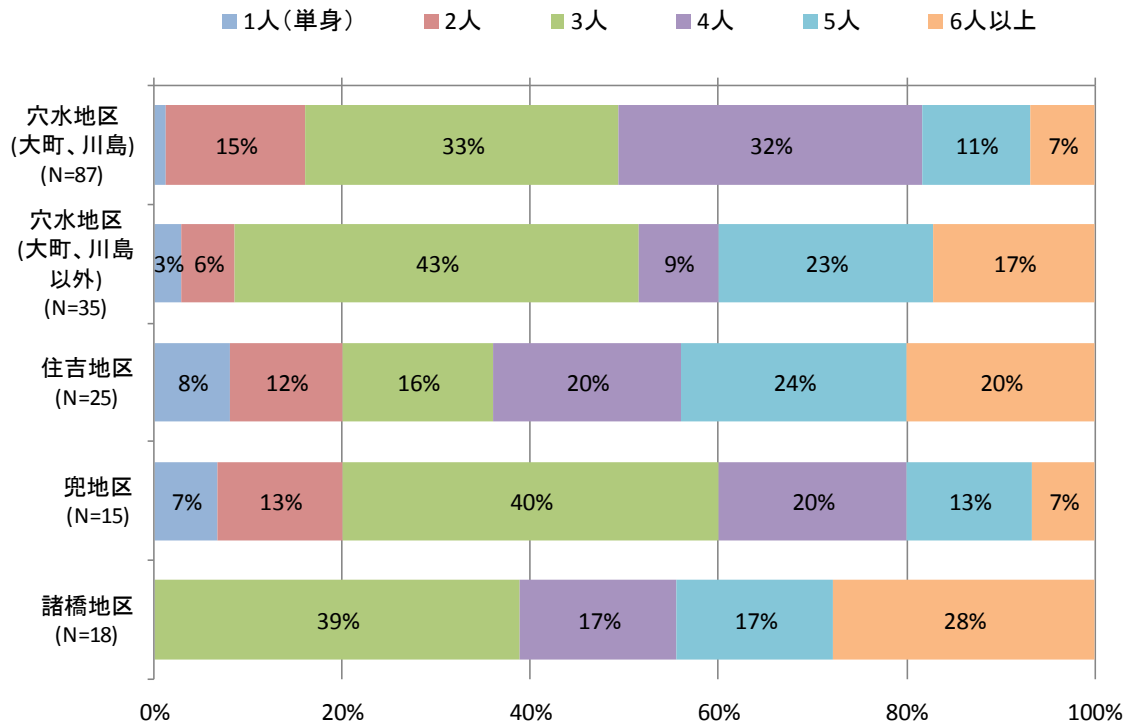
・年代別では、全ての年代で「3人以上」が8割以上となっている。



※ 3%未満は非表示

■世帯人数（居住地別）

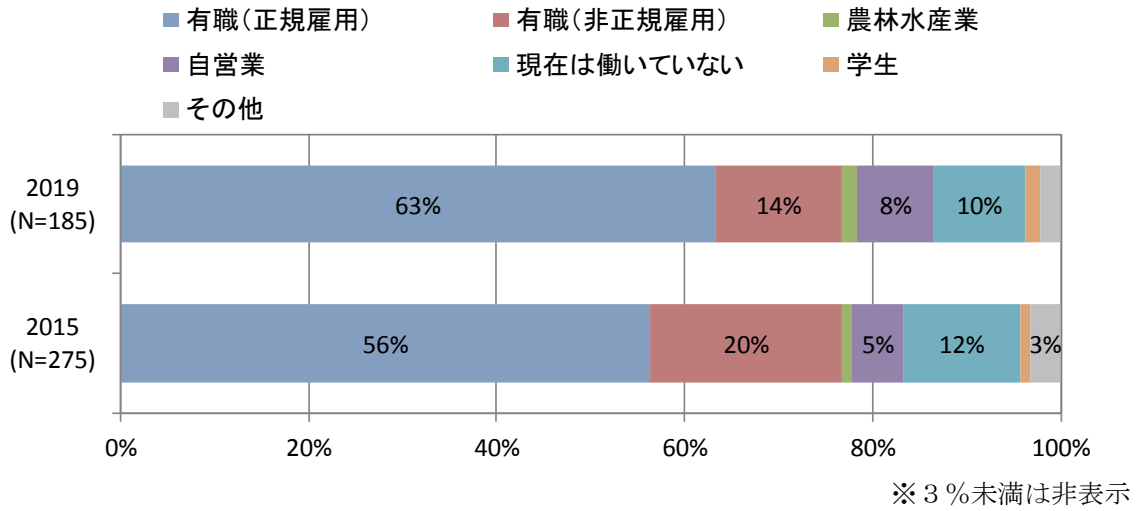
・居住地別では、全ての地区で「3人以上」が約8割以上となっている。



※ 3%未満は非表示

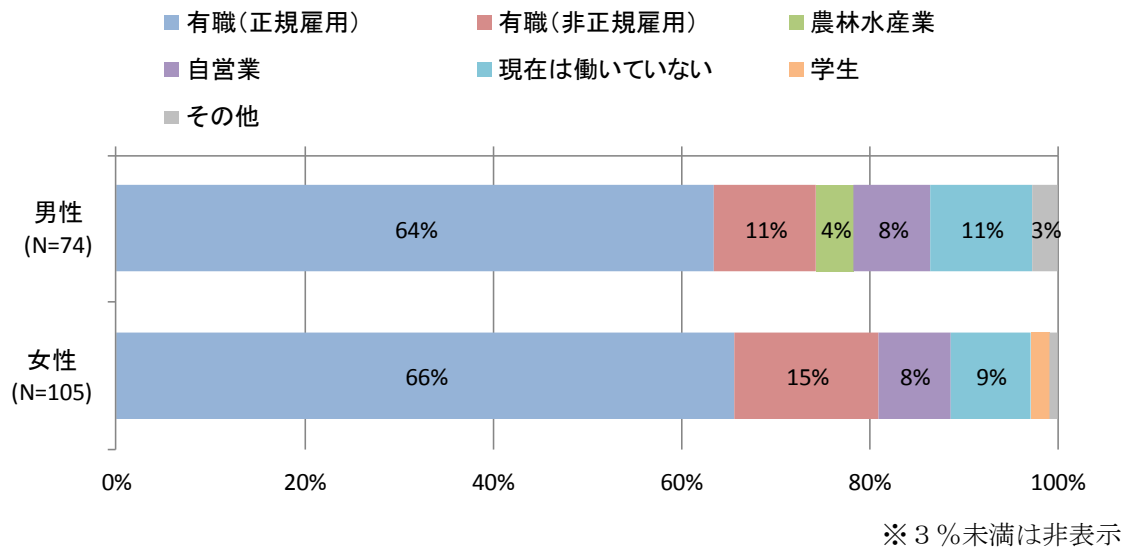
**⑤ 職業**

- ・「有職（正規雇用）」が63%で最も多く、次いで「有職（非正規雇用）」が14%、「現在は働いていない」が10%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「有職（非正規雇用）」が14%と、2015年と比べて6ポイント低くなっている。



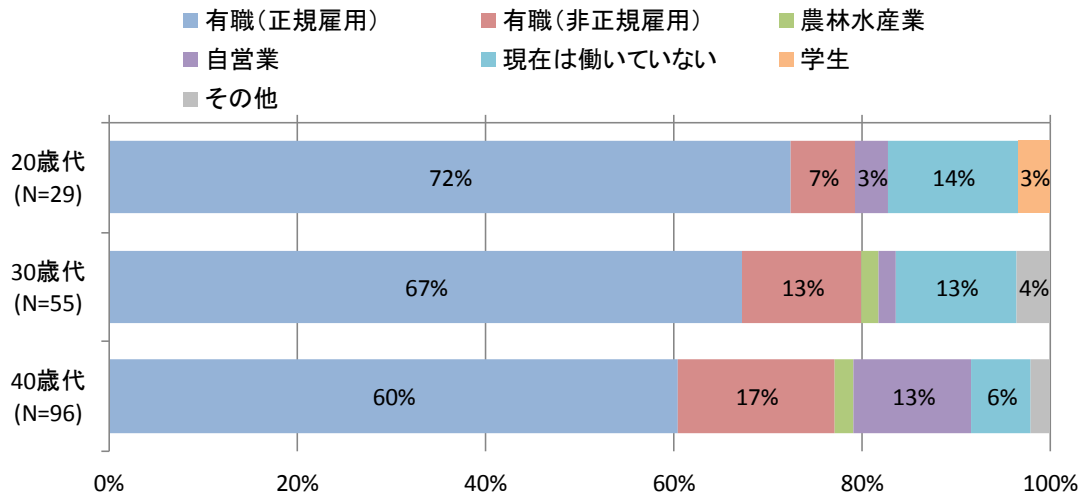
**■ 職業（性別）**

- ・性別では、大きな違いはみられなかった。



**■職業（年代別）**

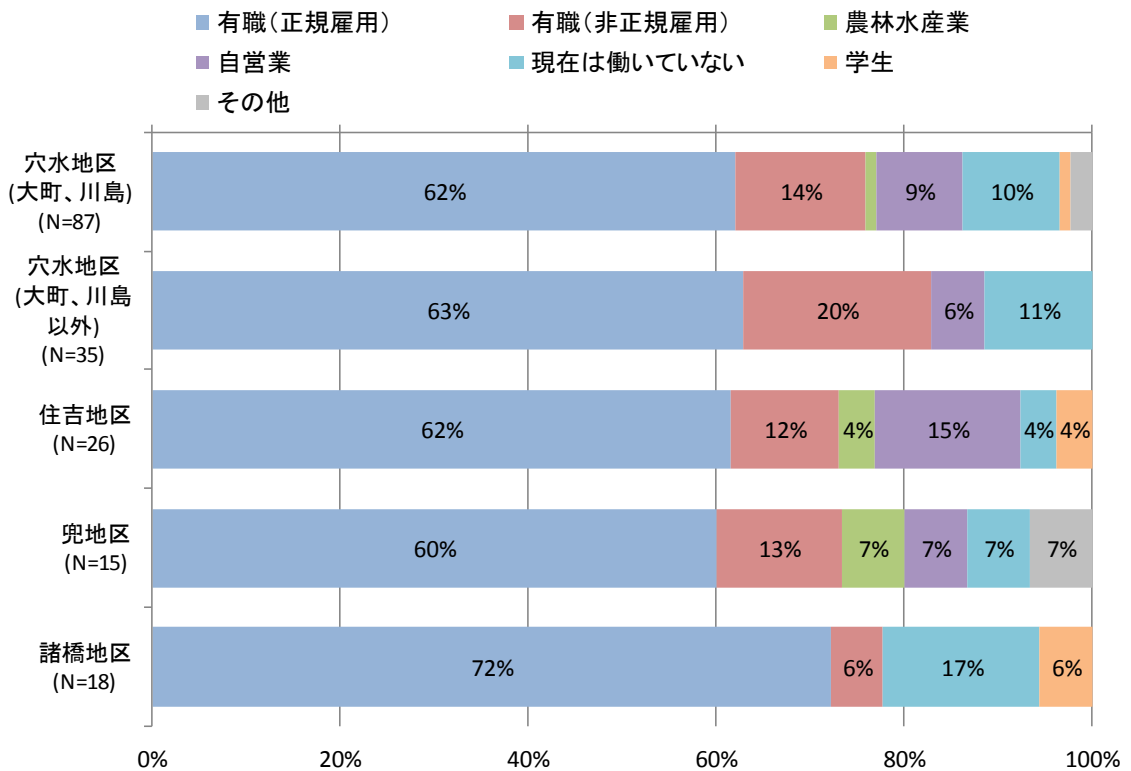
・年代別では、40歳代で「自営業」が13%と、他と比べて10ポイント以上高くなっている。



※3%未満は非表示

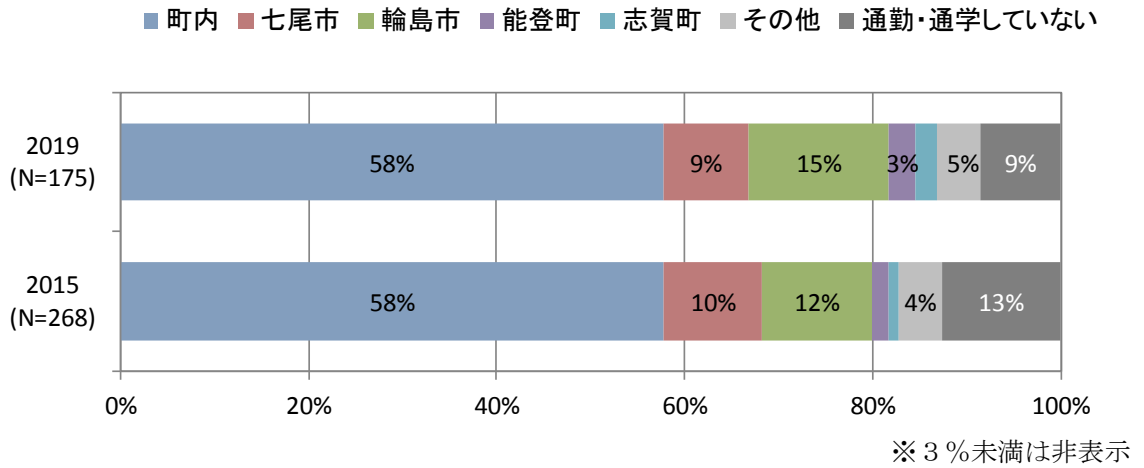
**■職業（居住地別）**

・居住地別では、諸橋地区で「有職（正規雇用）」が72%と、他と比べて9ポイント以上高くなっている。

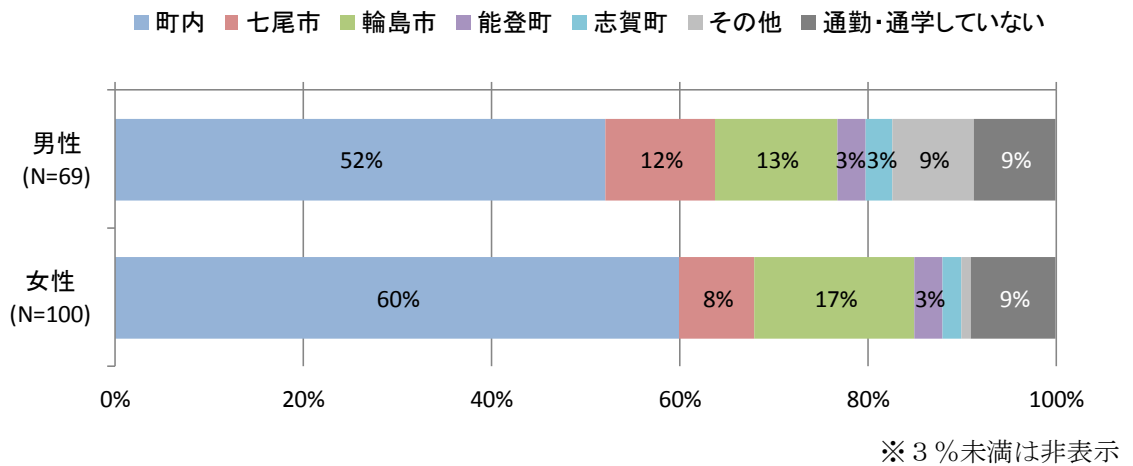


※3%未満は非表示

<b>⑥</b>	<b>通勤・通学先</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「町内」が58%で最も多く、次いで「輪島市」が15%、「七尾市」が9%となっている。</li> <li>・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。</li> </ul>	

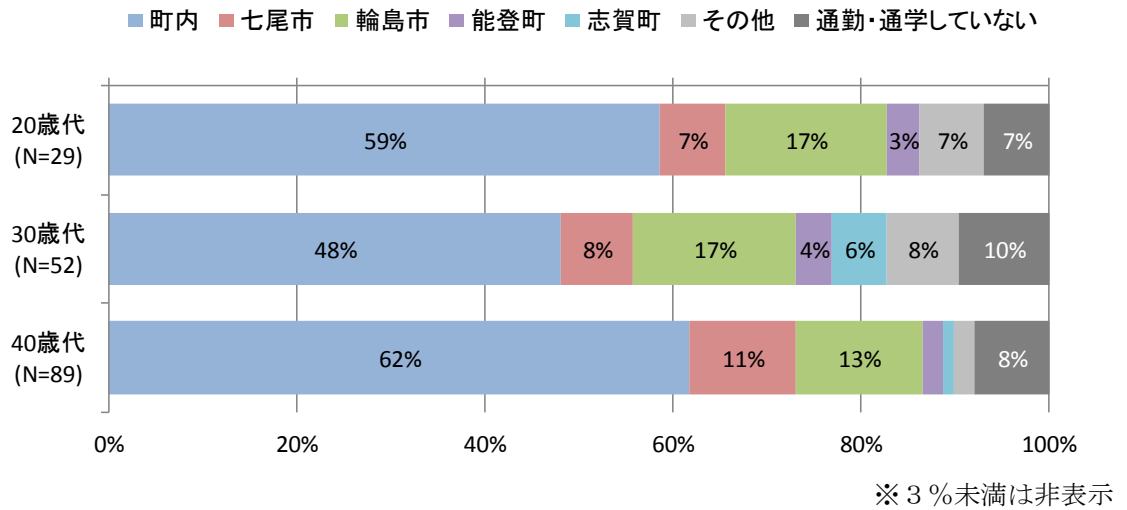


<b>■ 通勤・通学先（性別）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別では、女性で「町内」が60%と、男性と比べて8ポイント高くなっている。</li> </ul>	

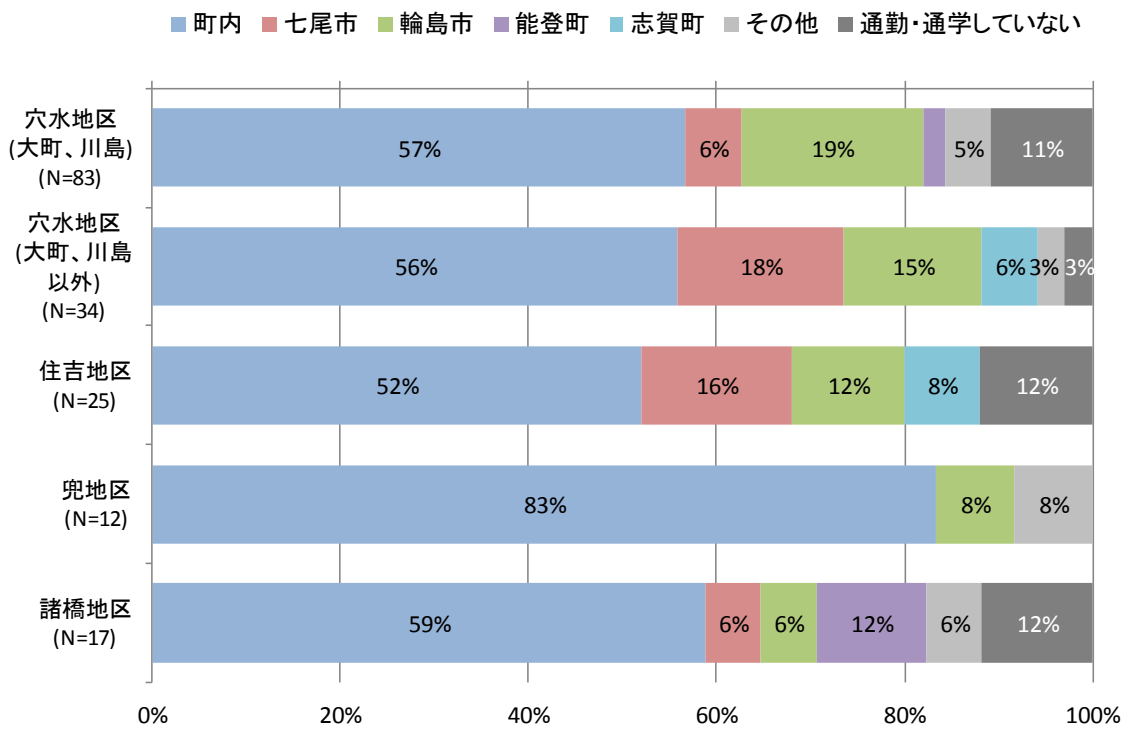




**■通勤・通学先（年代別）**  
 ・年代別では、30歳代で「町内」が48%と、他と比べて11ポイント以上低くなっている。

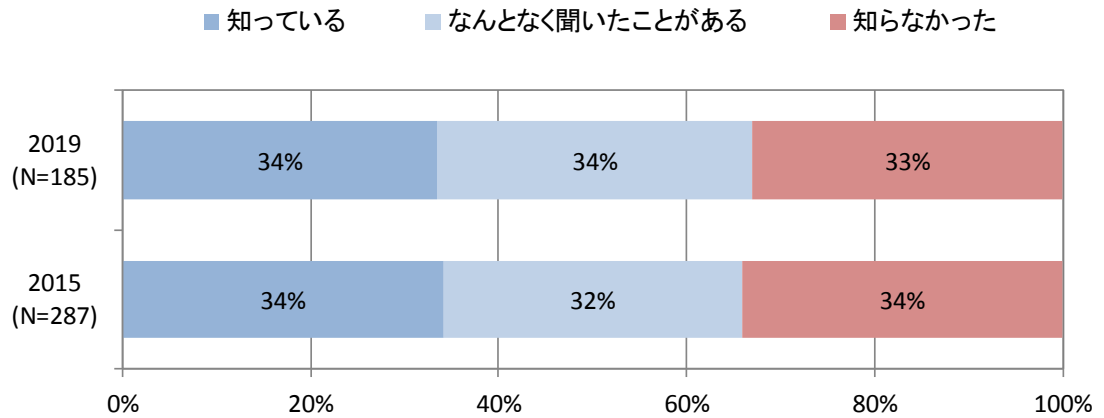


**■通勤・通学先（居住地別）**  
 ・居住地別では、兜地区で「町内」が83%と、他と比べて24ポイント以上高くなっている。

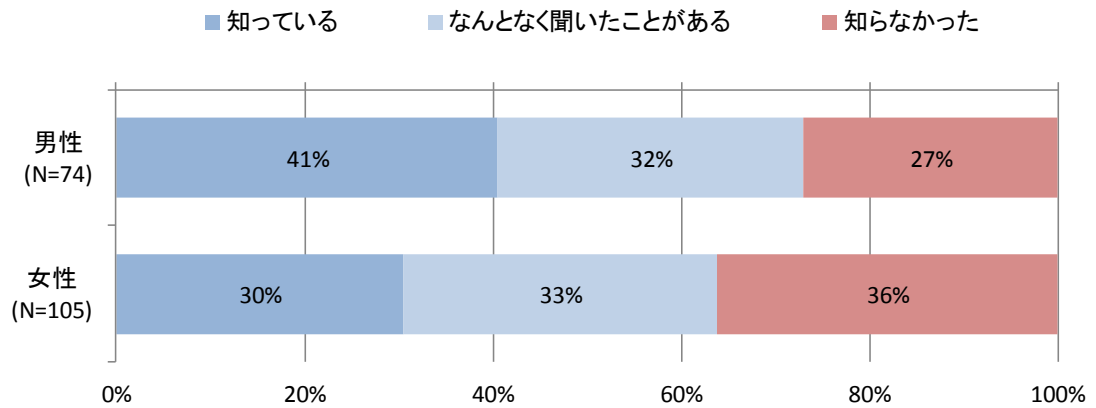


【問2】人口減少に対する意識について

⑦	推計結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知っている」「なんとなく聞いたことがある」がそれぞれ34%で最も多く、次いで「知らなかった」が33%となっている。</li> <li>・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。</li> </ul>

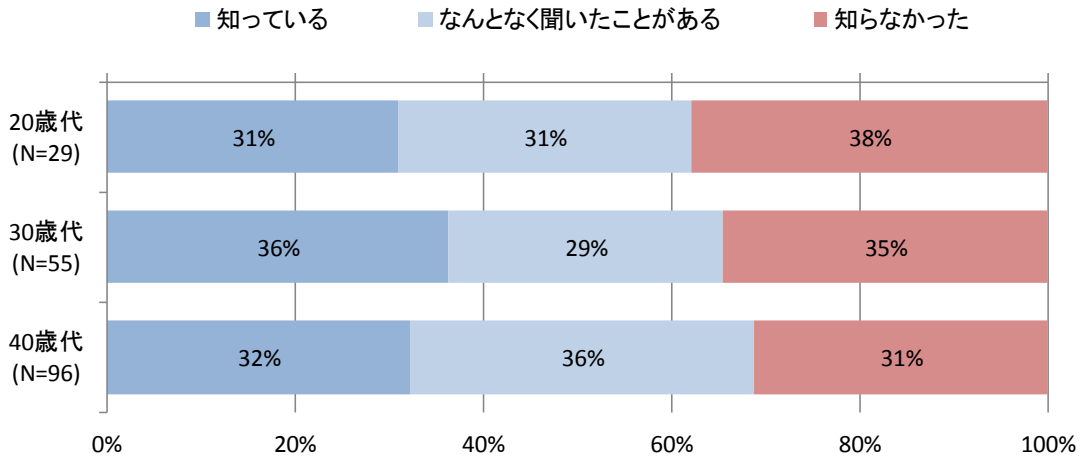


■	推計結果（性別）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別では、男性で「知っている」が41%と、女性と比べて11ポイント高くなっている。</li> </ul>



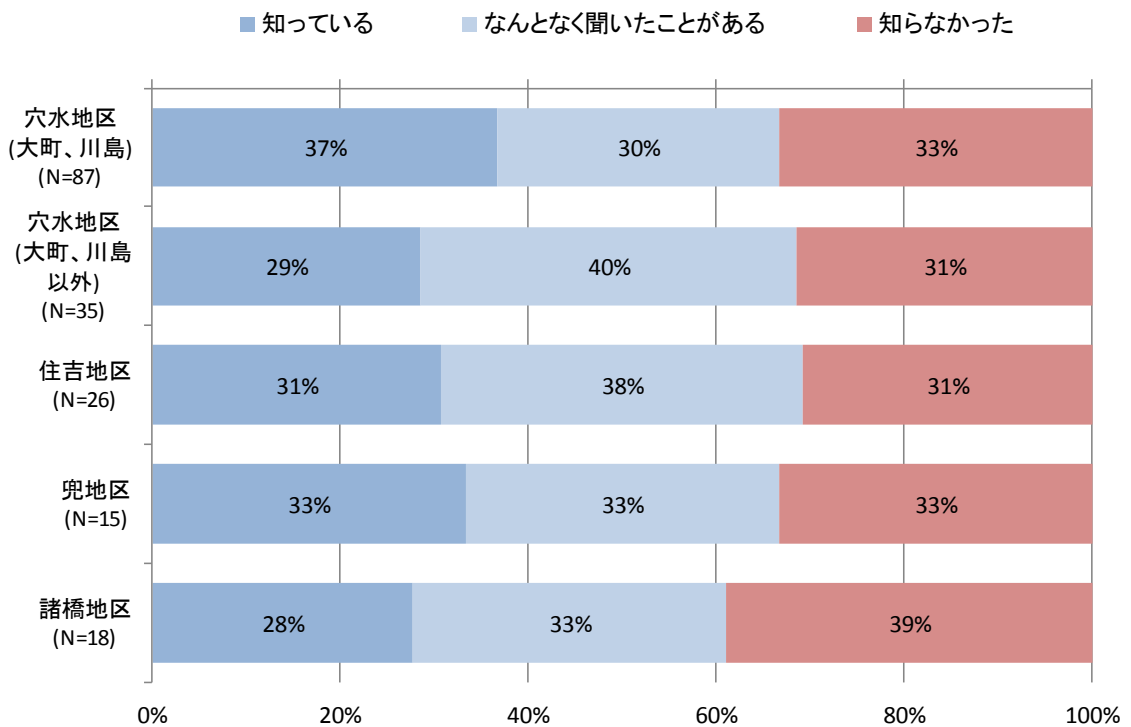
■ 推計結果（年代別）

・年代別では、大きな違いはみられなかった。

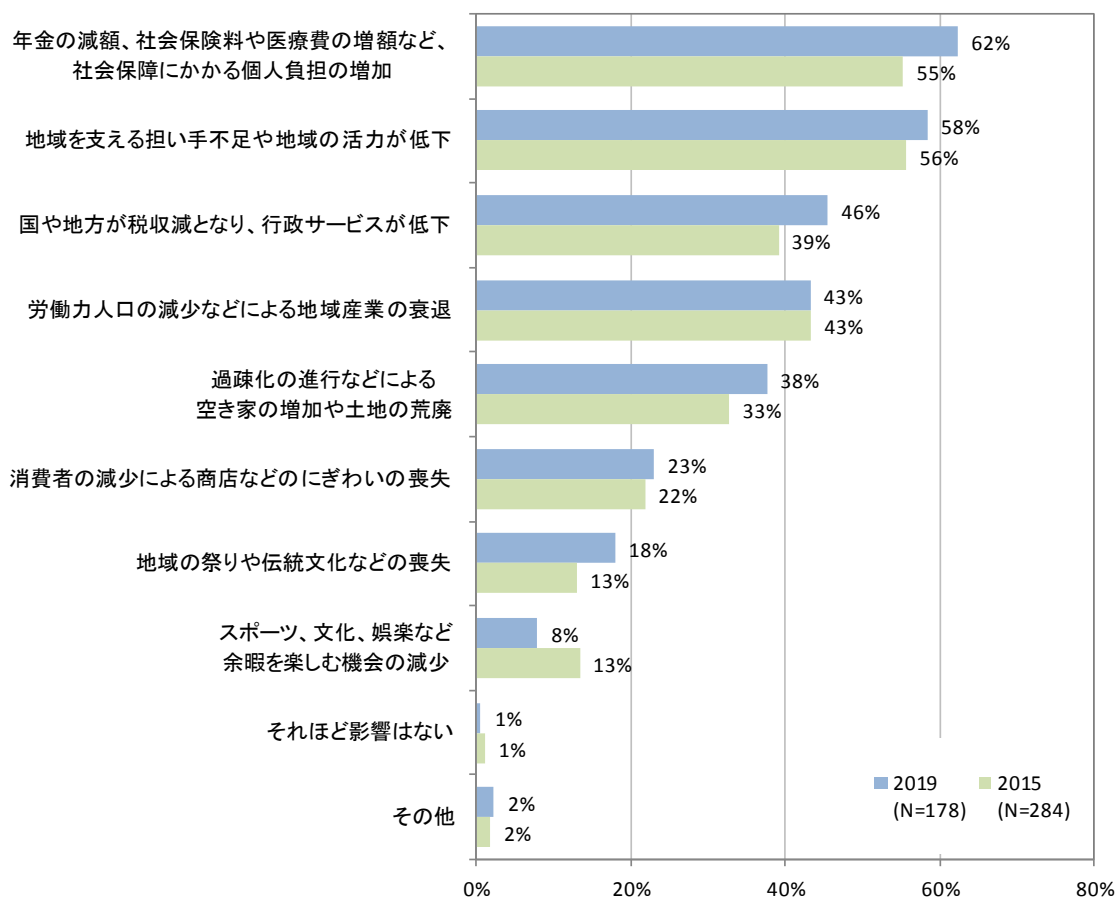


■ 推計結果（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「知らなかった」が39%と、他と比べて6ポイント以上高くなっている。



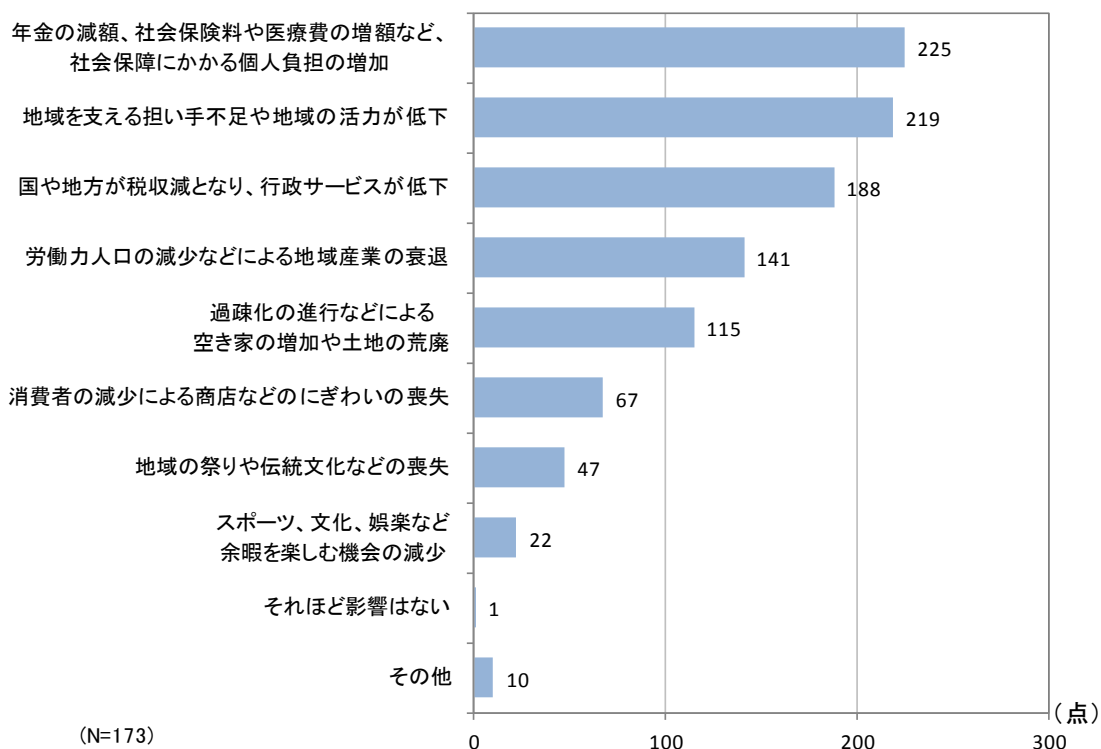
⑧ 社会への影響（3つ以内で回答）	【前回比較】
<p>・前回との比較では、2019年で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が62%、「国や地方が税収減となり、行政サービスが低下」が46%と、2015年と比べて7ポイント高くなっている。</p>	



※集計について

前回調査（2015年）の結果と比較するため、順位を考慮せず集計した。

⑧	社会への影響	【順位付け】
<p>・「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が225点で最も多く、次いで「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」が219点、「国や地方が税収減となり、行政サービスが低下」が188点となっている。</p>		



#### ※算出方法

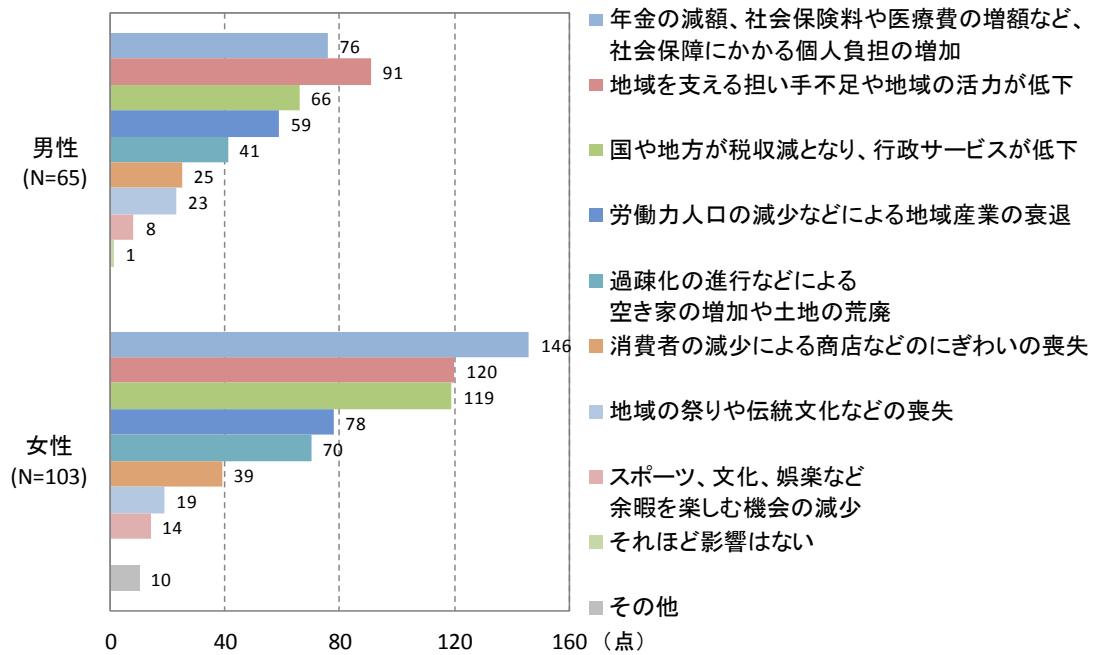
調査票では、1位～3位と順位毎に回答欄を設けており、1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計し、各項目の点数を算出した。

#### ※母数について

1位～3位のうち、2位のみ無回答である等の正確な順位が不明である回答は集計の対象外としているため、18頁の「前回比較」のグラフよりも母数は少なくなる。

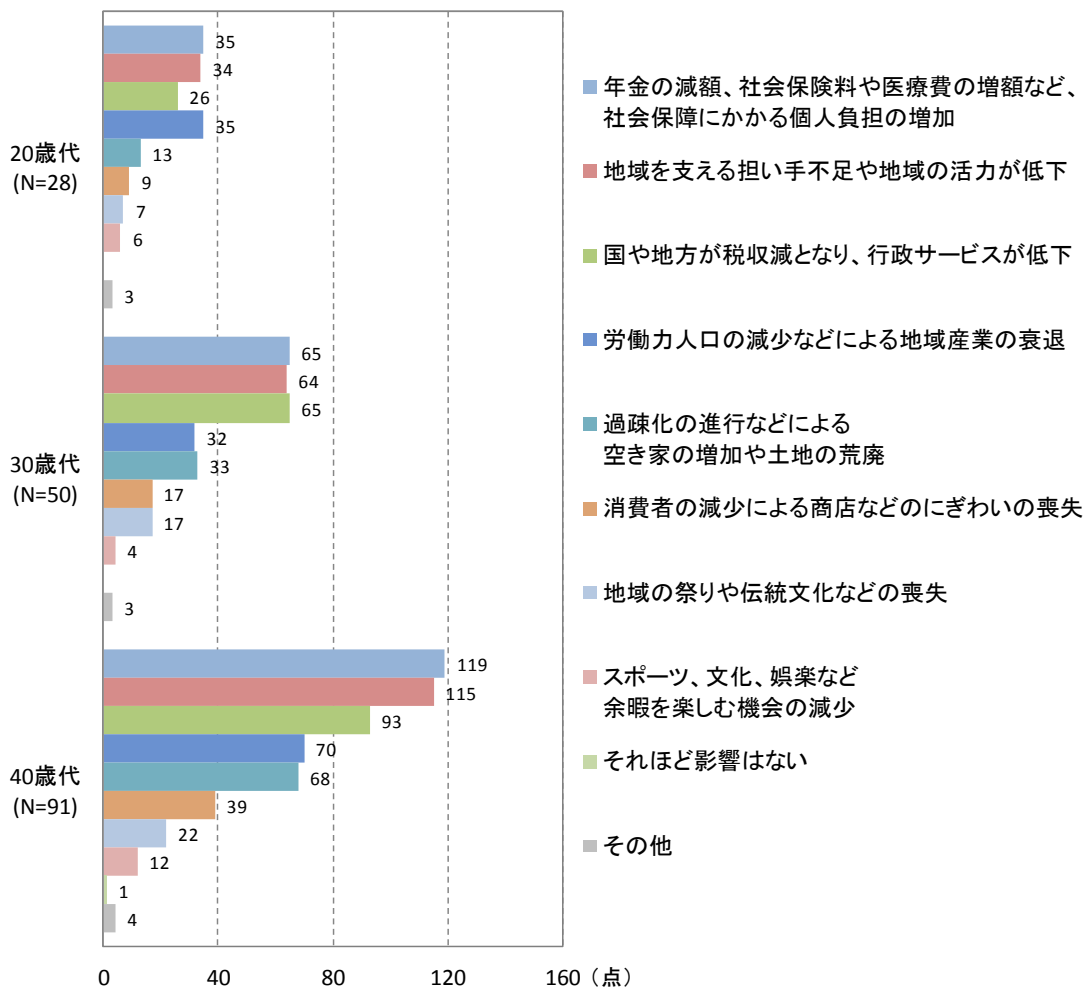
## ■ 社会への影響（性別）

- ・性別では、男性で「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」、女性で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が最も高くなっている。



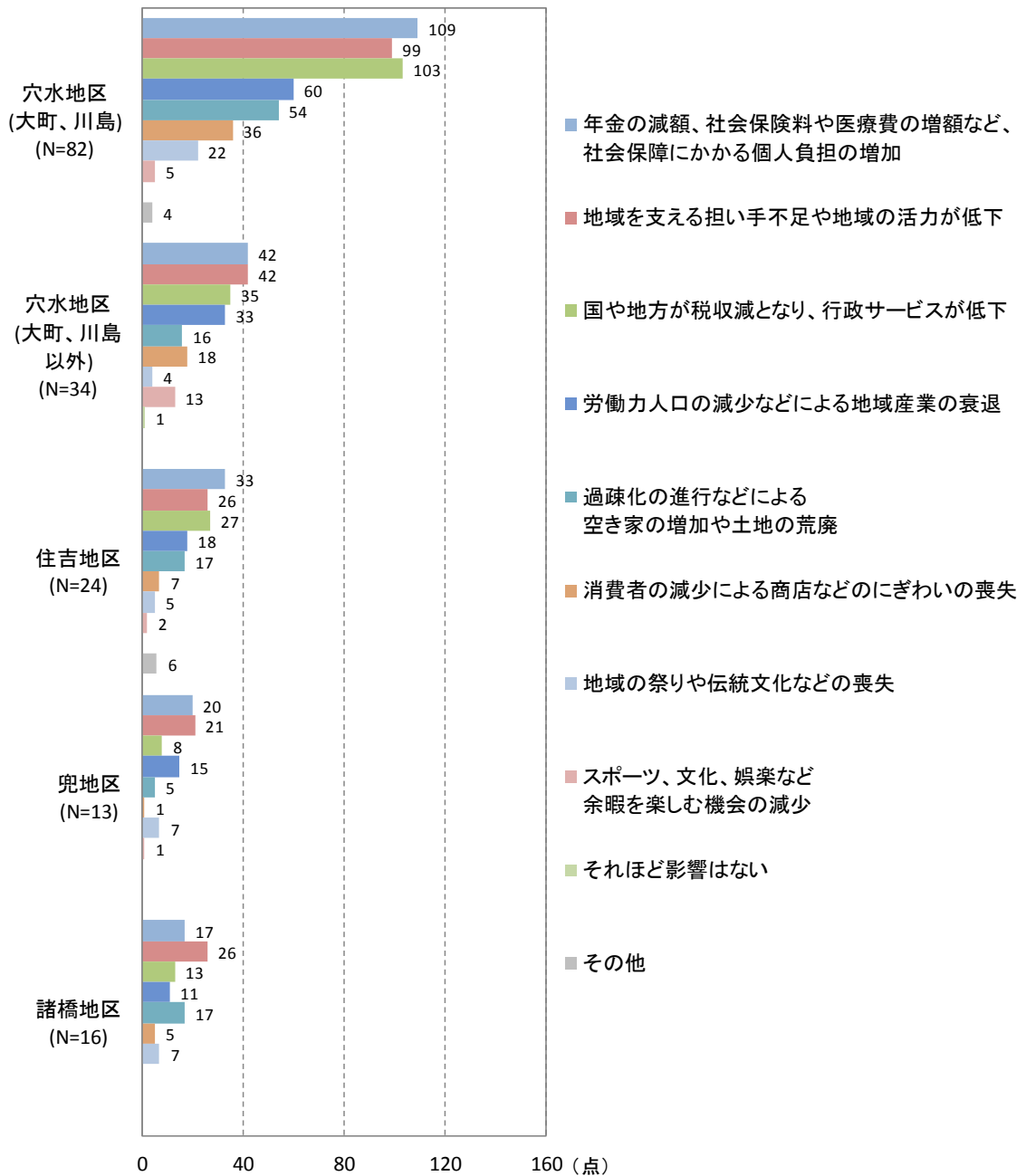
### ■社会への影響（年代別）

・年代別では、全ての年代で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」が最も高くなっている。そのほか、20歳代で「労働力人口の減少などによる地域産業の衰退」、30歳代で「国や地方が税収減となり、行政サービスが低下」も高くなっている。



## ■社会への影響（居住地別）

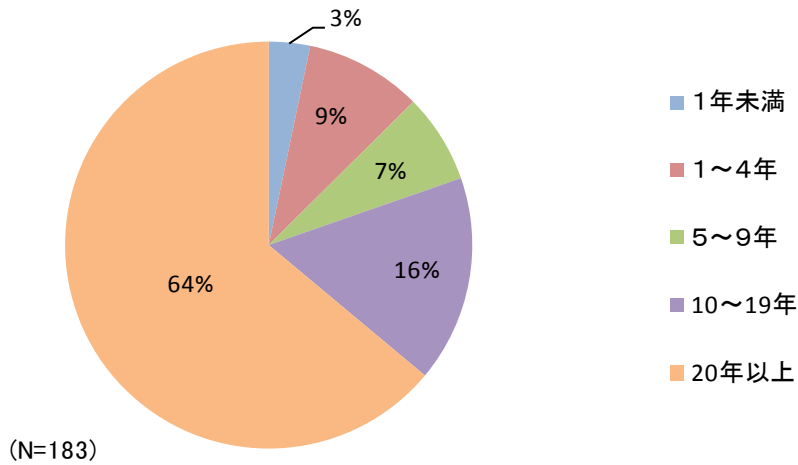
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）、穴水地区（大町、川島以外）、住吉地区で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人負担の増加」、穴水地区（大町、川島以外）、兜地区、諸橋地区で「地域を支える担い手不足や地域の活力が低下」が最も高くなっている。



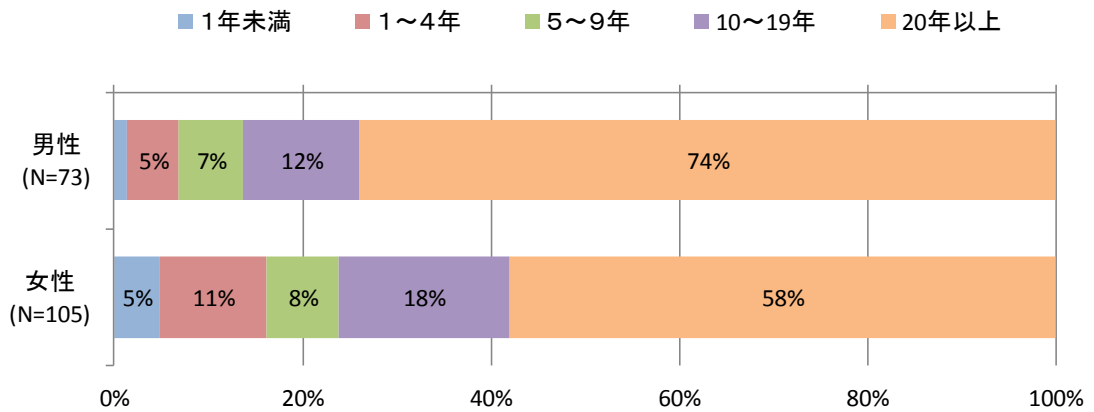


【問3】穴水町の居住・魅力について

⑨	居住年数	【新規設問】
<p>・「20年以上」が64%で最も多く、次いで「10～19年」が16%、「1～4年」が9%となっている。</p>		



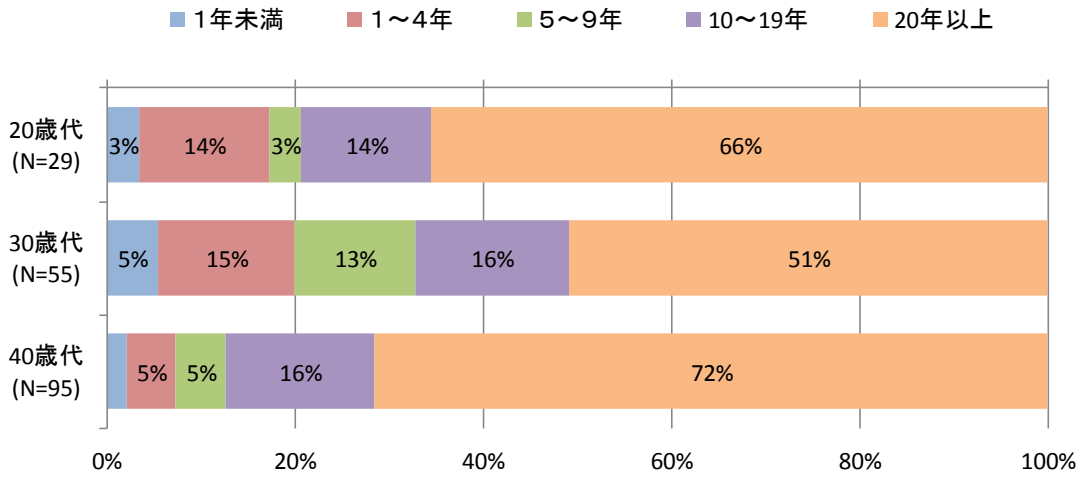
■ 居住年数（性別）
<p>・性別では、男性で「20年」が74%と、女性と比べて16ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■ 居住年数（年代別）

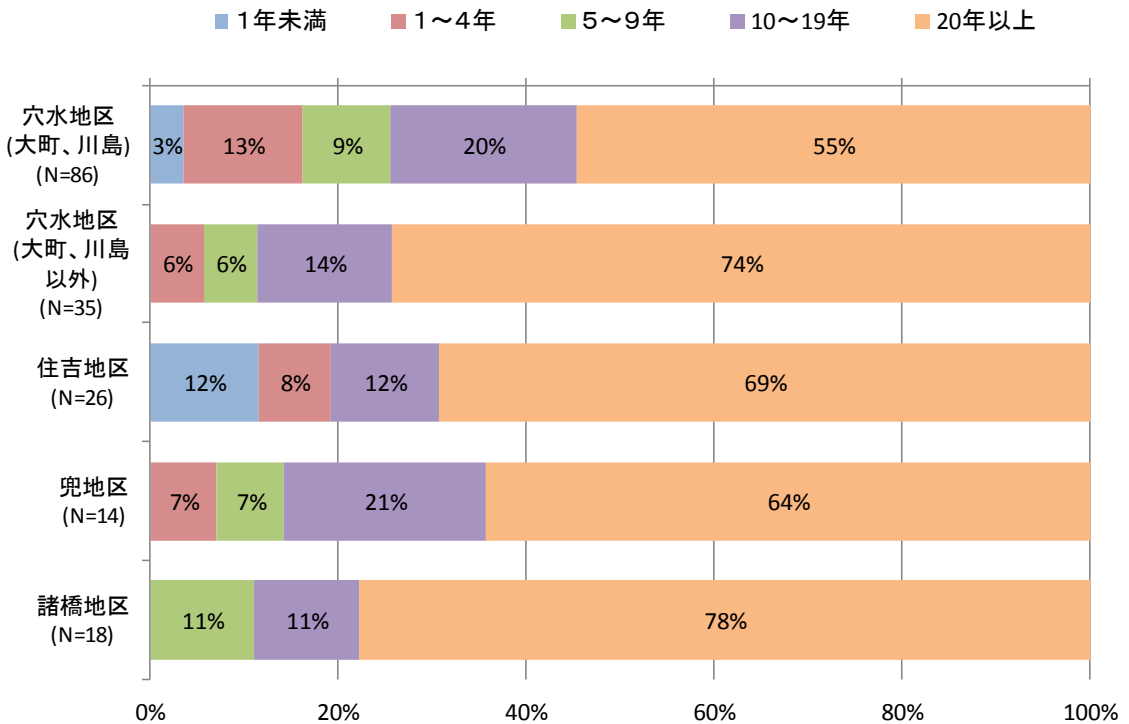
・年代別では、30歳代で「20年以上」が51%と、他と比べて15ポイント以上低くなっている。



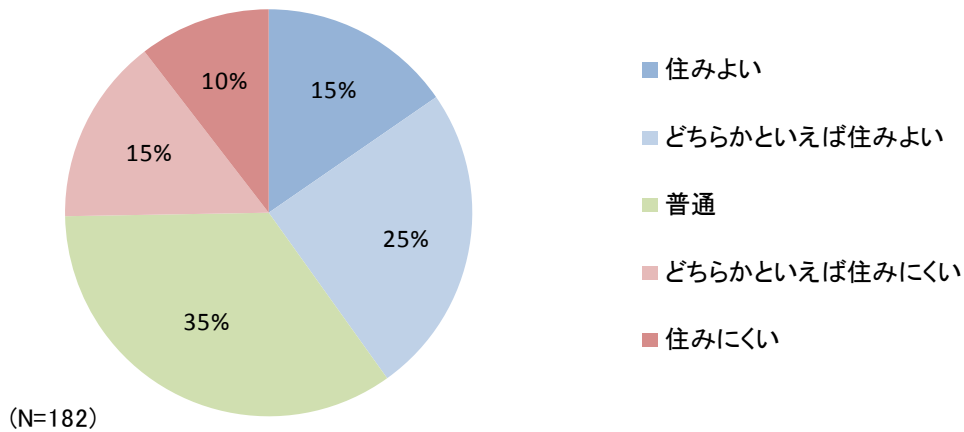
※ 3%未満は非表示

■ 居住年数（居住地別）

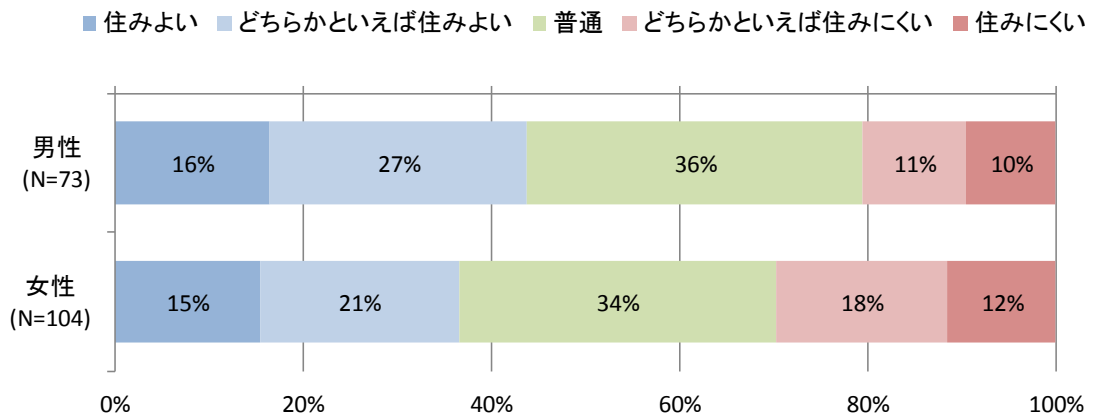
・居住地別では、住吉地区で「1年未満」が12%と、他と比べて9ポイント以上高くなっている。



⑩ 住み心地	【新規設問】
<p>・「普通」が35%で最も多く、次いで「どちらかといえば住みよい」が25%、「住みよい」「どちらかといえば住みにくい」が15%となっている。</p>	

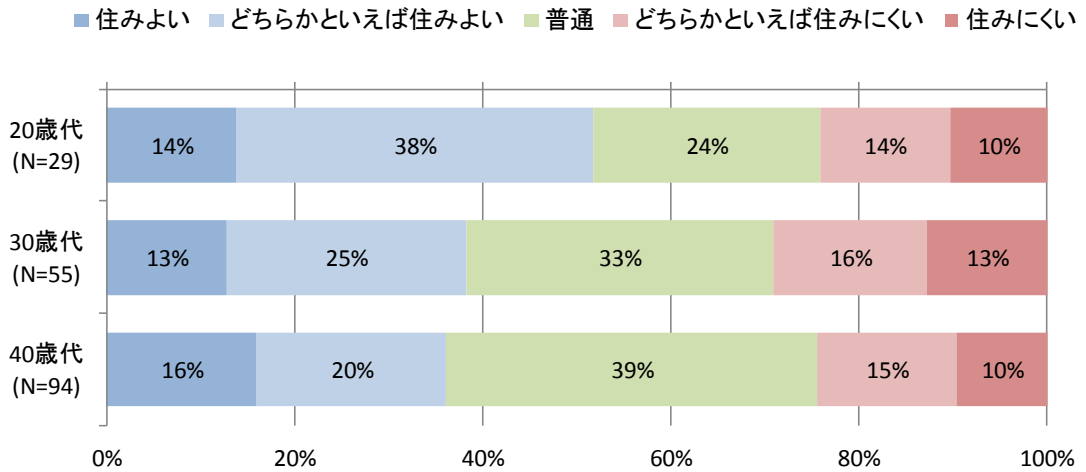


■ 住み心地 (性別)
<p>・性別では、女性で「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の合計が30%と、男性の合計と比べて9ポイント高くなっている。</p>



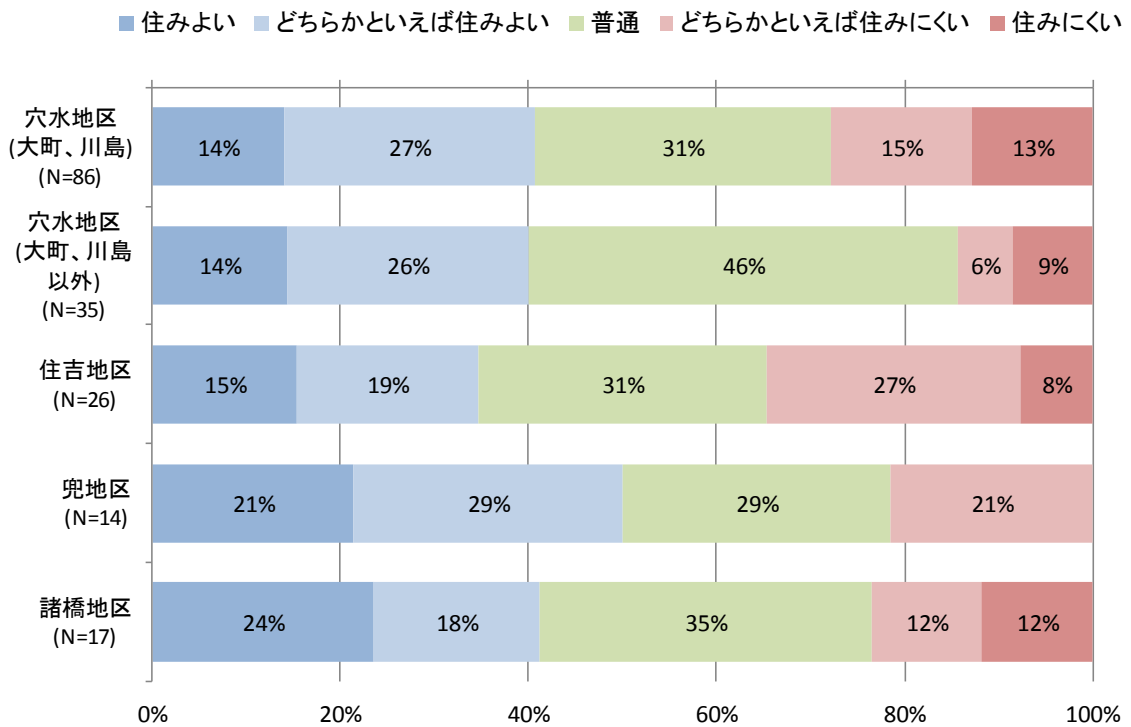
### ■ 住み心地（年代別）

・年代別では、20歳代で「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計が52%と、他の合計と比べて14ポイント以上高くなっている。



### ■ 住み心地（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計が50%と、他の合計と比べて8ポイント以上高くなっている。

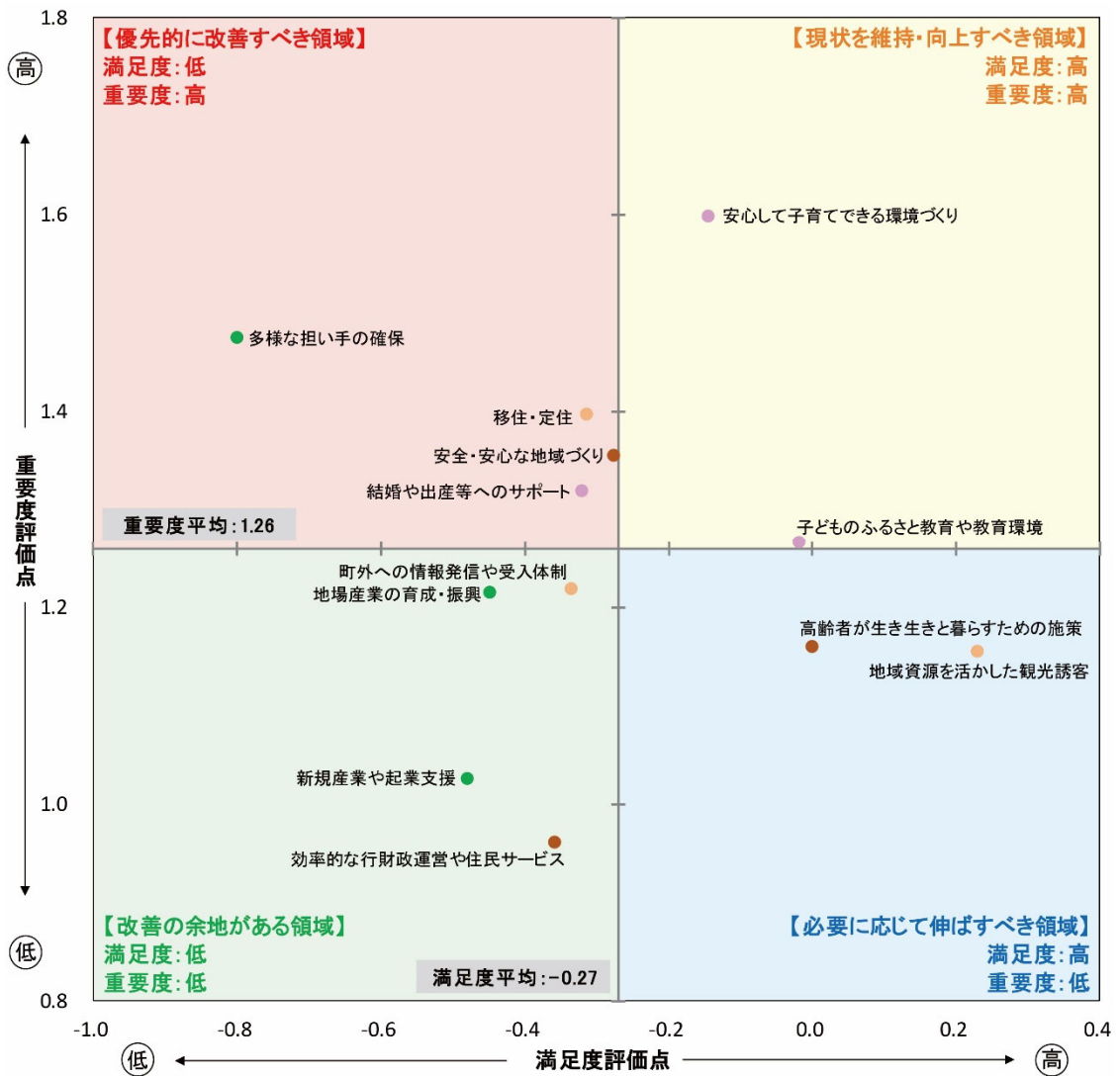


⑪	穴水町の自慢（3つ以内で自由回答）
<p>・「祭り（81件）」、「自然（46件）」、「空港（33件）」に関する回答が多く、「祭り」では主に「カキ祭り」「まいもん祭り」等が回答されている。</p>	

項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=344)	2015年 (N=472)	
祭り	81	96	カキ祭り まいもん祭り
自然	46	38	自然が豊か 海と山がある
空港	33	29	のと里山空港
食べ物	27	38	食べ物がおいしい 魚がおいしい
ボラ待ちやぐら	17	14	ボラ待ちやぐら
交通	15	19	奥能登の交通の要所
人柄	14	11	人が優しい
海	13	25	海がきれい
カキ	11	74	カキ
ワイン	10	22	のとワイン
能登長寿大仏	9	-	能登大仏
遠藤関 (幕内力士)	9	38	遠藤関
治安	8	3	安心して生活できる
施設	8	7	病院がある
子育て・教育	7	-	子どもの医療費無償化
景観	6	6	きれいな景色が所々ある
星空	5	10	星がきれい
時間	3	-	のんびりした時間がある
釣り	3	-	釣りができる
スポーツ	2	4	スポーツが(人口の割には)盛ん
鹿島駅	1	3	のと鹿島駅の桜
のと鉄道	1	6	廃止にならずに鉄道があること
特になし	-	3	-
いさざ	-	3	-
その他	15	23	素朴なところ 福祉の充実

【問4】人口減少対策の施策や具体的な取組について

⑫ 施策に対する満足度と重要度	【新規設問】
<p>・満足度が低く重要度が高い「優先的に改善すべき」項目は、「多様な担い手の確保」「移住・定住」「安全・安心な地域づくり」「結婚や出産等へのサポート」となっている。</p>	



※評価点の算出方法

- ・満足度と重要度については、下記の計算式にあるように数段階の評価に点数を与え、評価点を算出した。ただし、無回答については除外した。
- ・点数が高いほど満足度、重要度が高く、反対に点数が低いほど満足度、重要度は低い。

【評価点の算出式】

満足度評価点 = {満足である × (2点) + やや満足である × (1点) + やや不満である × (-1点) + 不満である × (-2点) + わからない × (0点)} ÷ 回答者数

重要度評価点 = {重要である × (2点) + やや重要である × (1点) + あまり重要でない × (-1点) + 重要でない × (-2点)} ÷ 回答者数

■ 満足度及び重要度の評価点一覧

	評価項目		満足度	重要度
基本 目標 1	1	地場産業の育成・振興に関する施策	-0.45	1.22
	2	新規産業や起業支援に関する施策	-0.48	1.03
	3	多様な担い手の確保に関する施策	-0.80	1.47
基本 目標 2	4	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	0.23	1.15
	5	町外への情報発信や受入体制に関する施策	-0.34	1.22
	6	移住・定住に関する施策	-0.31	1.40
基本 目標 3	7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	-0.32	1.32
	8	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	-0.14	1.60
	9	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	-0.02	1.27
基本 目標 4	10	安全・安心な地域づくりに関する施策	-0.28	1.35
	11	高齢者が生き生きと暮らすための施策	0.00	1.16
	12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	-0.36	0.96
平均			-0.27	1.26

## ■ 満足度の回答数一覧

	評価項目	わからない	不満	やや不満	やや満足	満足	回答者数	満足度
1	地場産業の育成・振興に関する施策	68	35	42	24	5	174	-0.448
2	新規産業や起業支援に関する施策	77	30	46	17	3	173	-0.480
3	多様な担い手の確保に関する施策	49	54	52	17	2	174	-0.799
4	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	28	14	41	73	18	174	0.230
5	町外への情報発信や受入体制に関する施策	46	31	49	41	6	173	-0.335
6	移住・定住に関する施策	48	34	41	43	6	172	-0.314
7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	68	26	45	31	5	175	-0.320
8	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	47	30	37	46	13	173	-0.145
9	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	60	21	31	52	9	173	-0.017
10	安全・安心な地域づくりに関する施策	58	25	47	39	5	174	-0.276
11	高齢者が生き生きと暮らすための施策	57	18	35	57	7	174	0.000
12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	65	29	43	33	3	173	-0.358

## ■ 満足度のランキング

順位	評価項目	満足度
1	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	0.230
2	高齢者が生き生きと暮らすための施策	0.000
3	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	-0.017
4	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	-0.145
5	安全・安心な地域づくりに関する施策	-0.276
6	移住・定住に関する施策	-0.314
7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	-0.320
8	町外への情報発信や受入体制に関する施策	-0.335
9	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	-0.358
10	地場産業の育成・振興に関する施策	-0.448
11	新規産業や起業支援に関する施策	-0.480
12	多様な担い手の確保に関する施策	-0.799



### ■重要度の回答数一覧

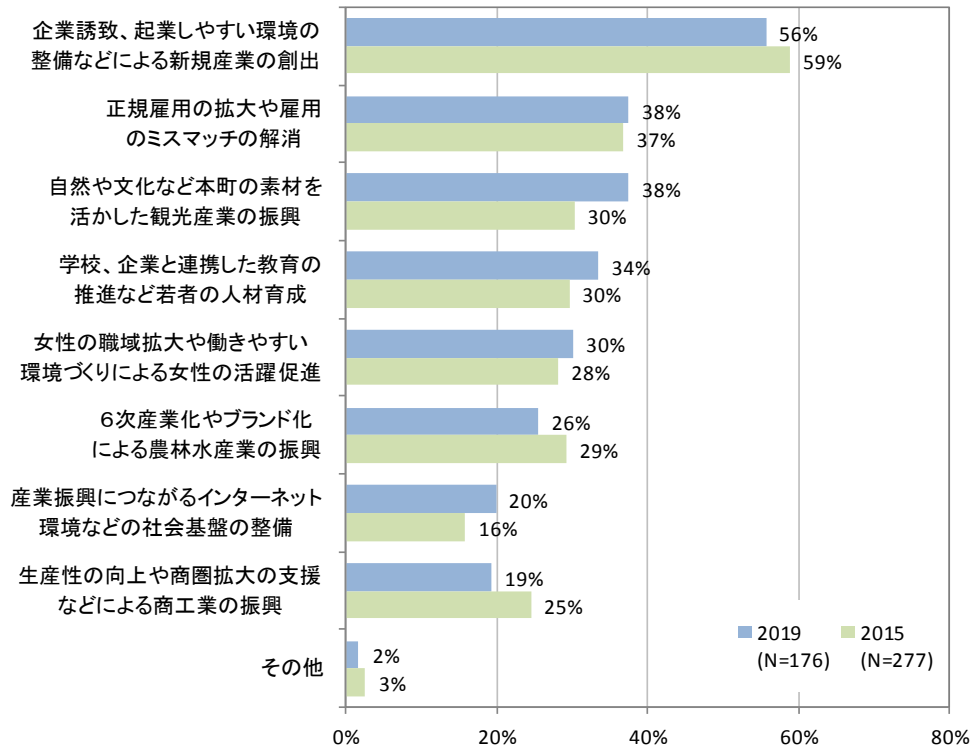
	評価項目	重要でない	あまり重要でない	やや重要	重要	回答者数	重要度
1	地場産業の育成・振興に関する施策	3	14	70	71	158	1.215
2	新規産業や起業支援に関する施策	6	18	75	58	157	1.025
3	多様な担い手の確保に関する施策	0	7	62	89	158	1.475
4	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	2	17	72	64	155	1.155
5	町外への情報発信や受入体制に関する施策	1	12	82	61	156	1.218
6	移住・定住に関する施策	2	12	52	93	159	1.396
7	結婚や出産等へのサポートに関する施策	2	14	57	84	157	1.318
8	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	2	4	44	109	159	1.597
9	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	3	15	59	81	158	1.266
10	安全・安心な地域づくりに関する施策	2	8	70	78	158	1.354
11	高齢者が生き生きと暮らすための施策	6	14	66	71	157	1.159
12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	8	22	62	62	154	0.961

### ■重要度のランキング

順位	評価項目	重要度
1	安心して子育てできる環境づくりに関する施策	1.597
2	多様な担い手の確保に関する施策	1.475
3	移住・定住に関する施策	1.396
4	安全・安心な地域づくりに関する施策	1.354
5	結婚や出産等へのサポートに関する施策	1.318
6	子どものふるさと教育や教育環境に関する施策	1.266
7	町外への情報発信や受入体制に関する施策	1.218
8	地場産業の育成・振興に関する施策	1.215
9	高齢者が生き生きと暮らすための施策	1.159
10	地域資源を活かした観光誘客に関する施策	1.155
11	新規産業や起業支援に関する施策	1.025
12	効率的な行財政運営や住民サービスに関する施策	0.961

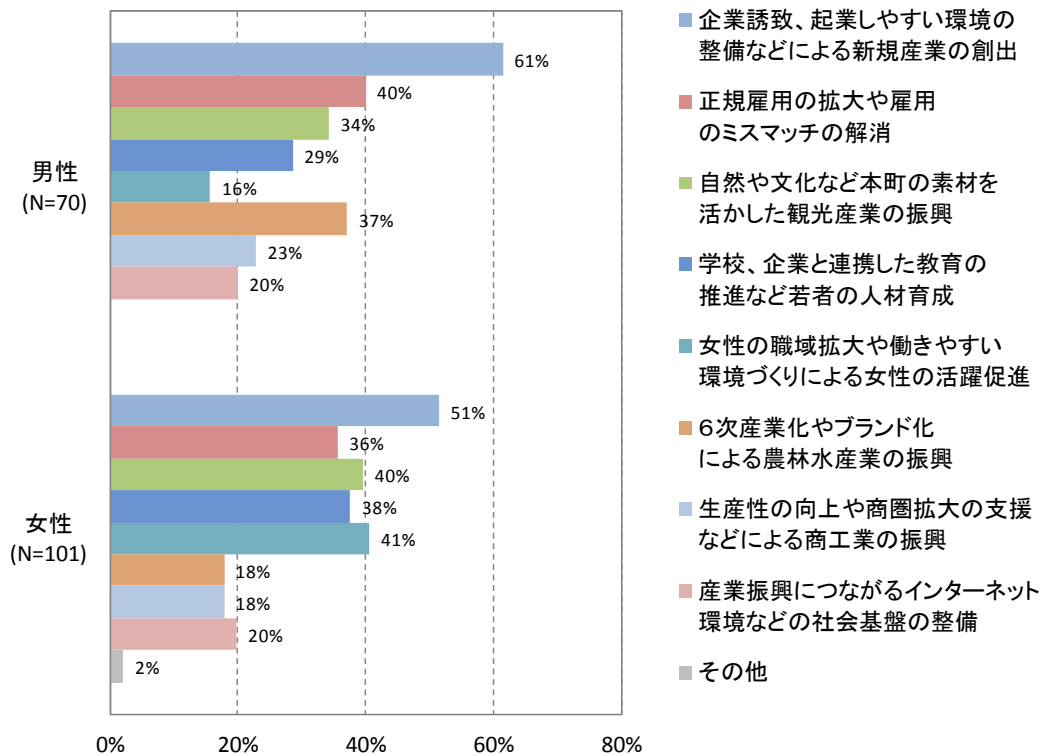
⑬ 地域の雇用創出や経済活性化の取組（3つ以内で回答）

- ・「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が56%で最も多く、次いで「正規雇用の拡大や雇用のミスマッチの解消」「自然や文化など本町の素材を活かした観光産業の振興」が38%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「自然や文化など本町の素材を活かした観光産業の振興」が38%と、2015年と比べて8ポイント高くなっている。



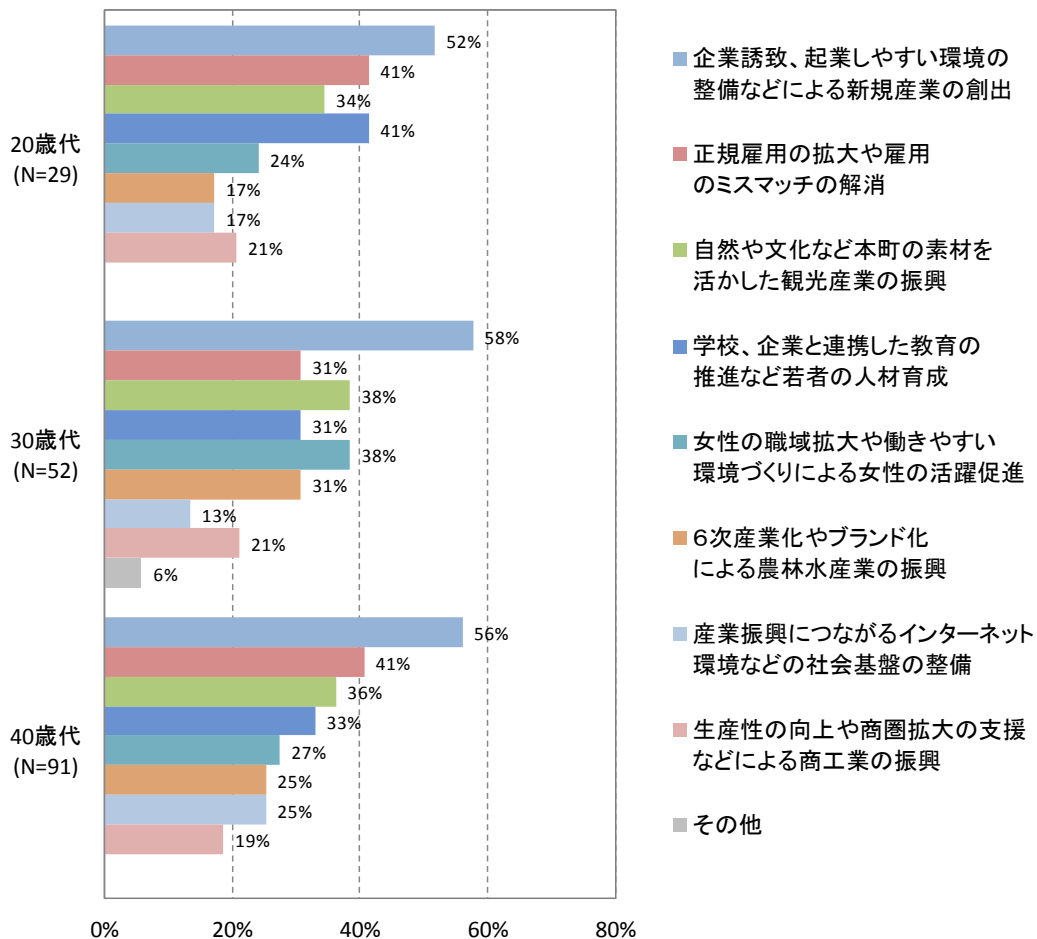
■地域の雇用創出や経済活性化の取組（性別）

・性別では、女性で「女性の職域拡大や働きやすい環境づくりによる女性の活躍促進」が41%と、男性と比べて25ポイント高くなっている。



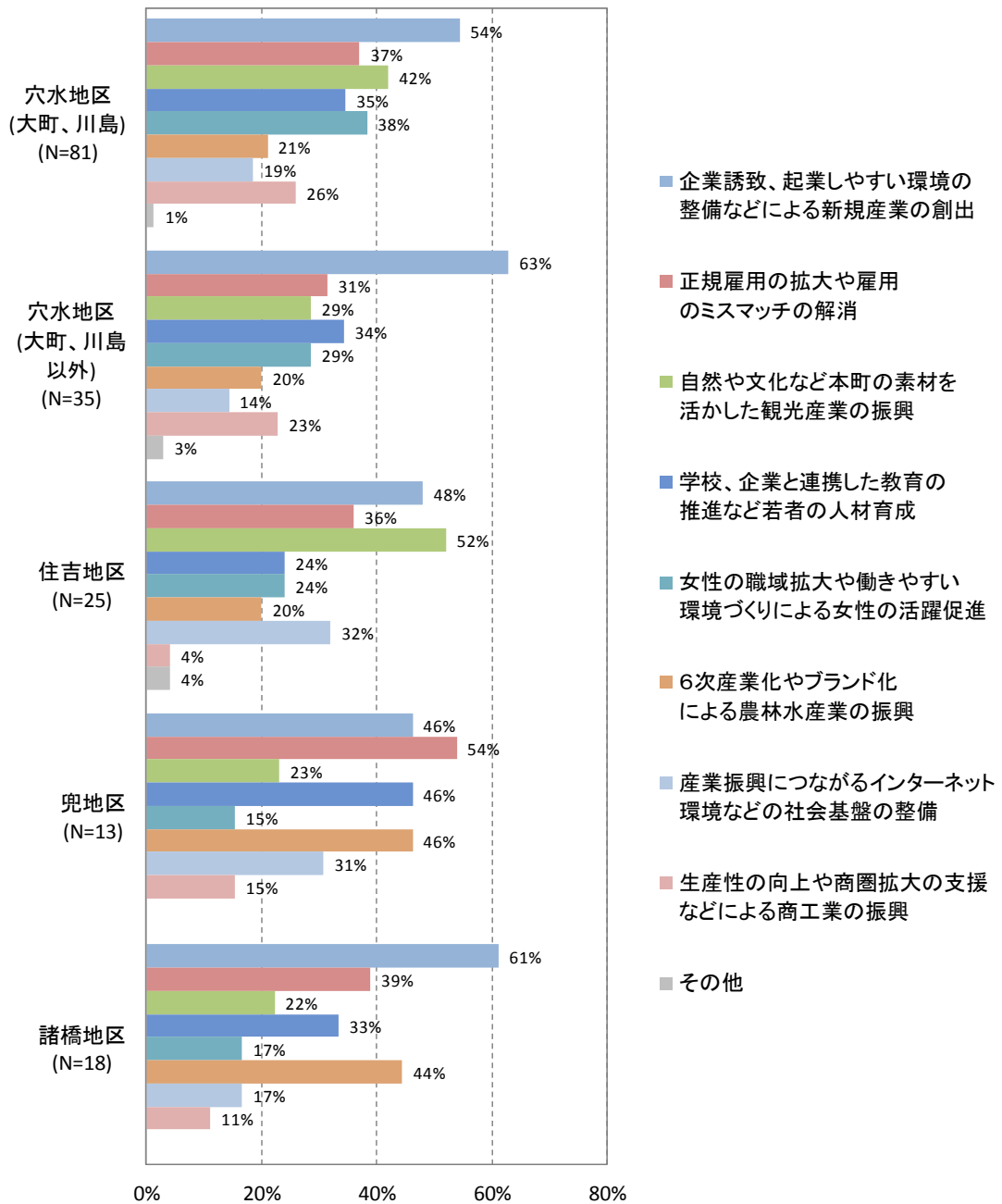
■地域の雇用創出や経済活性化の取組（年代別）

・年代別では、30歳代で「女性の職域拡大や働きやすい環境づくりによる女性の活躍促進」が38%と、他と比べて11ポイント以上高くなっている。



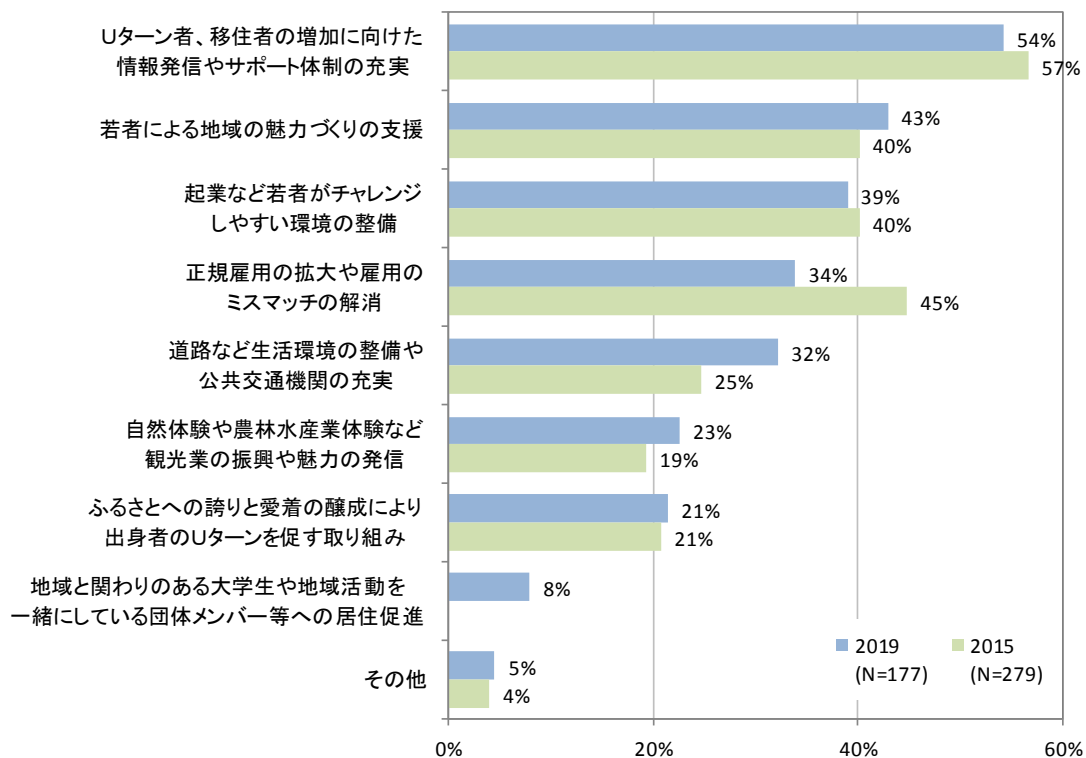
■地域の雇用創出や経済活性化の取組（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「正規雇用の拡大や雇用のミスマッチの解消」が54%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。



⑭ 来訪・移住・定住促進の取組（3つ以内で回答）

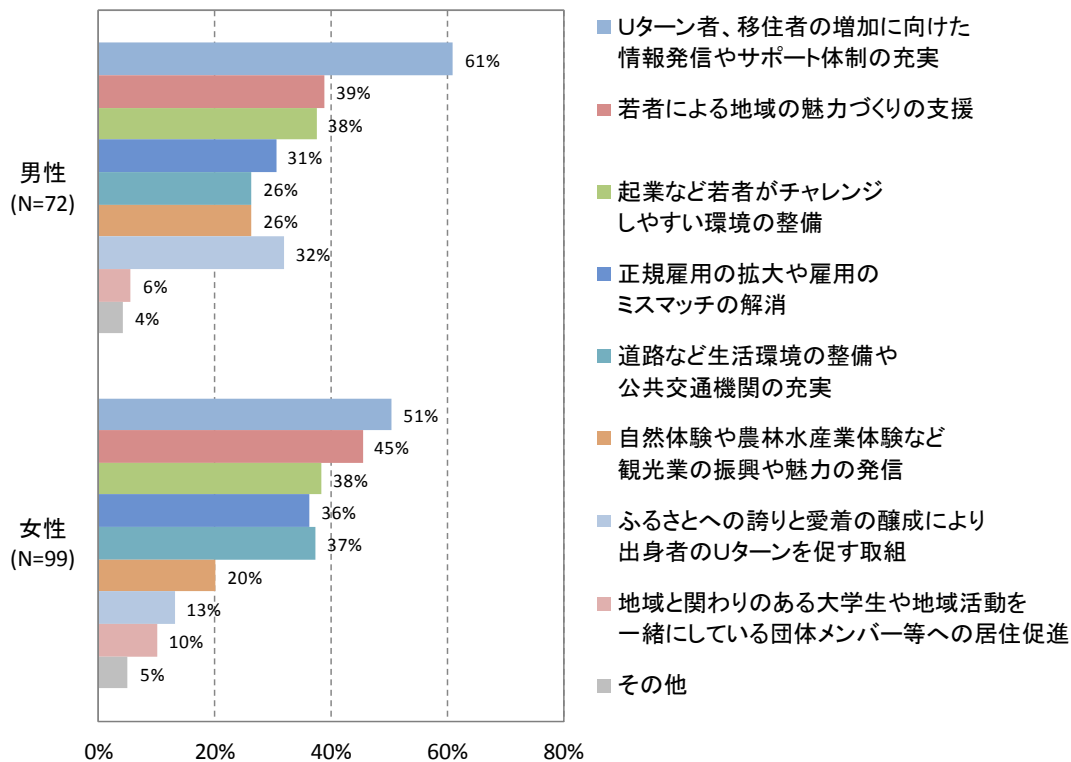
- ・「Uターン者、移住者の増加に向けた情報発信やサポート体制の充実」が54%で最も多く、次いで「若者による地域の魅力づくりの支援」が43%、「起業など若者がチャレンジしやすい環境の整備」が39%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「正規雇用の拡大や雇用のミスマッチの解消」が34%と、2015年と比べて11ポイント低くなっている。



※本調査（2019年）では、前回調査（2015年）から「地域と関わりのある大学生や地域活動と一緒にしている団体メンバー等への居住促進」の選択肢を追加している。

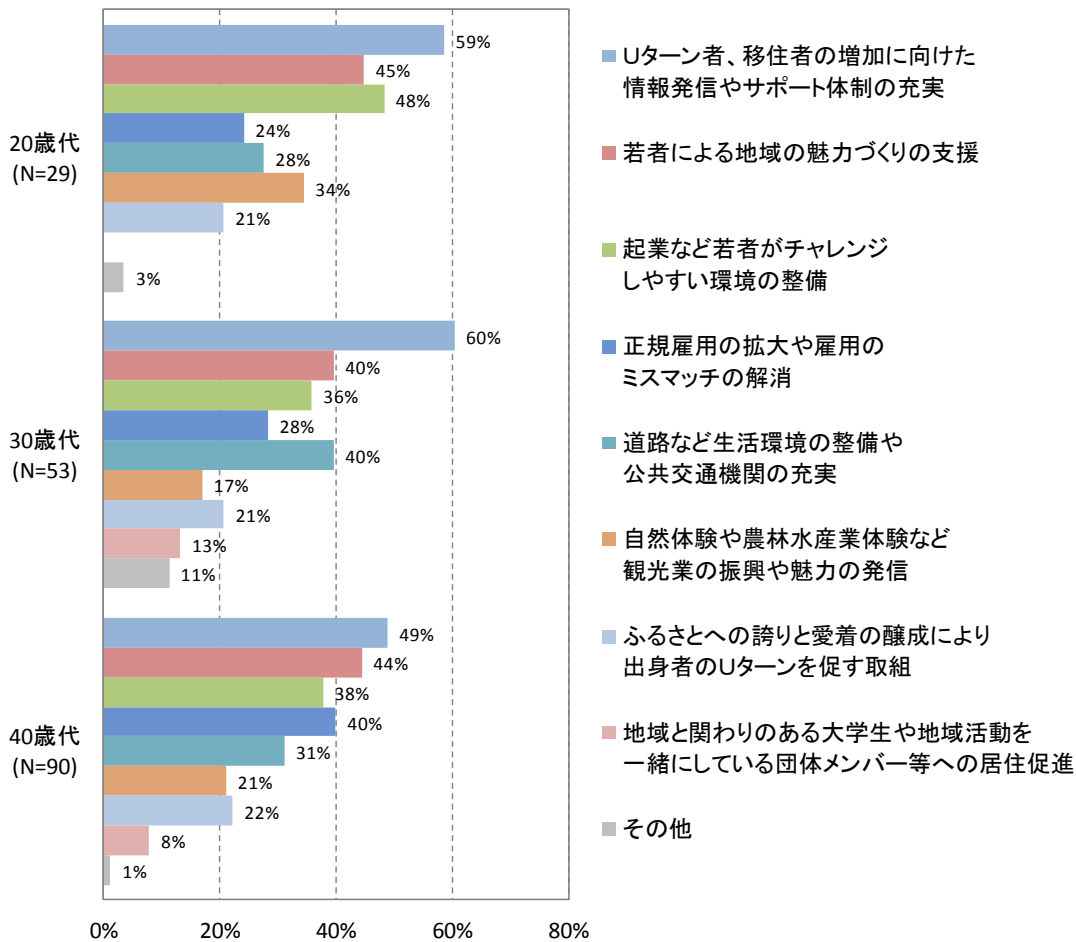
■ 来訪・移住・定住促進の取組（性別）

・性別では、男性で「ふるさとへの誇りと愛着の醸成により出身者のUターンを促す取組」が32%と、女性と比べて19ポイント高くなっている。



■ 来訪・移住・定住促進の取組（年代別）

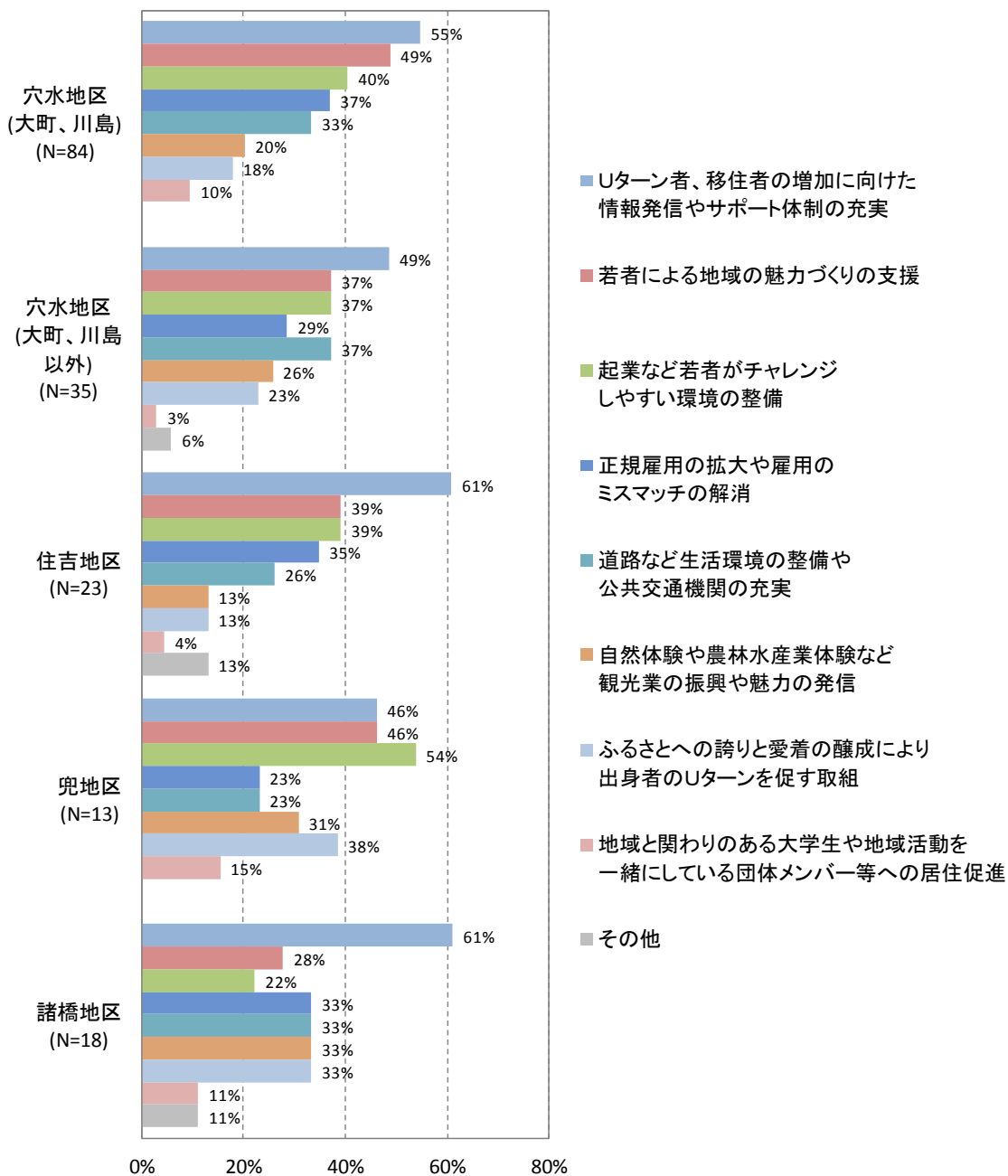
・年代別では、20歳代で「自然体験や農林水産業体験など観光業の振興や魅力の発信」が34%と、他と比べて13ポイント以上高くなっている。





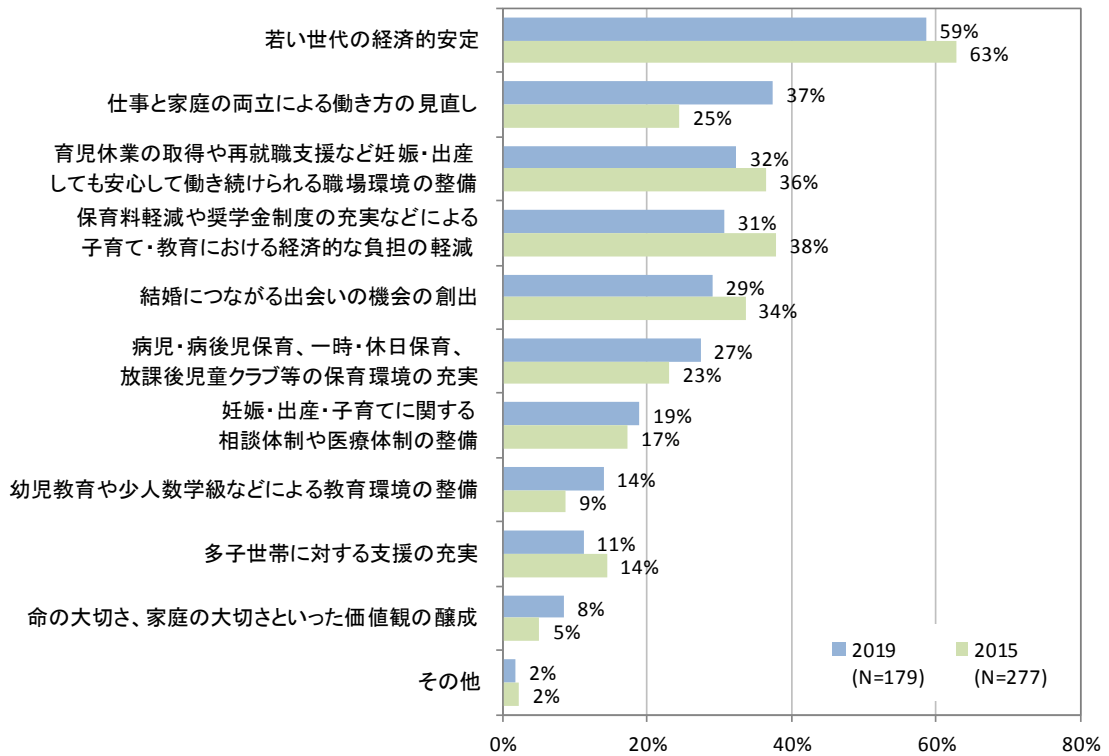
■ 来訪・移住・定住促進の取組（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「起業など若者がチャレンジしやすい環境の整備」が22%と、他と比べて15ポイント以上低くなっている。



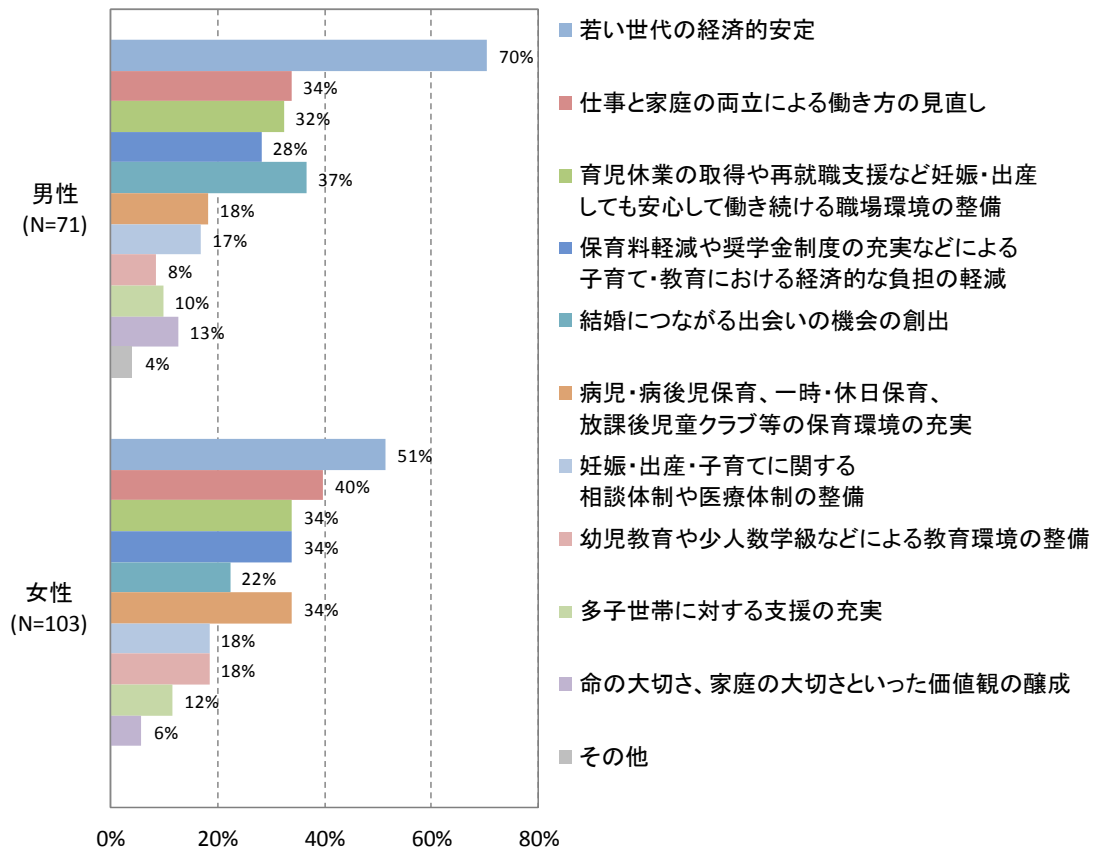
⑮-1 少子化の取組（3つ以内で回答）

- ・「若い世代の経済的安定」が59%で最も多く、次いで「仕事と家庭の両立による働き方の見直し」が37%、「育児休業の取得や再就職支援など妊娠・出産しても安心して働き続けられる職場環境の整備」が32%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「仕事と家庭の両立による働き方の見直し」が37%と、2015年と比べて12ポイント高くなっている。



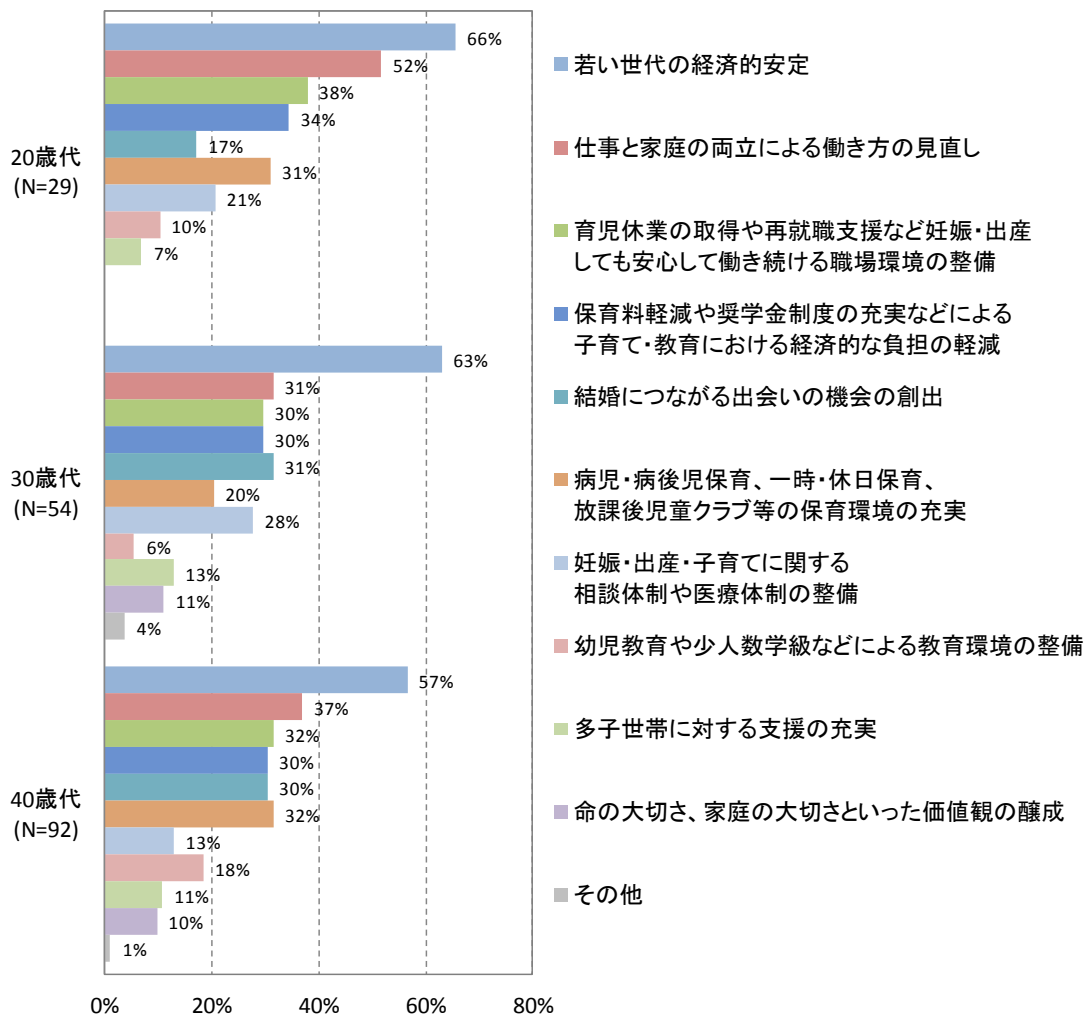
## ■少子化の取組（性別）

・性別では、男性で「若い世代の経済的安定」が70%と、女性と比べて19ポイント高くなっている。



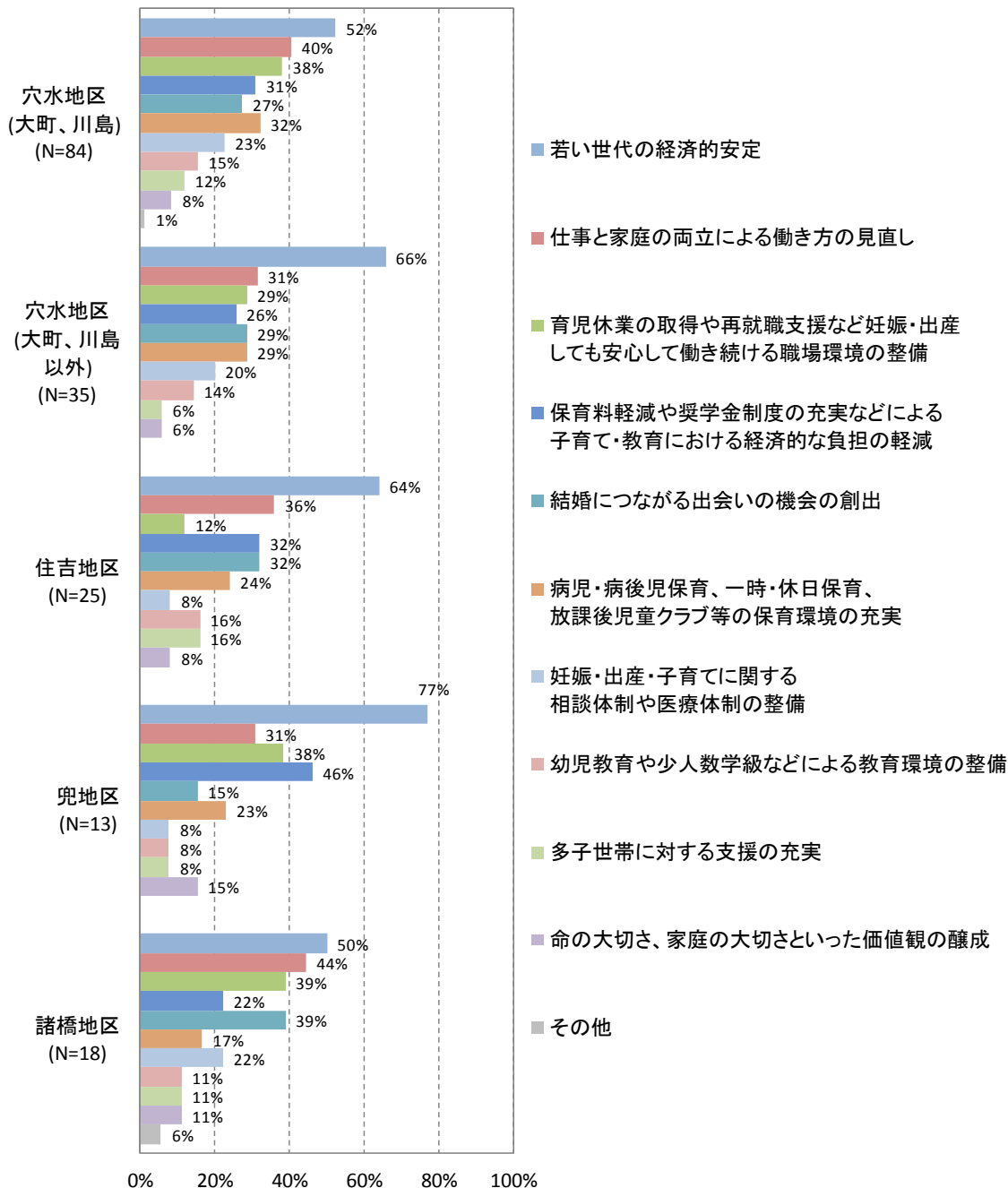
■ 少子化の取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「仕事と家庭の両立による働き方の見直し」が52%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。



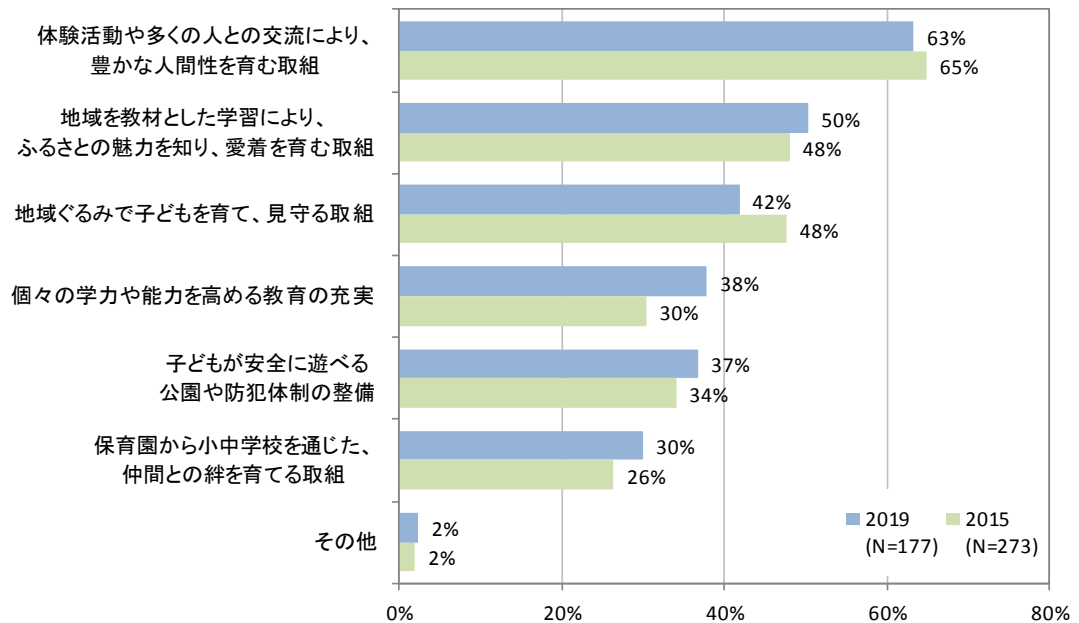
■ 少子化の取組（居住地別）

・居住地別では、住吉地区で「育児休業の取得や再就職支援など妊娠・出産しても安心して働き続ける職場環境の整備」が12%と、他と比べて17ポイント以上低くなっている。



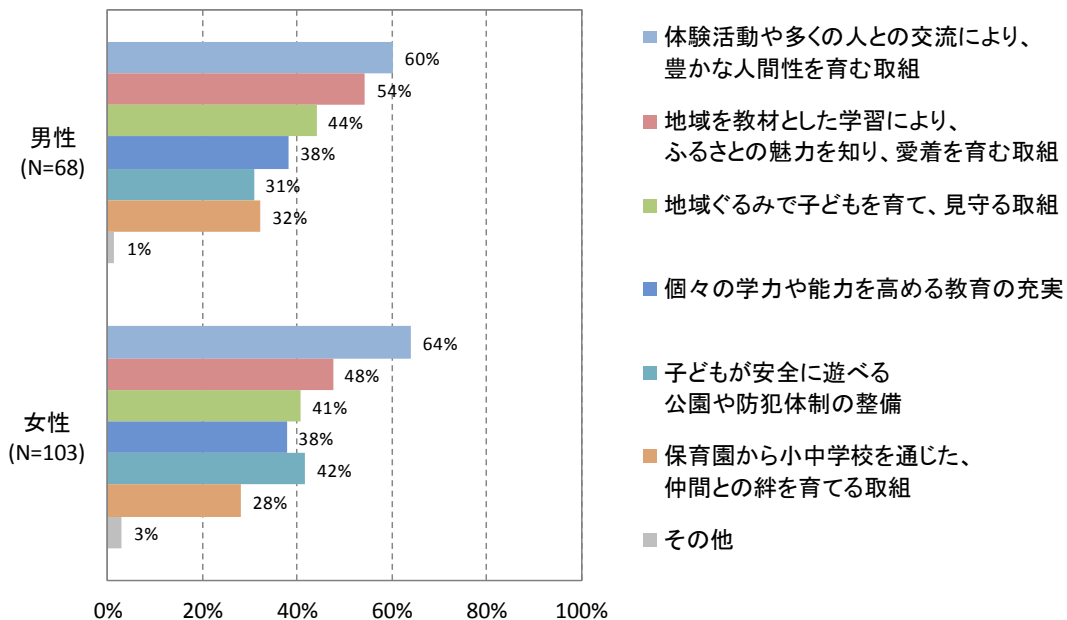
⑮-2 ふるさに愛着をもてる子どもに育成する取組（3つ以内で回答）

- ・「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が63%で最も多く、次いで「地域を教材とした学習により、ふるさとの魅力を知り、愛着を育む取組」が50%、「地域ぐるみで子どもを育て、見守る取組」が42%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「個々の学力や能力を高める教育の充実」が38%と、2015年と比べて8ポイント高くなっている。



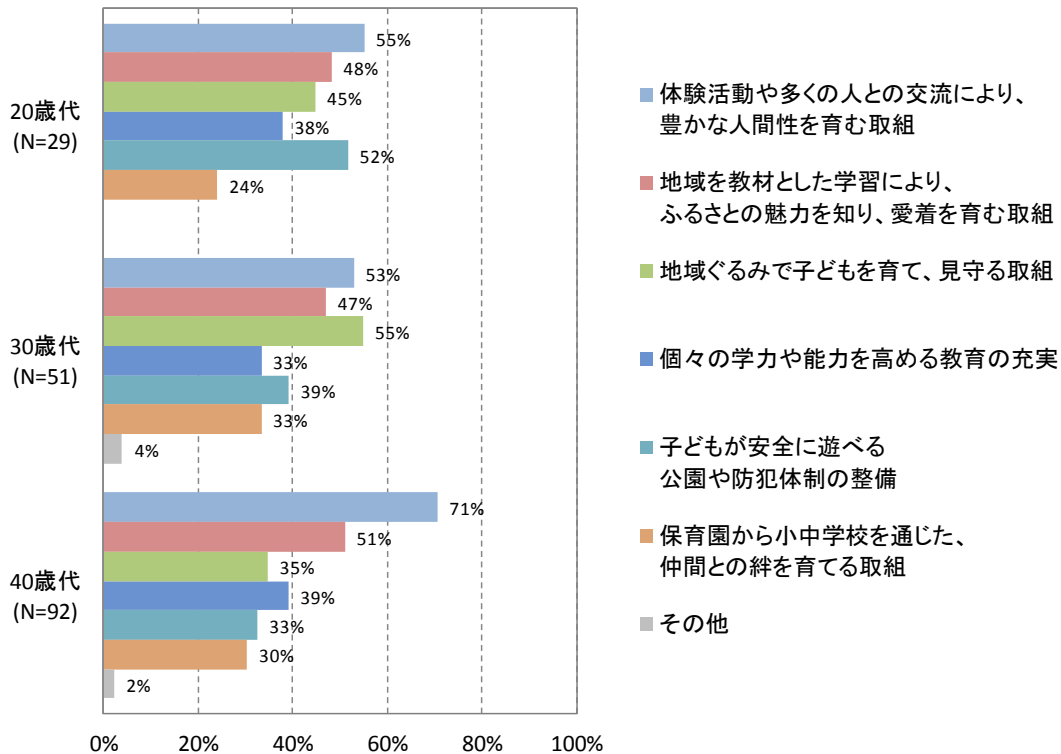
■ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組（性別）

・性別では、女性で「子どもが安全に遊べる公園や防犯体制の整備」が42%と、男性と比べて11ポイント高くなっている。



■ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組（年代別）

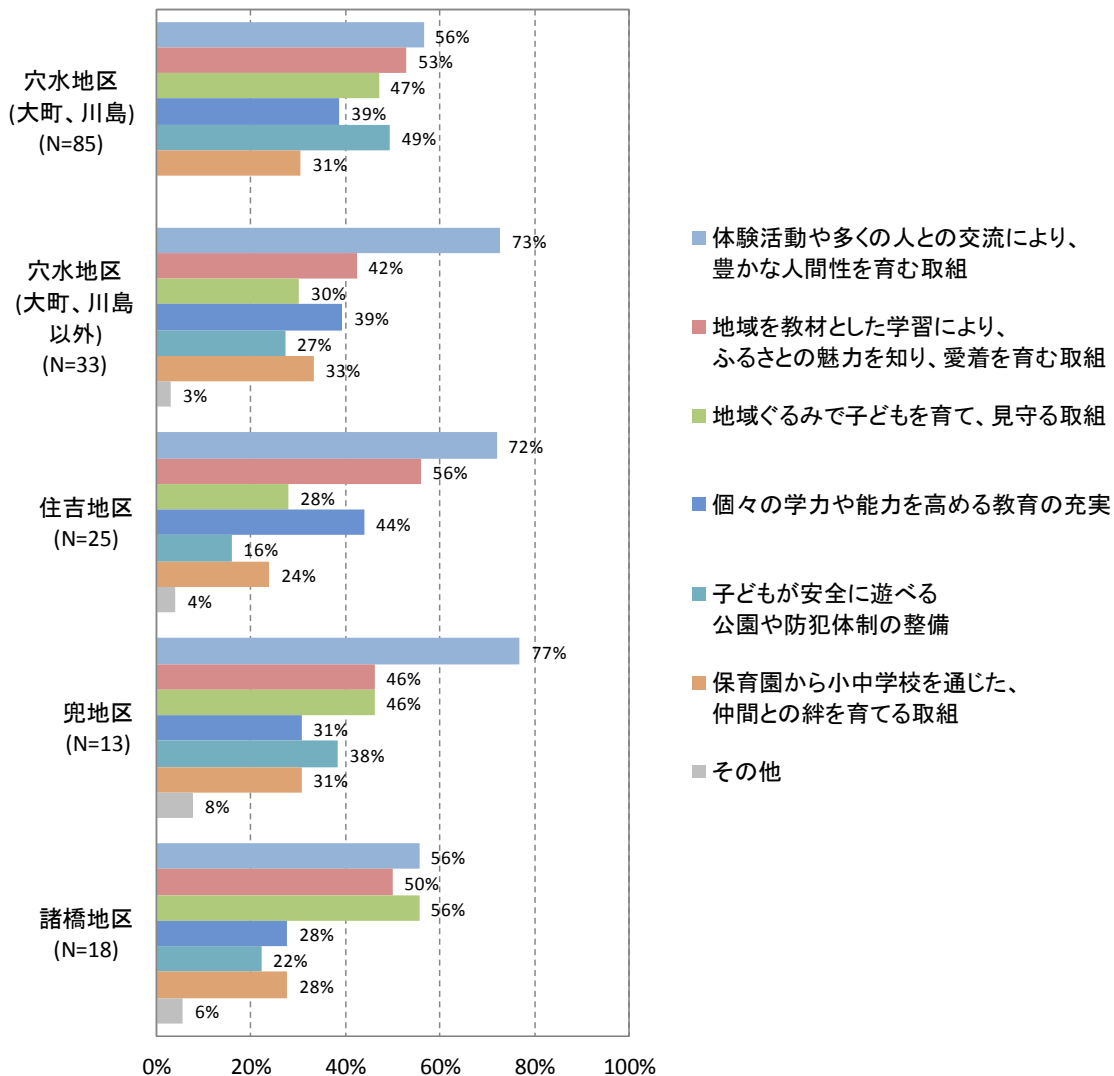
・年代別では、40歳代で「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が71%と、他と比べて16ポイント以上高くなっている。





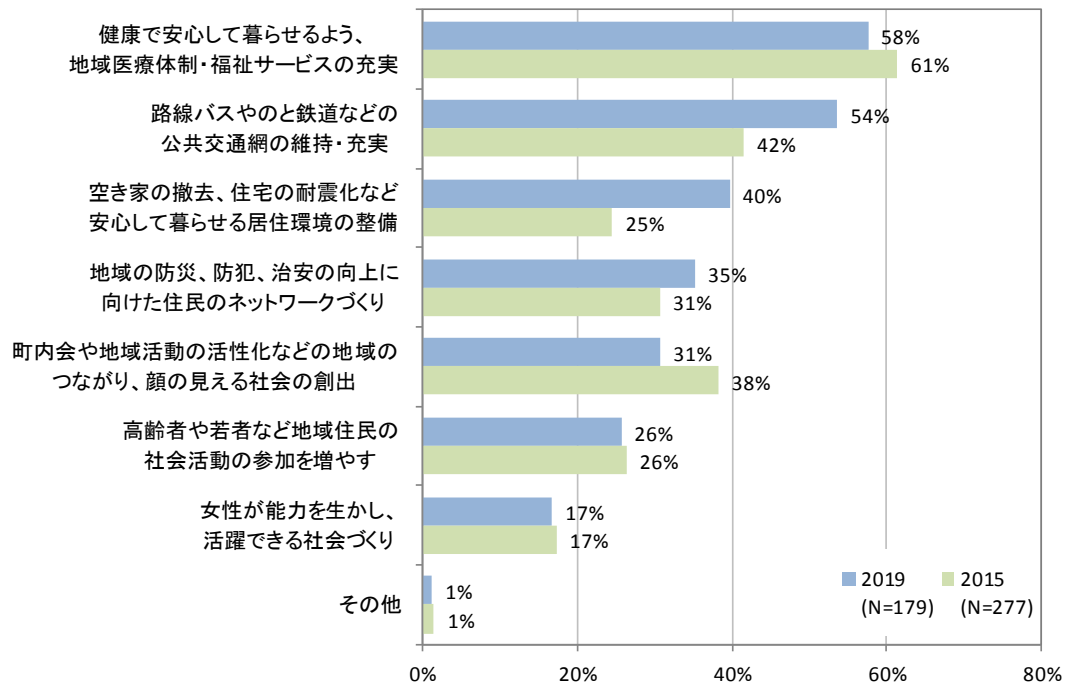
■ふるさとに愛着をもてる子どもに育成する取組（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島）、諸橋地区で「体験活動や多くの人との交流により、豊かな人間性を育む取組」が56%と、他と比べて16ポイント以上低くなっている。



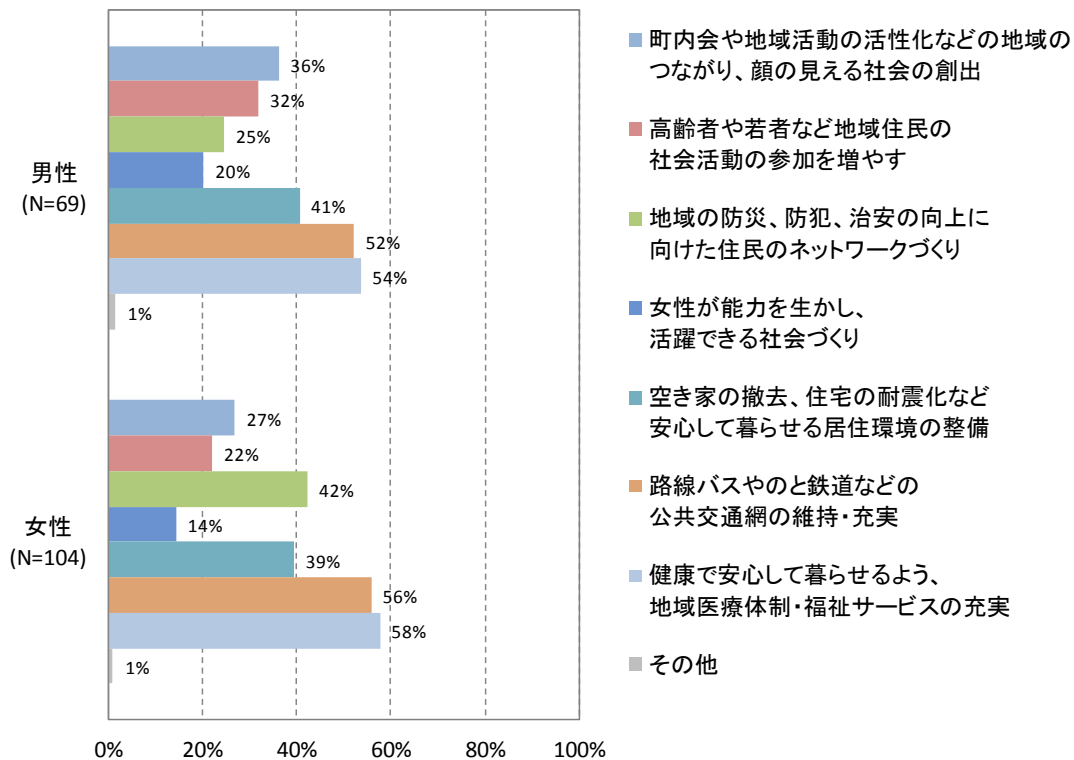
⑩-1 安心して暮らせる地域づくりの取組（3つ以内で回答）

- ・「健康で安心して暮らせるよう、地域医療体制・福祉サービスの充実」が58%で最も多く、次いで「路線バスやのと鉄道などの公共交通網の維持・充実」が54%、「空き家の撤去、住宅の耐震化など安心して暮らせる居住環境の整備」が40%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「空き家の撤去、住宅の耐震化など安心して暮らせる居住環境の整備」が40%と、2015年と比べて15ポイント高くなっている。



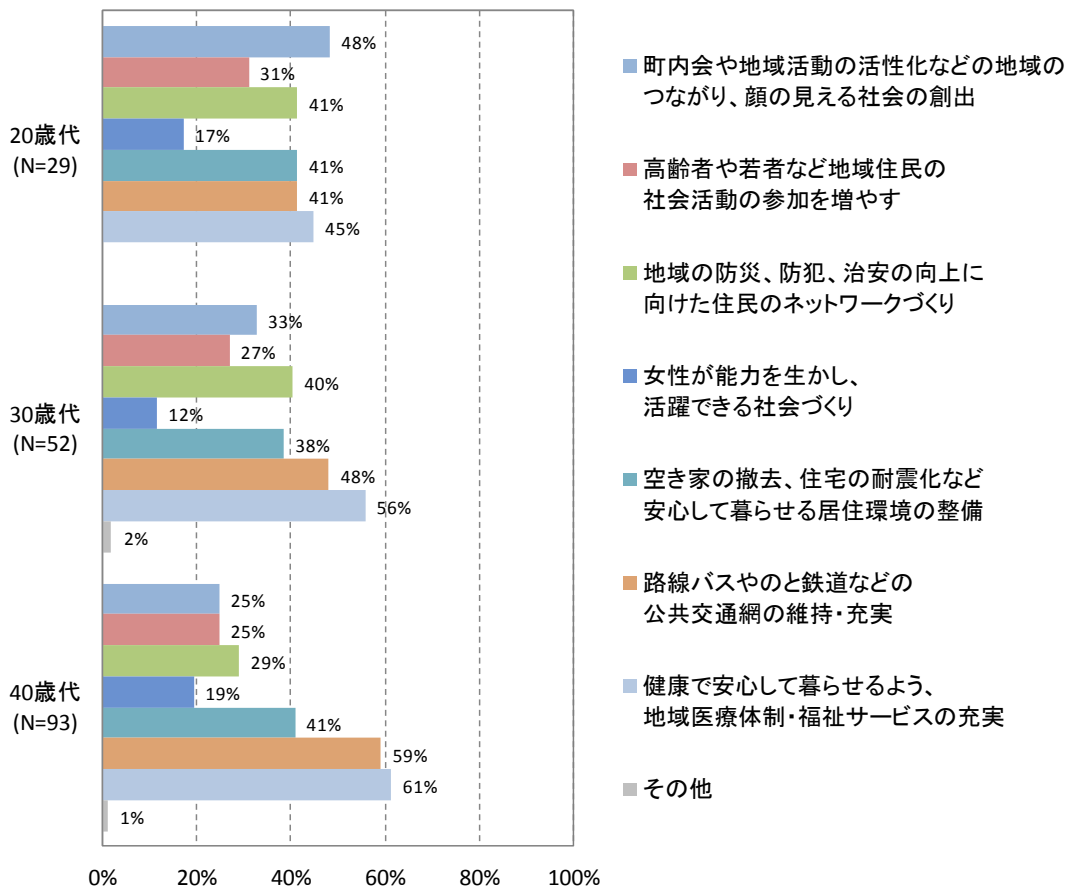
### ■安心して暮らせる地域づくりの取組（性別）

・性別では、女性で「地域の防災、防犯、治安の向上に向けた住民のネットワークづくり」が42%と、男性と比べて17ポイント高くなっている。



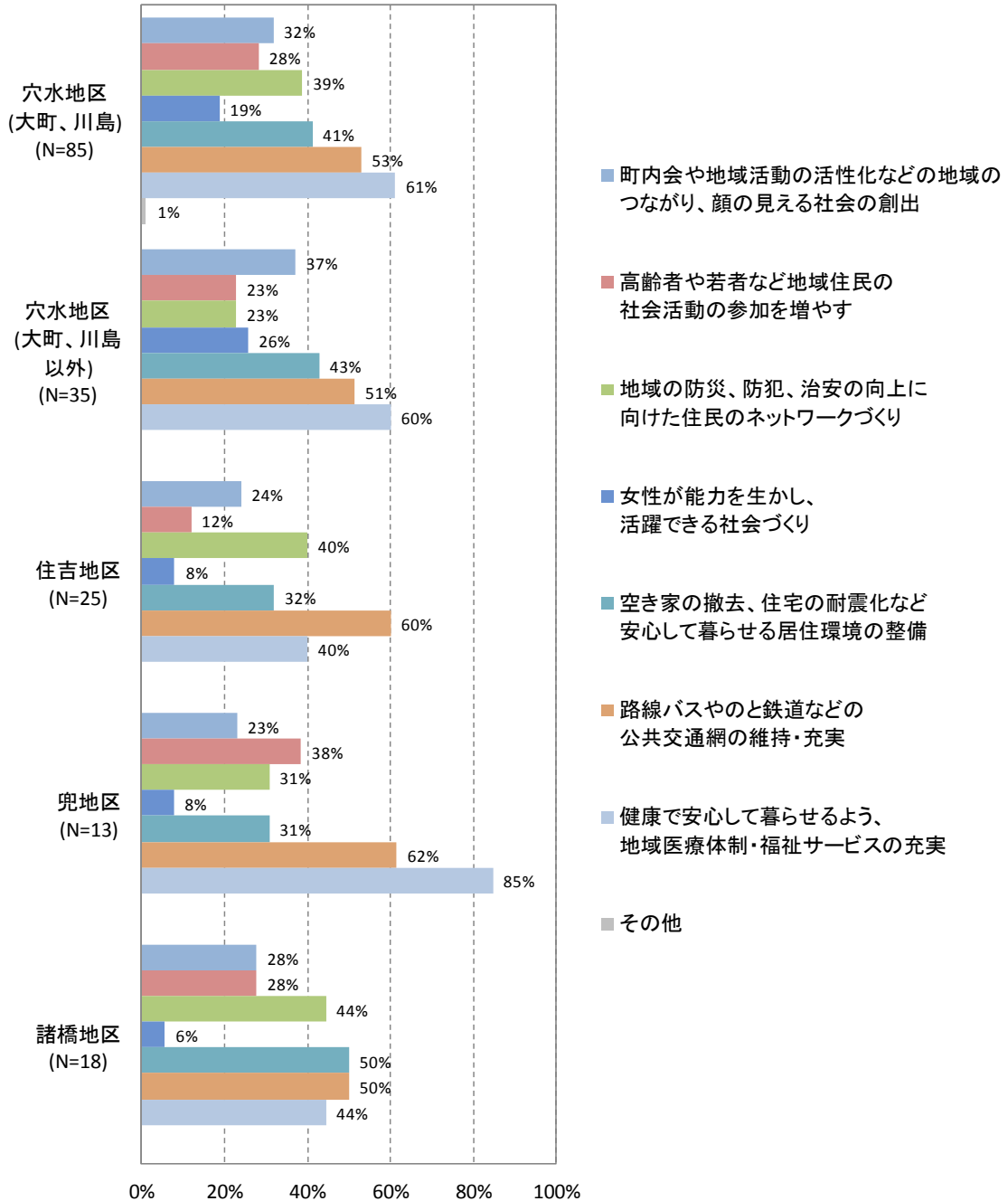
■安心して暮らせる地域づくりの取組（年代別）

・年代別では、20歳代で「町内会や地域活動の活性化などの地域のつながり、顔の見える社会の創出」が48%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。



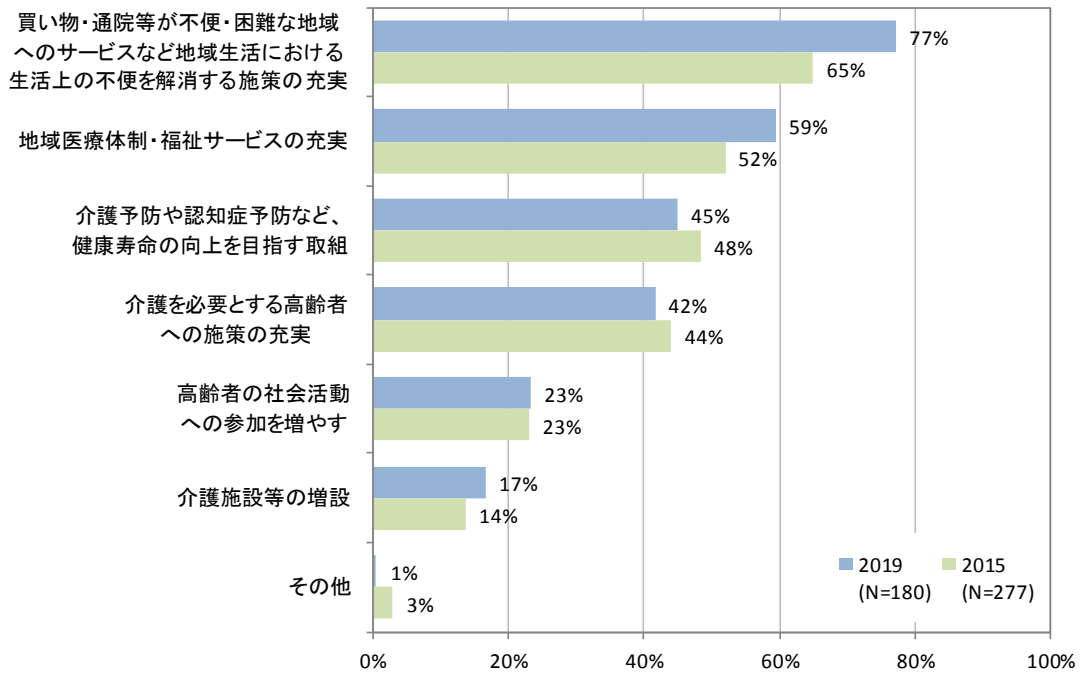
■安心して暮らせる地域づくりの取組（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「健康で安心して暮らせるよう、地域医療体制・福祉サービスの充実」が85%と、他と比べて24ポイント以上高くなっている。



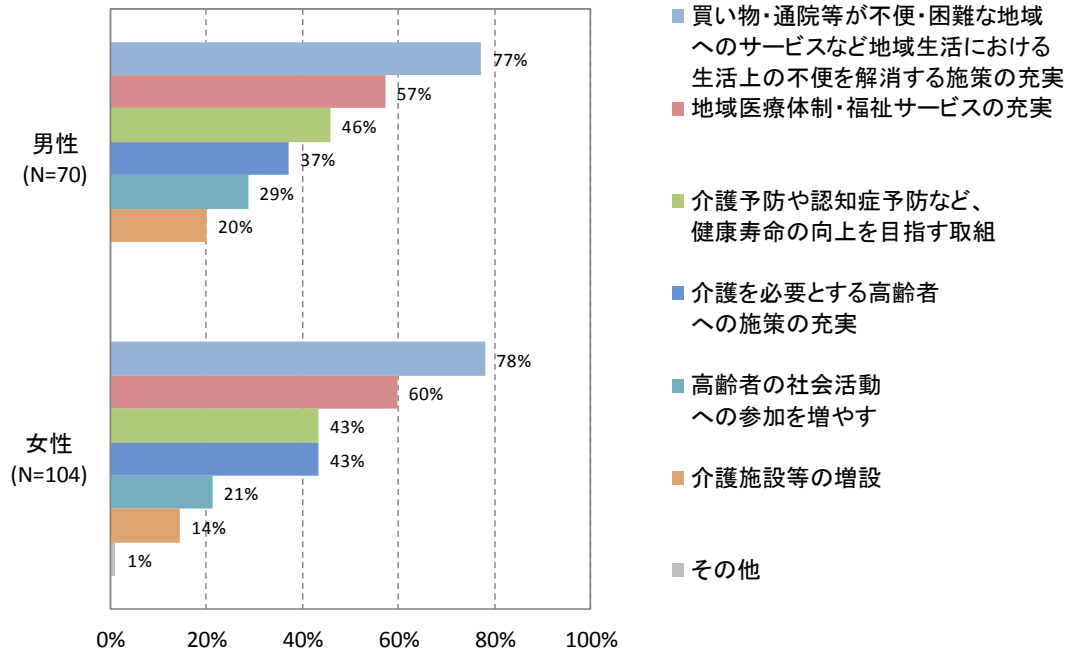
⑩-2 高齢者への施策の充実等による取組（3つ以内で回答）

- ・「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が77%で最も多く、次いで「地域医療体制・福祉サービスの充実」が59%、「介護予防や認知症予防など、健康寿命の向上を目指す取組」が45%となっている。
- ・前回との比較では、2019年で「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が77%と、2015年と比べて12ポイント高くなっている。



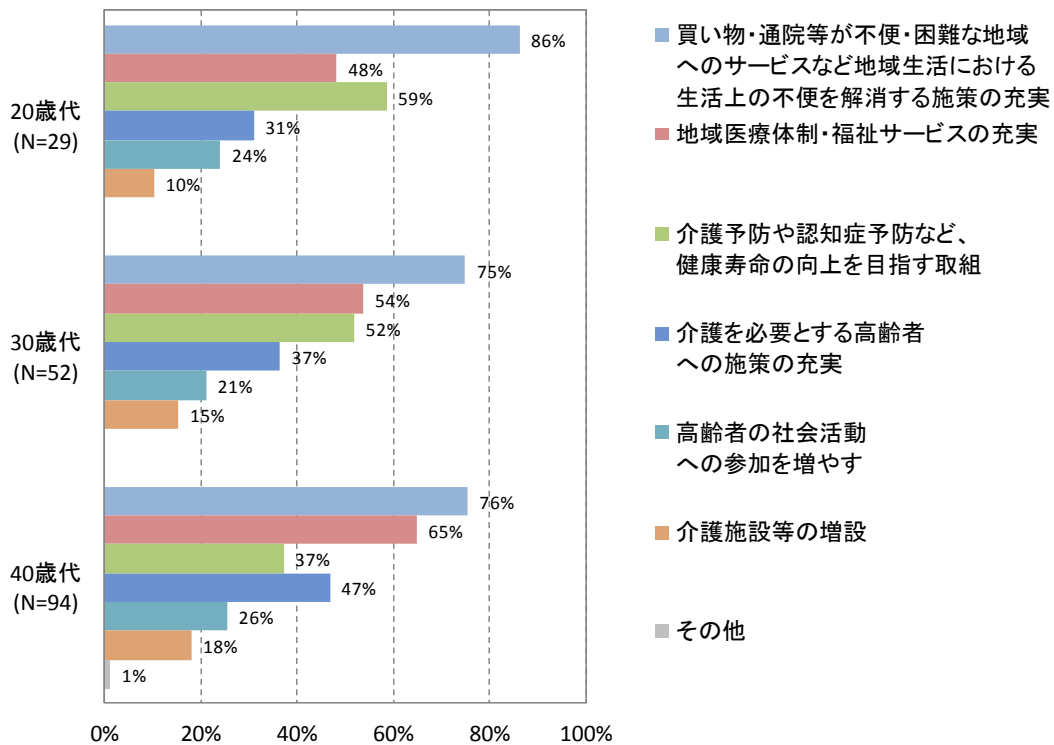
■ 高齢者への施策の充実等による取組（性別）

・性別では、男性で「高齢者の社会活動への参加を増やす」が29%と、女性と比べて8ポイント高くなっている。



■ 高齢者への施策の充実等による取組（年代別）

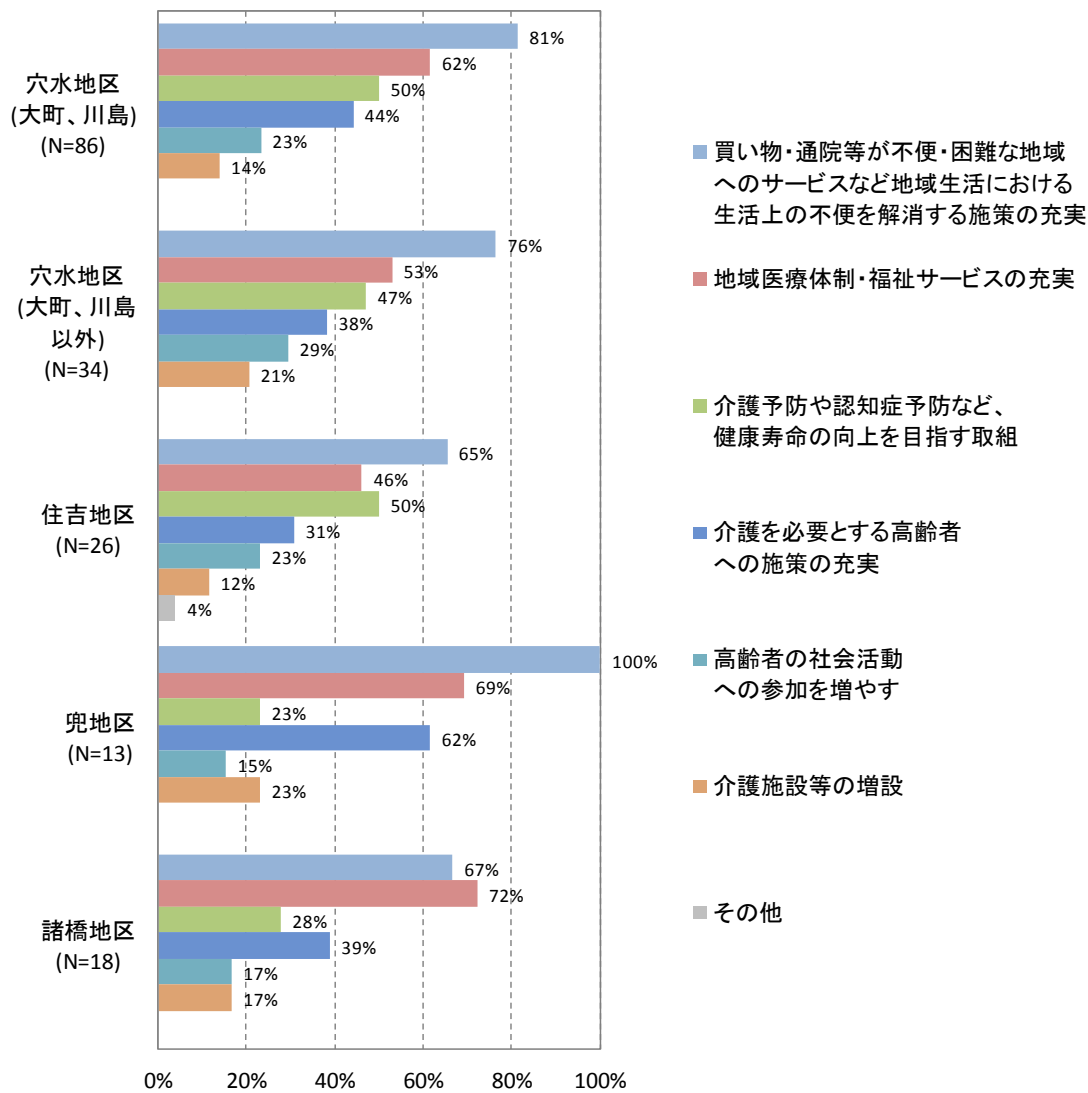
・年代別では、40歳代で「介護予防や認知症予防など、健康寿命の向上を目指す取組」が37%と、他と比べて15ポイント以上低くなっている。





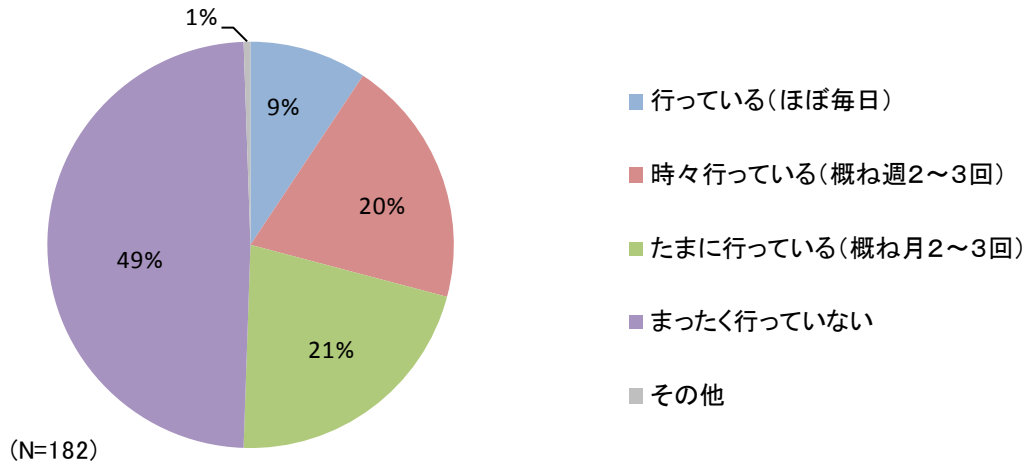
■ 高齢者への施策の充実等による取組（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「買い物・通院等が不便・困難な地域へのサービスなど地域生活における生活上の不便を解消する施策の充実」が100%と、他と比べて19ポイント以上高くなっている。

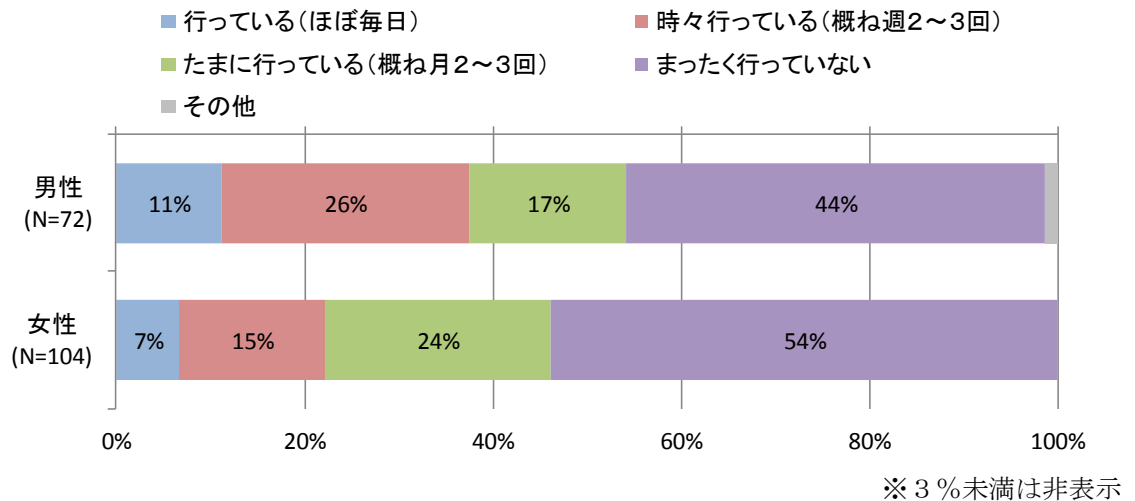


【問5】個別施策に関する具体的な取組について

⑰	スポーツ	【新規設問】
<p>・「まったく行っていない」が49%で最も多く、次いで「たまに行っている（概ね月2～3回）」が21%、「時々行っている（概ね週2～3回）」が20%となっている。</p>		

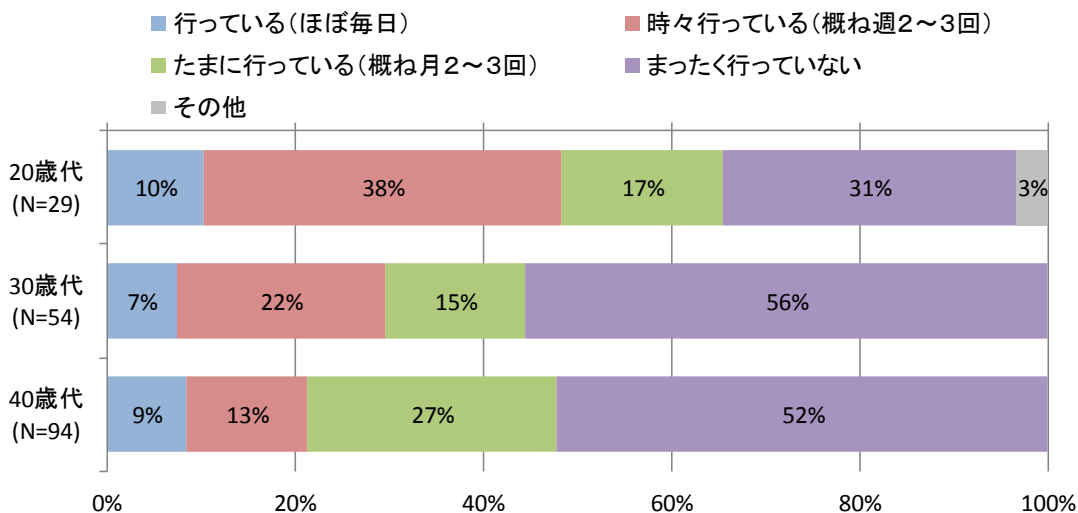


■スポーツ（性別）	
<p>・性別では、男性で「時々行っている（概ね週2～3回）」が26%と、女性と比べて11ポイント高くなっている。</p>	



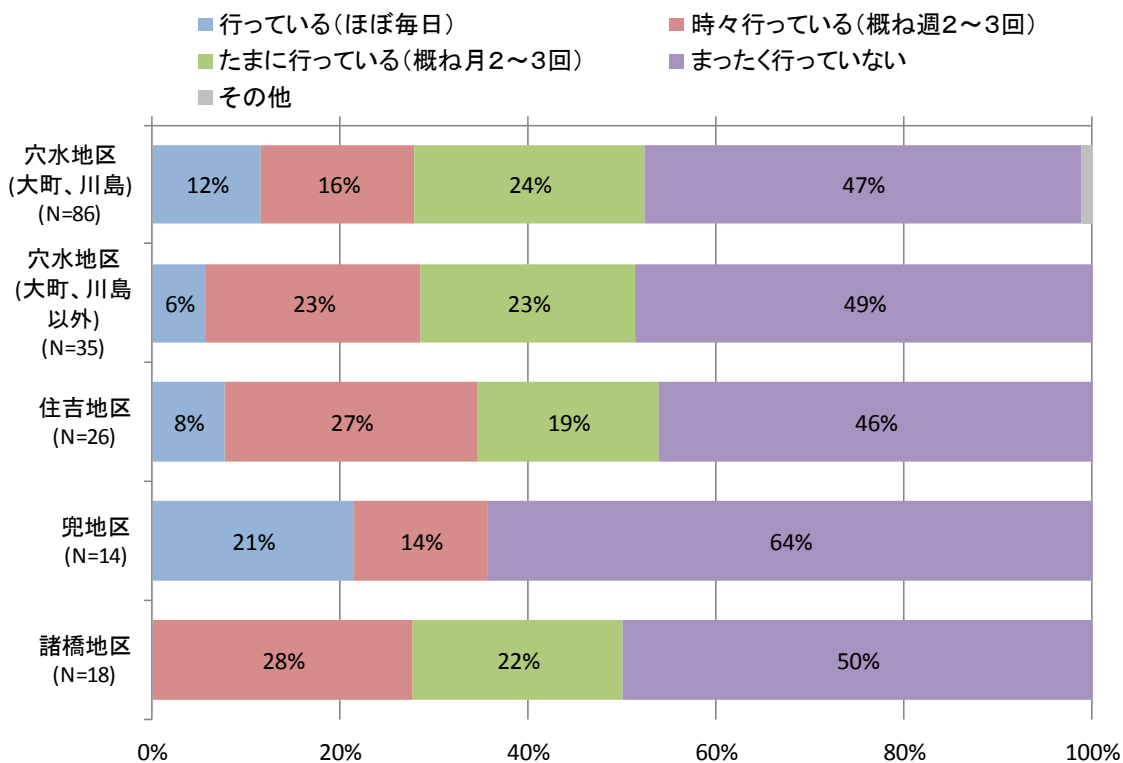
■スポーツ（年代別）

・年代別では、20歳代で「まったく行っていない」が31%と、他と比べて21ポイント以上低くなっている。



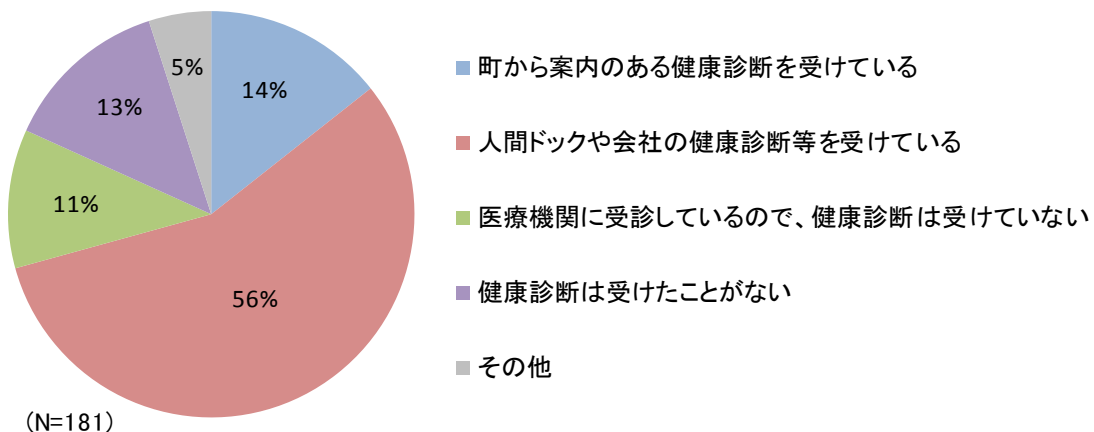
■スポーツ（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「まったく行っていない」が64%と、他と比べて14ポイント以上高くなっている。

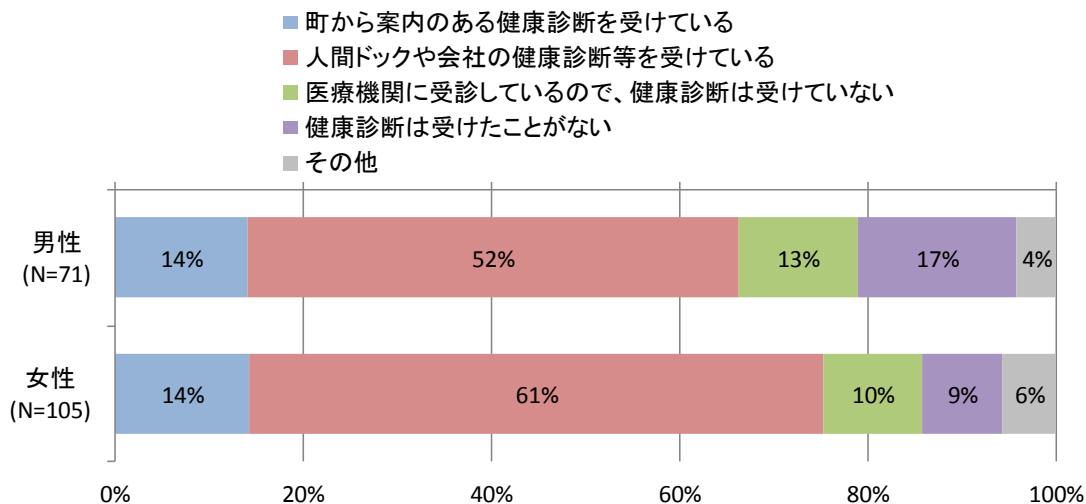


※3%未満は非表示

⑱ 健康診断	【新規設問】
<p>・「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が 56%で最も多く、次いで「町から案内のある健康診断を受けている」が 14%、「健康診断は受けたことがない」が 13%となっている。</p>	

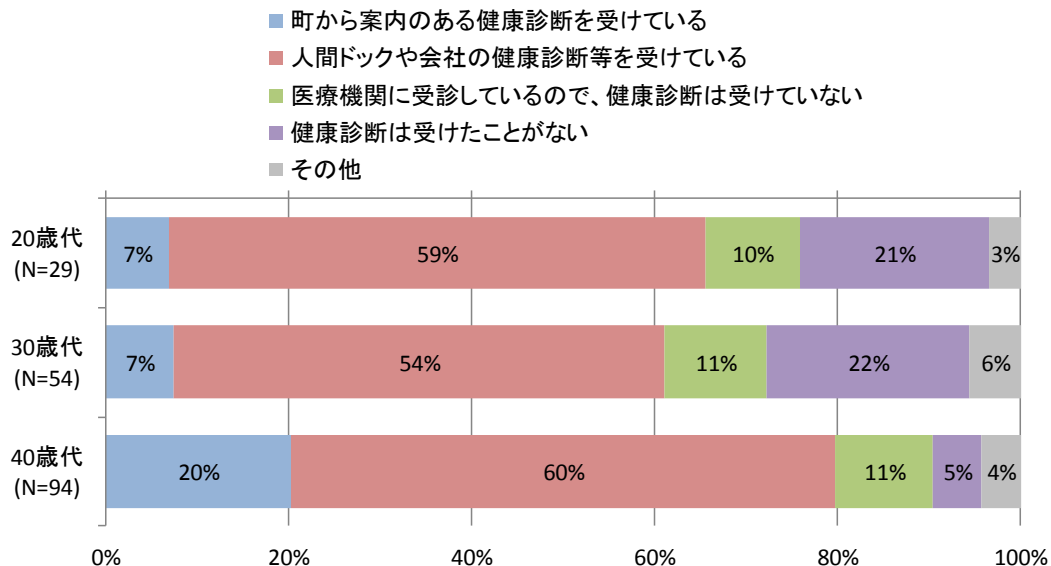


■ 健康診断（性別）	
<p>・性別では、男性で「健康診断は受けたことがない」が 17%と、女性と比べて 8 ポイント高くなっている。</p>	



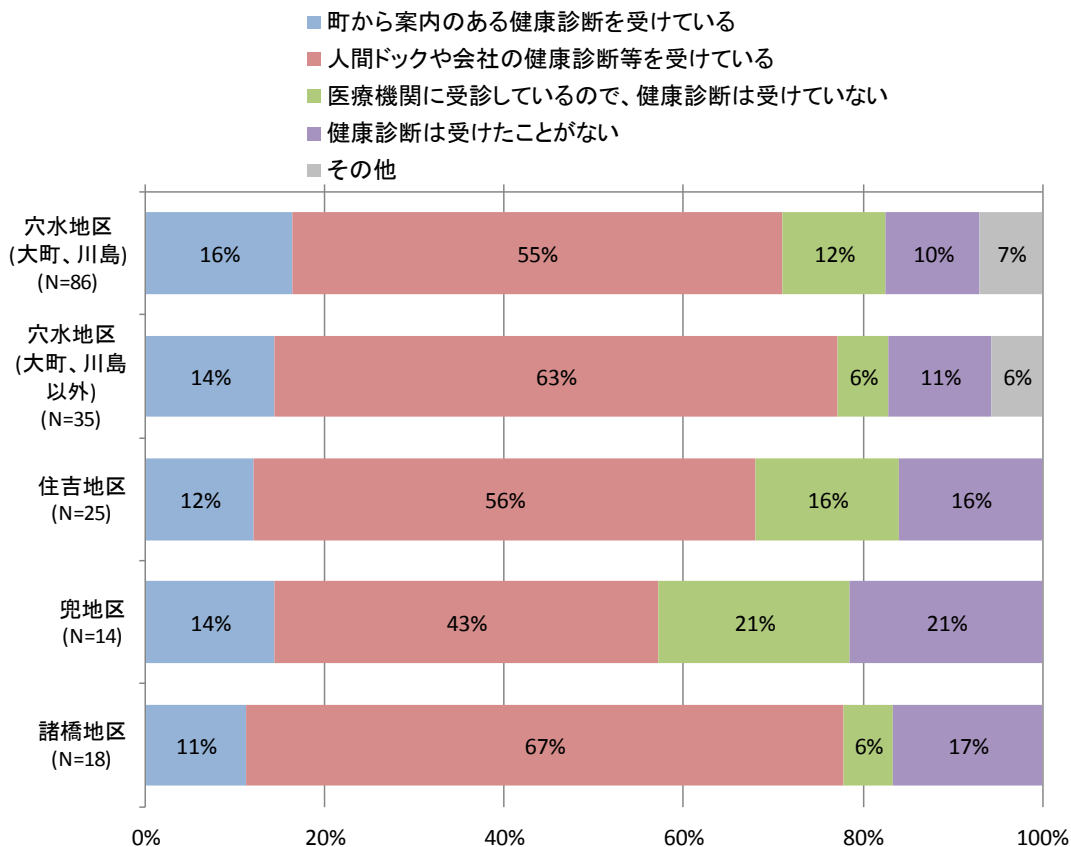
■健康診断（年代別）

・年代別では、40歳代で「健康診断は受けたことがない」が5%と、他と比べて16ポイント以上低くなっている。

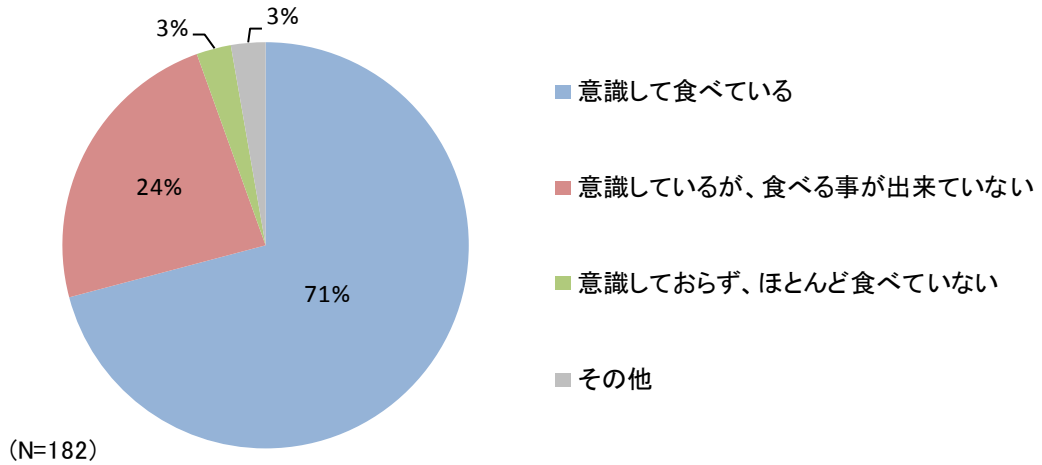


■健康診断（居住地別）

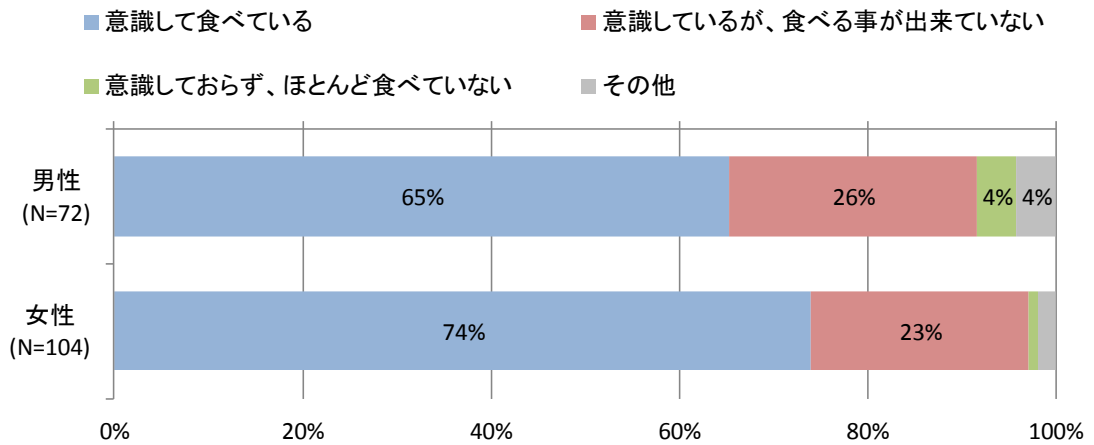
・居住地別では、兜地区で「人間ドックや会社の健康診断等を受けている」が43%と、他と比べて12ポイント以上低くなっている。



⑱	食生活（野菜摂取）	【新規設問】
<p>・「意識して食べている」が71%で最も多く、次いで「意識しているが、食べる事が出来ていない」が24%、「意識しておらず、ほとんど食べていない」が3%となっている。</p>		



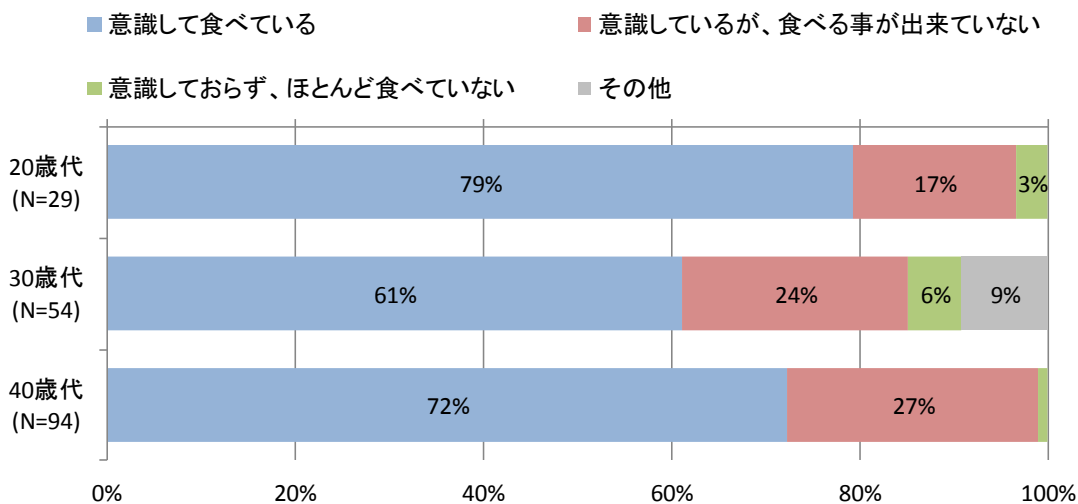
■ 食生活（野菜摂取）（性別）
<p>・性別では、女性で「意識して食べている」が74%と、男性と比べて9ポイント高くなっている。</p>



※ 3%未満は非表示

■ 食生活（野菜摂取）（年代別）

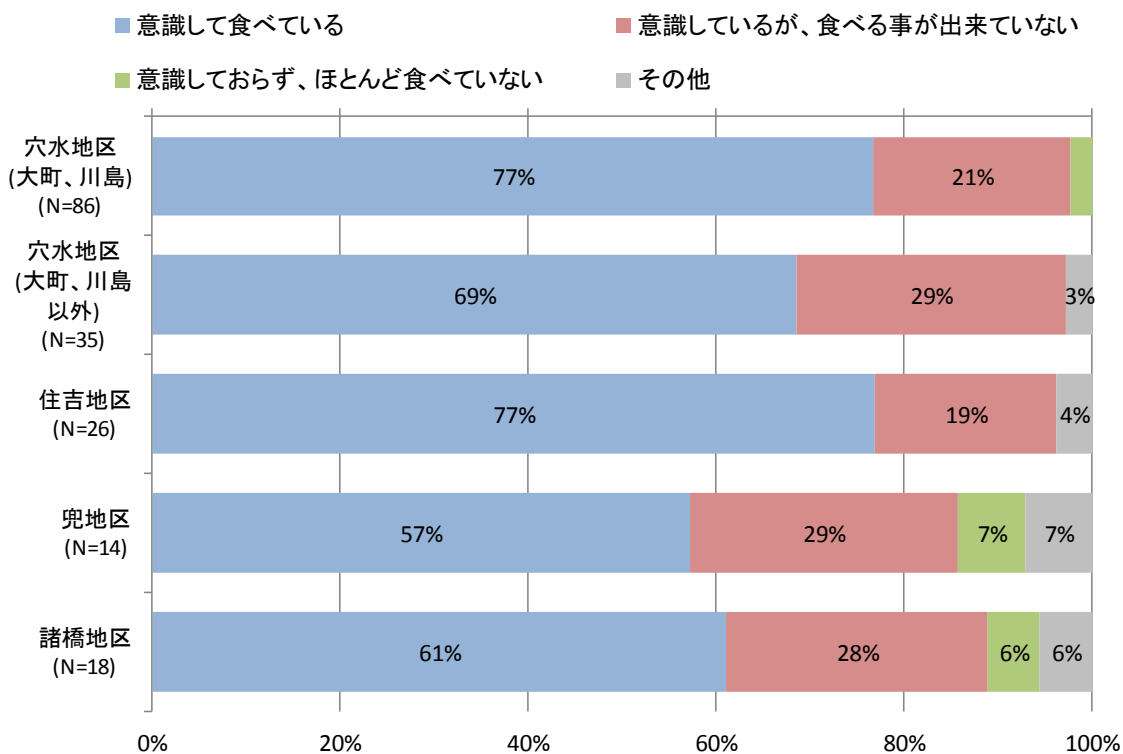
・年代別では、30歳代で「意識して食べている」が61%と、他と比べて11ポイント以上低くなっている。



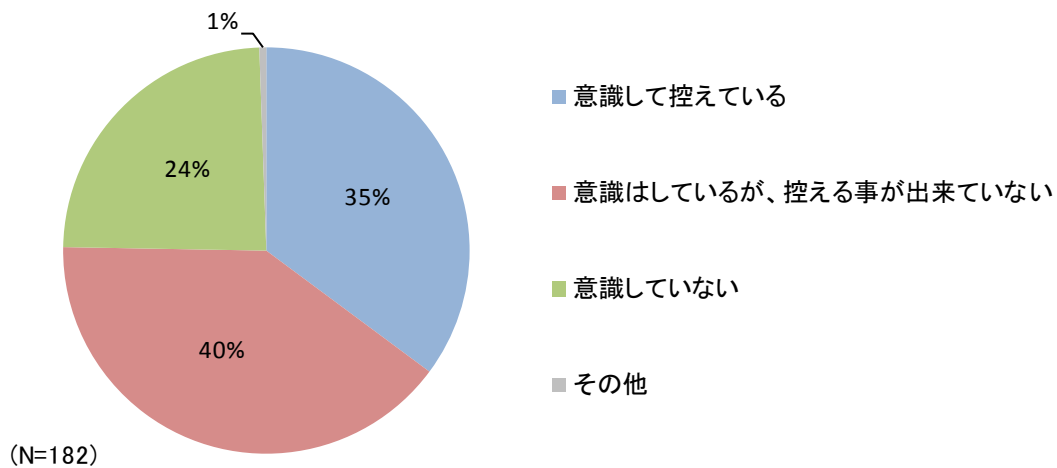
※ 3%未満は非表示

■ 食生活（野菜摂取）（居住地別）

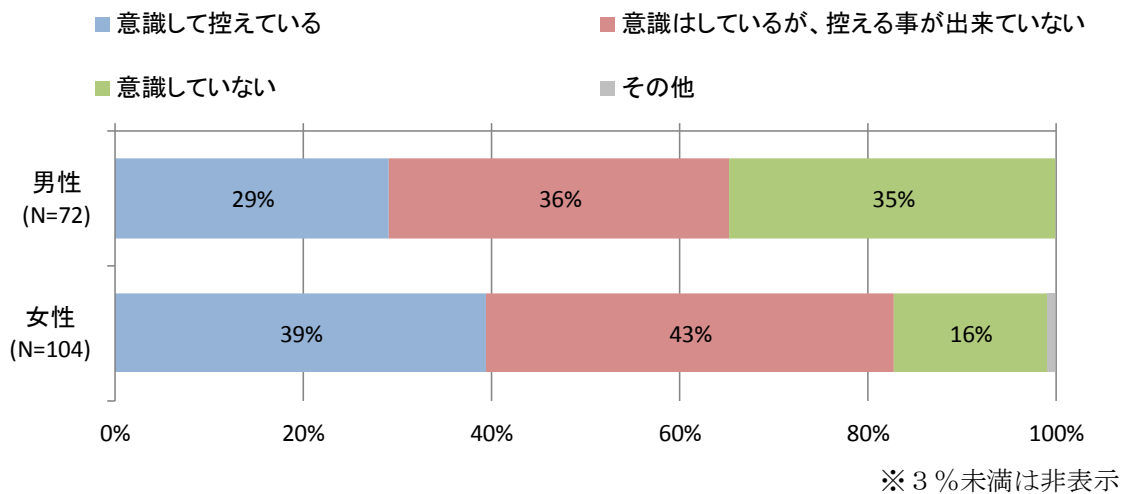
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）、住吉地区で「意識して食べている」が77%と、他と比べて8ポイント以上高くなっている。



⑳	食生活（塩分摂取）	【新規設問】
<p>・「意識はしているが、控える事が出来ていない」が40%で最も多く、次いで「意識して控えている」が35%、「意識していない」が24%となっている。</p>		



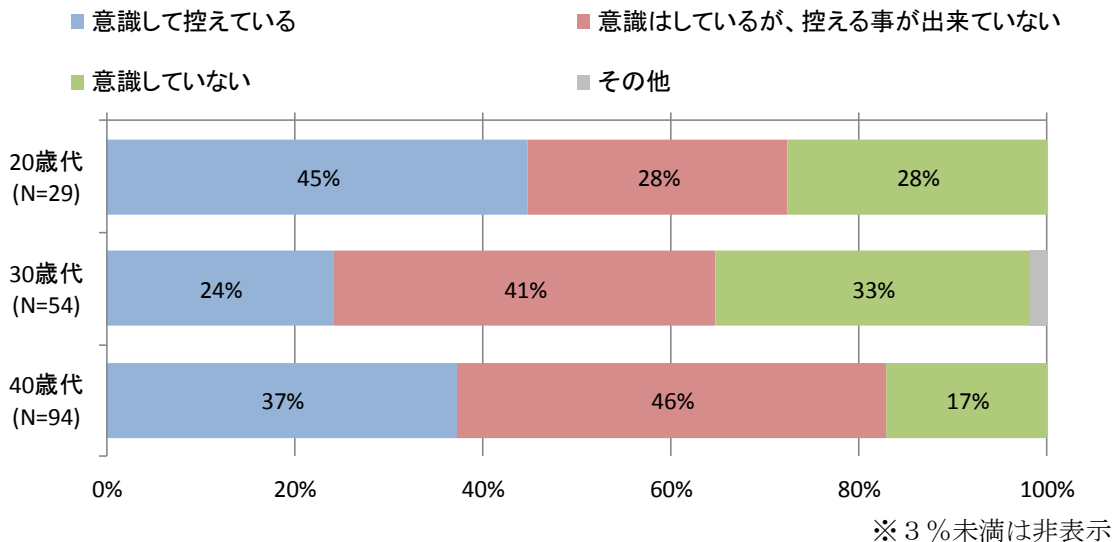
■ 食生活（塩分摂取）（性別）
<p>・性別では、男性で「意識していない」が35%と、女性と比べて19ポイント高くなっている。</p>





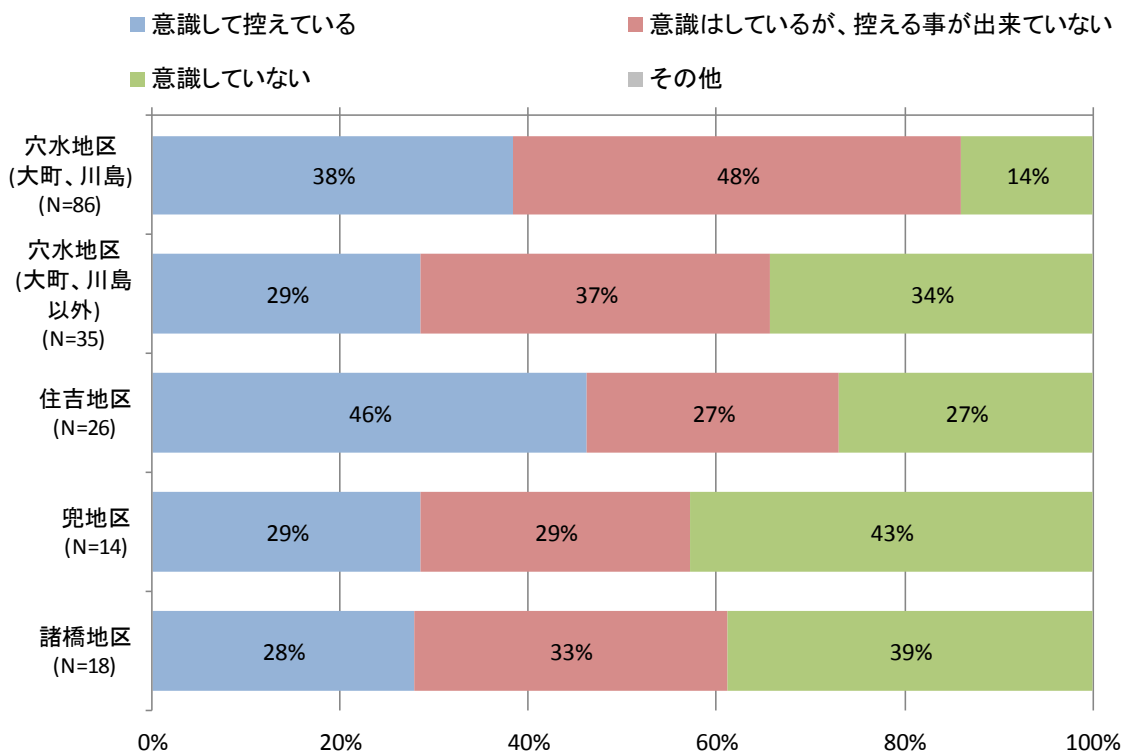
■ 食生活（塩分摂取）（年代別）

・年代別では、20歳代で「意識はしているが、控える事が出来ない」が28%、30歳代で「意識して控えている」が24%と、他と比べて13ポイント以上低くなっている。

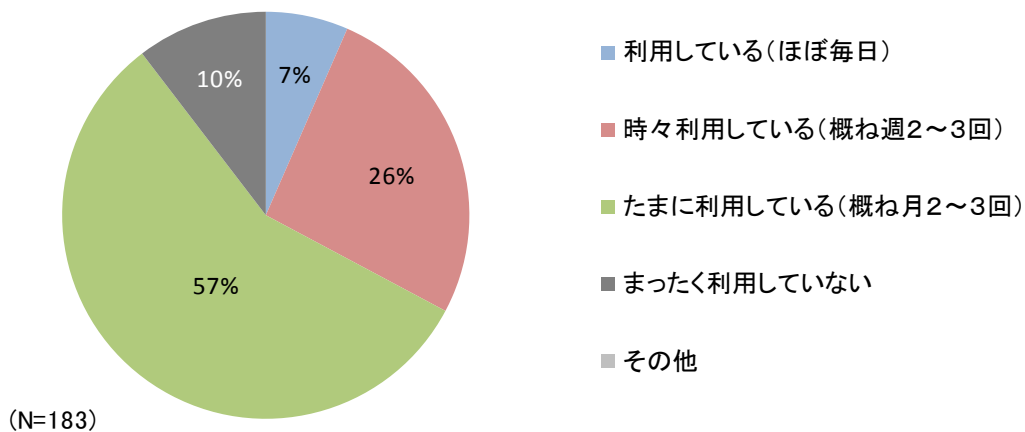


■ 食生活（塩分摂取）（居住地別）

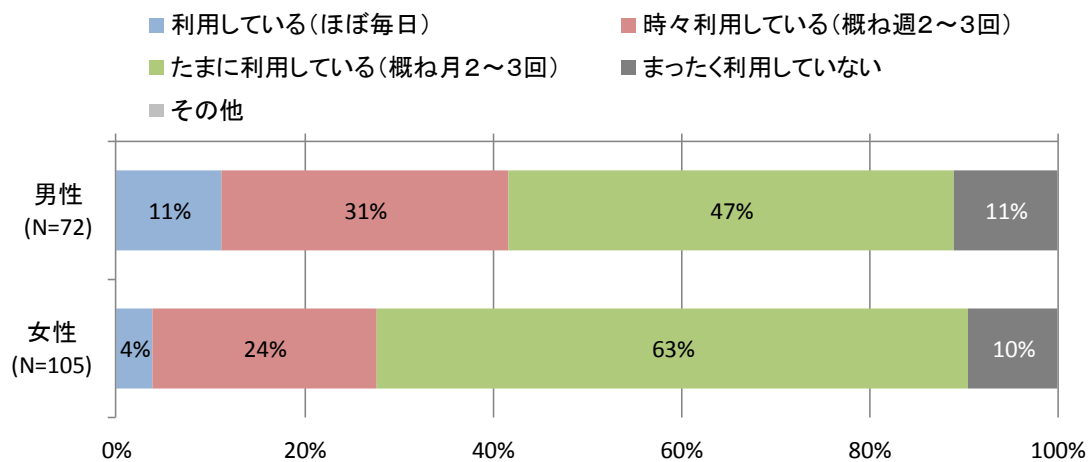
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「意識していない」が14%と、他と比べて13ポイント以上低くなっている。



②	食生活（外食頻度）	【新規設問】
<p>・「たまに利用している（概ね月2～3回）」が57%で最も多く、次いで「時々利用している（概ね週2～3回）」が26%、「まったく利用していない」が10%となっている。</p>		

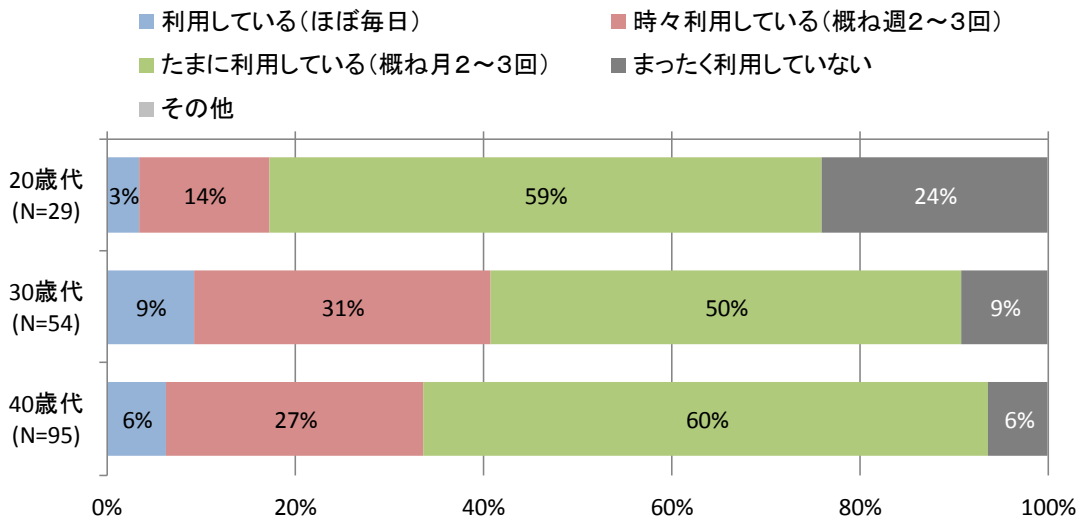


■	食生活（外食頻度）（性別）
<p>・性別では、女性で「たまに利用している（概ね月2～3回）」が63%と、男性と比べて16ポイント高くなっている。</p>	



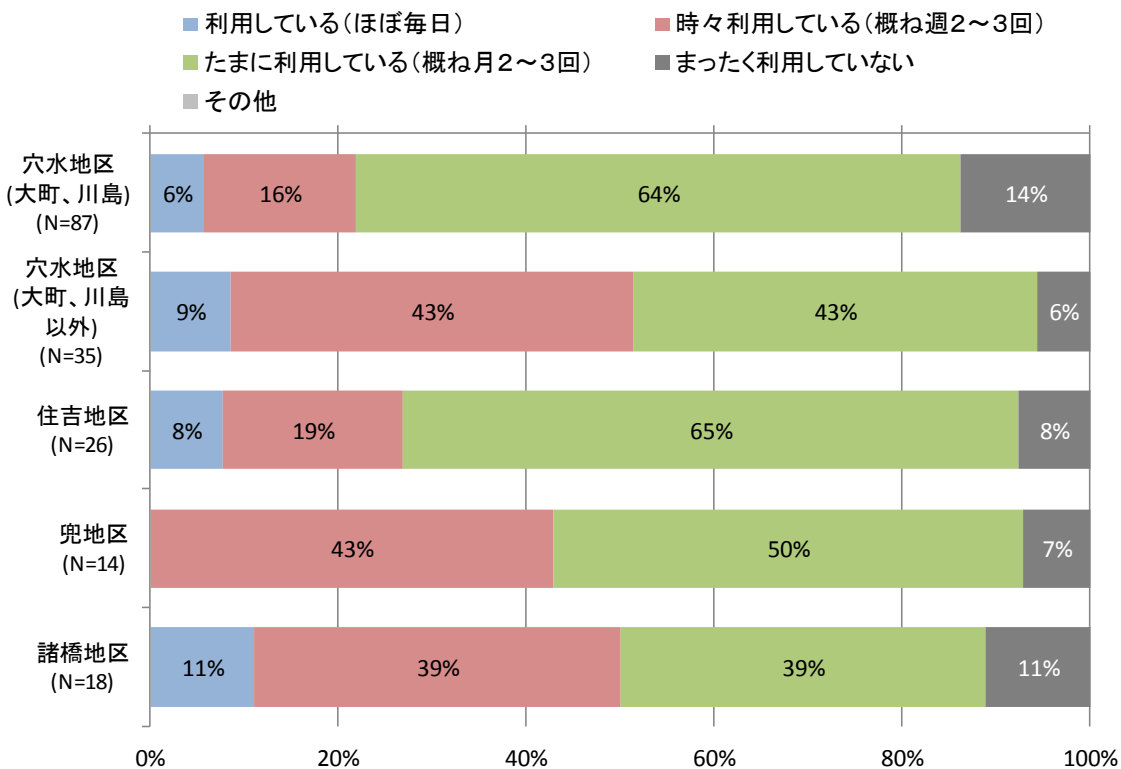
■ 食生活（外食頻度）（年代別）

・年代別では、20歳代で「まったく利用していない」が24%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。

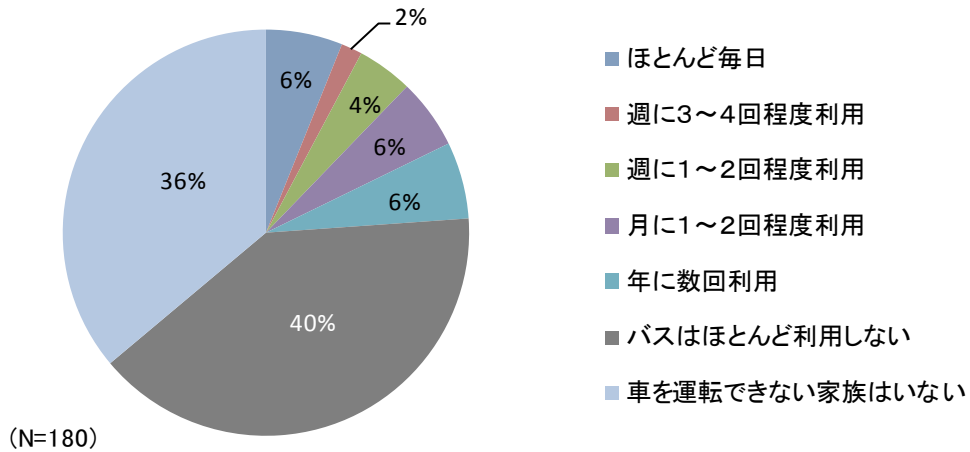


■ 食生活（外食頻度）（居住地別）

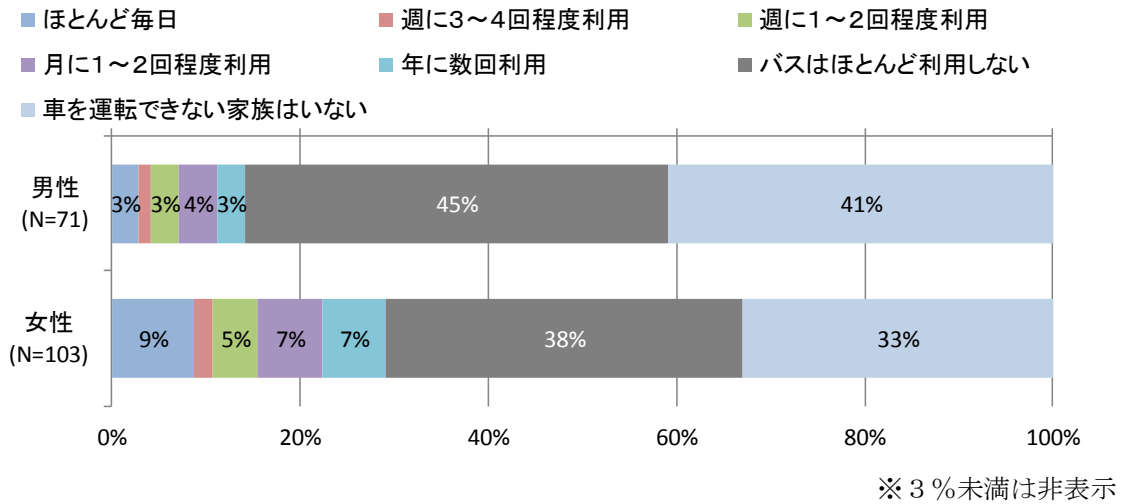
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）と住吉地区で「利用している（ほぼ毎日）」「時々利用している（概ね週2~3回）」の合計が30%以下と、他の合計と比べて16ポイント以上低くなっている。



② バス利用頻度	【新規設問】
<p>・「バスはほとんど利用しない」が40%で最も多く、次いで「車を運転できない家族はいない」が36%、「ほとんど毎日」「月に1～2回程度利用」「年に数回利用」がそれぞれ6%となっている。</p>	



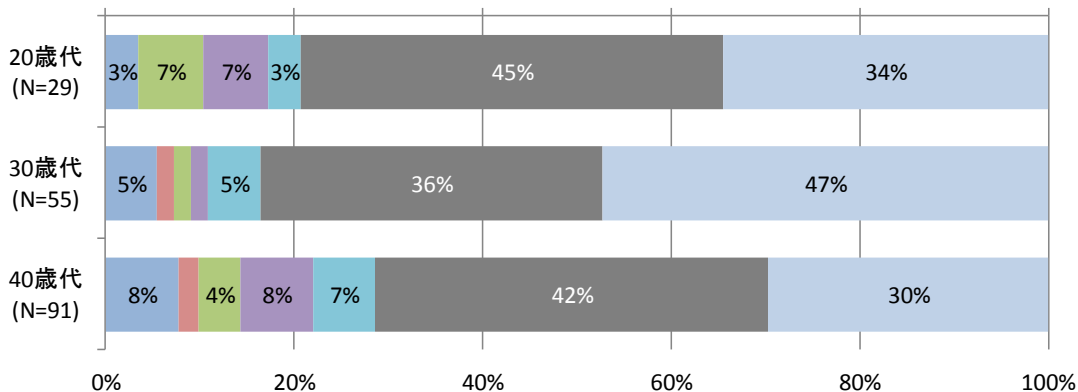
■ バス利用頻度 (性別)	
<p>・性別では、男性で「バスはほとんど利用しない」が45%と、女性と比べて7ポイント高くなっている。</p>	



### ■ バス利用頻度（年代別）

・年代別では、30歳代で「車を運転できない家族はいない」が47%と、他と比べて13ポイント以上高くなっている。

- ほとんど毎日
- 週に3~4回程度利用
- 週に1~2回程度利用
- 月に1~2回程度利用
- 年に数回利用
- バスはほとんど利用しない
- 車を運転できない家族はいない

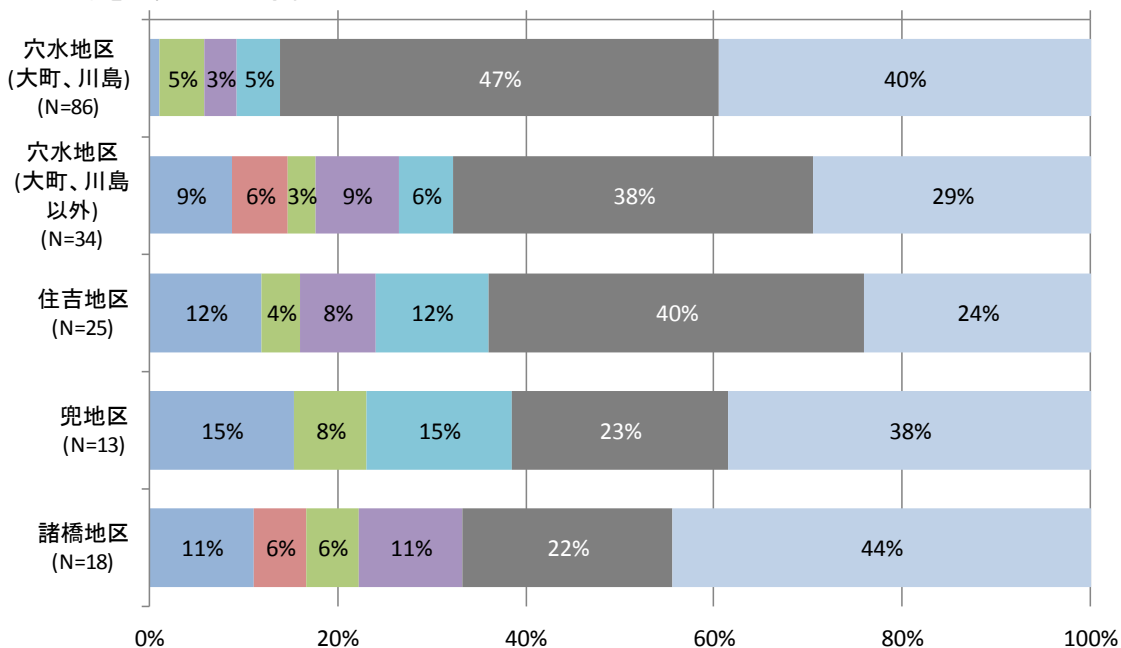


※ 3%未満は非表示

### ■ バス利用頻度（居住地別）

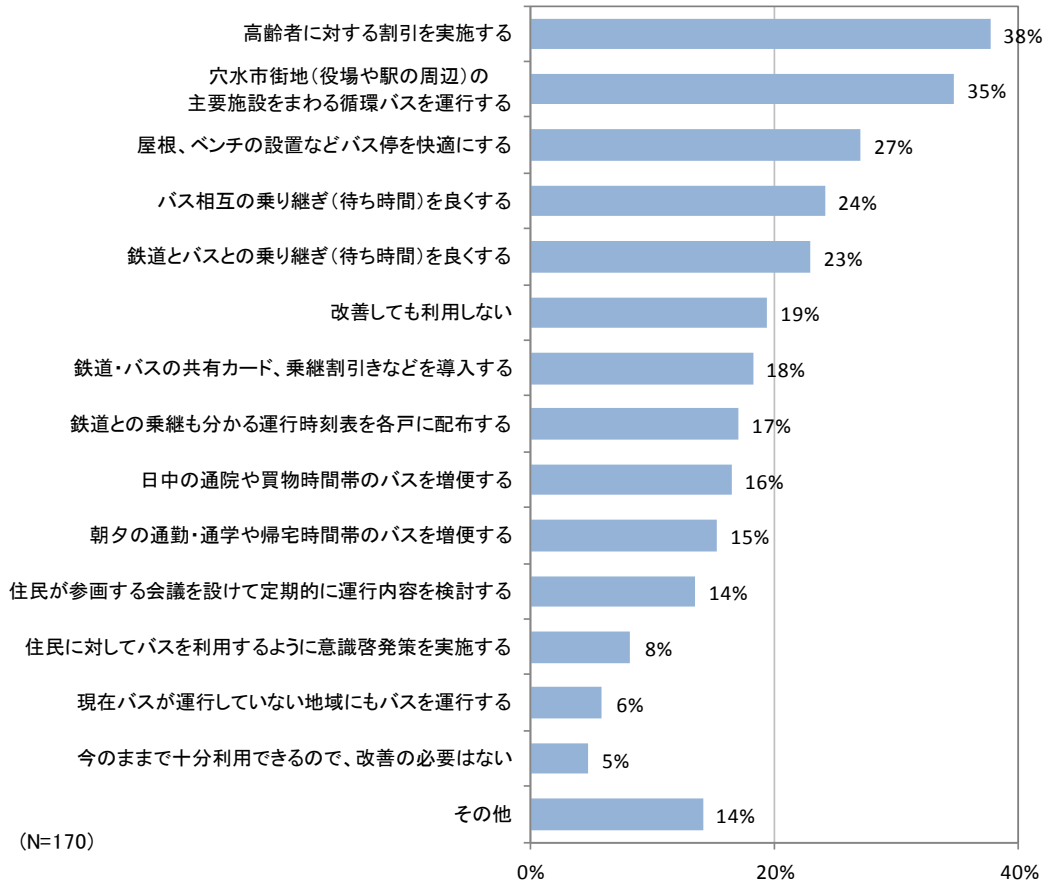
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「バスはほとんど利用しない」が47%と、他と比べて7ポイント以上高くなっている。

- ほとんど毎日
- 週に3~4回程度利用
- 週に1~2回程度利用
- 月に1~2回程度利用
- 年に数回利用
- バスはほとんど利用しない
- 車を運転できない家族はいない



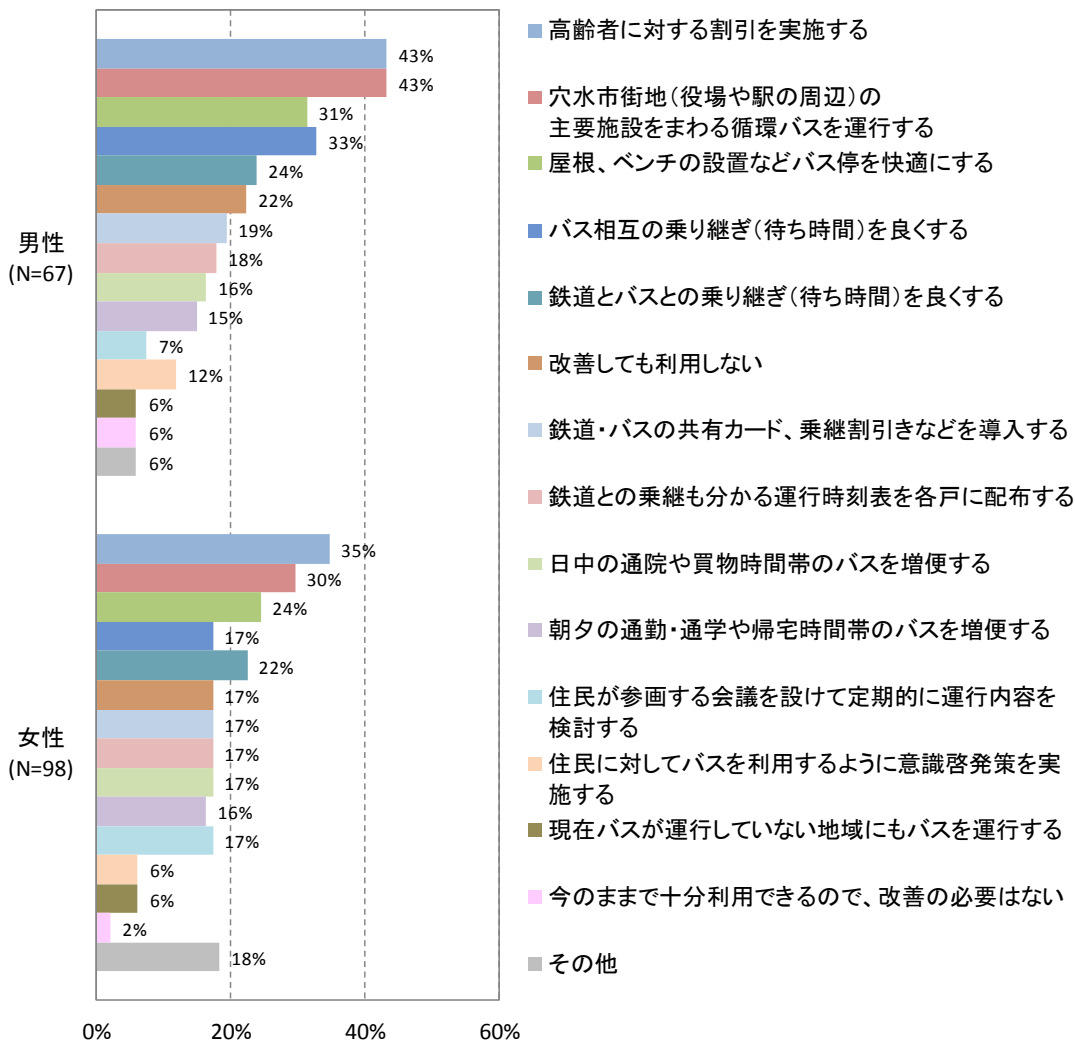
※ 3%未満は非表示

⑬	バスを利用するための改善策（5つ以内で回答）	【新規設問】
<p>・「高齢者に対する割引を実施する」が38%で最も多く、次いで「穴水市街地（役場や駅の周辺）の主要施設をまわる循環バスを運行する」が35%、「屋根、ベンチの設置などバス停を快適にする」が27%となっている。</p>		



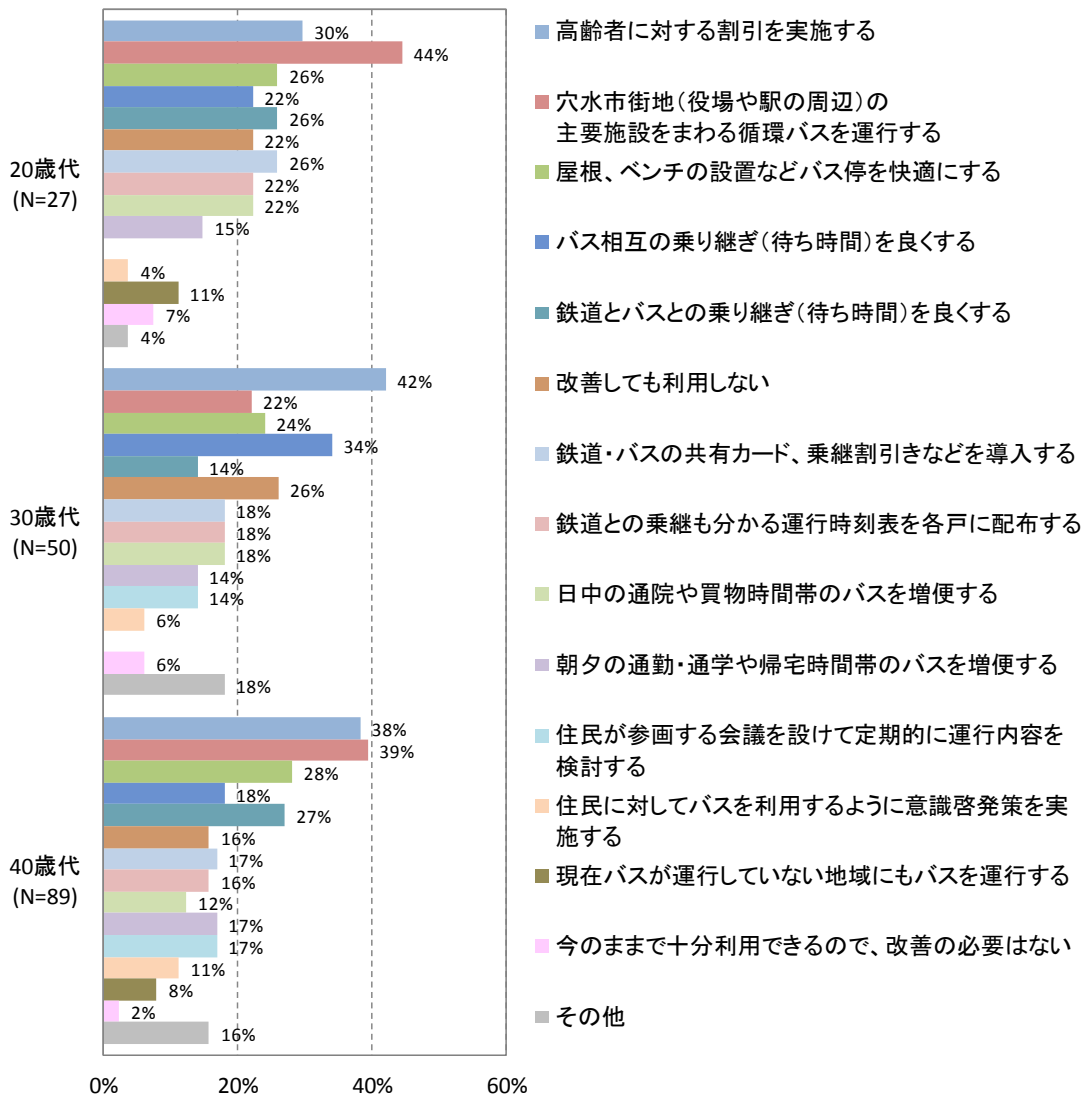
■バスを利用するための改善策（性別）

・性別では、男性で「バス相互の乗り継ぎ（待ち時間）を良くする」が33%と、女性と比べて16ポイント高くなっている。



■ バスを利用するための改善策（年代別）

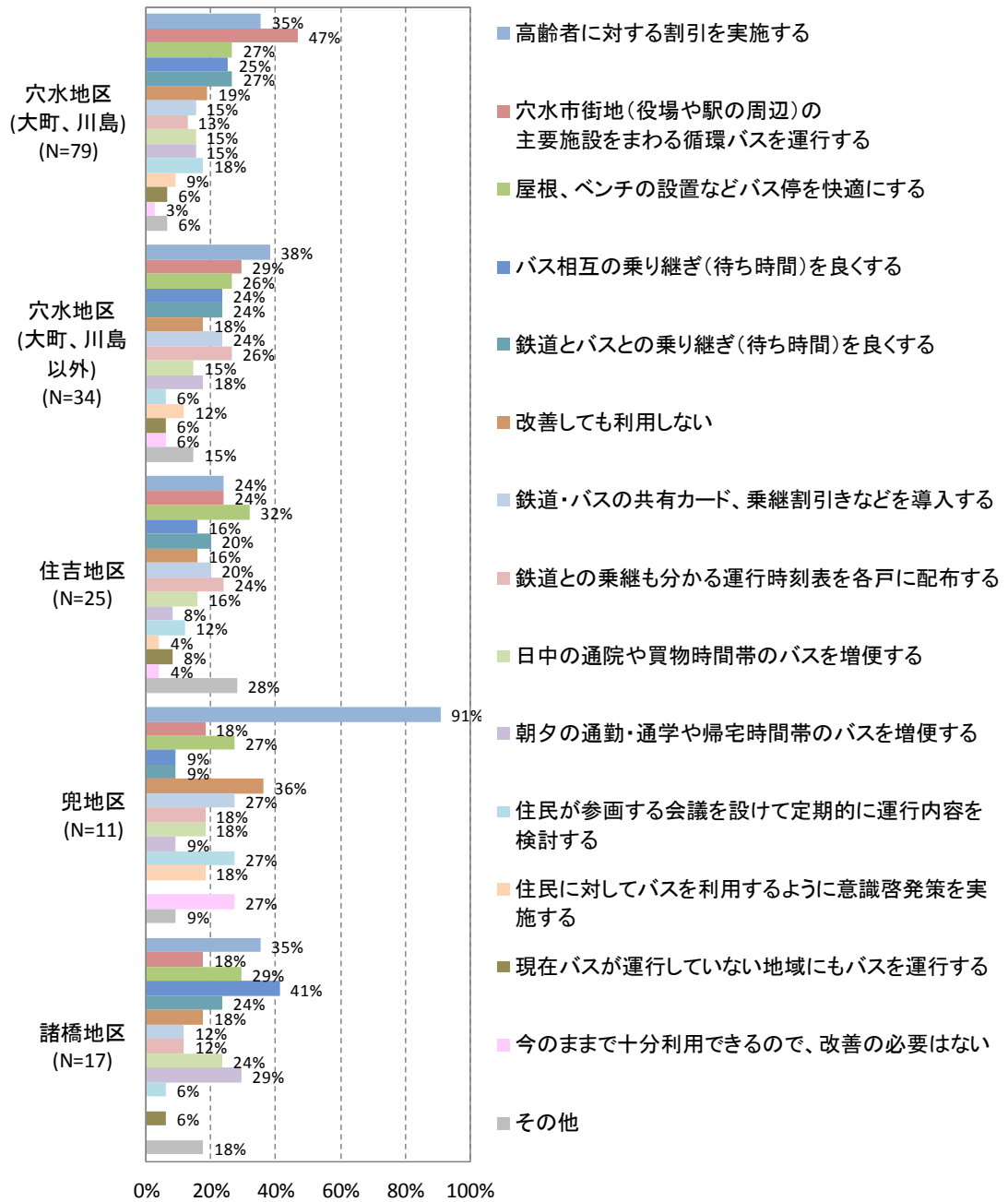
・年代別では、30歳代で「穴水市街地（役場や駅の周辺）の主要施設をまわる循環バスを運行する」が22%と、他と比べて17ポイント以上低くなっている。



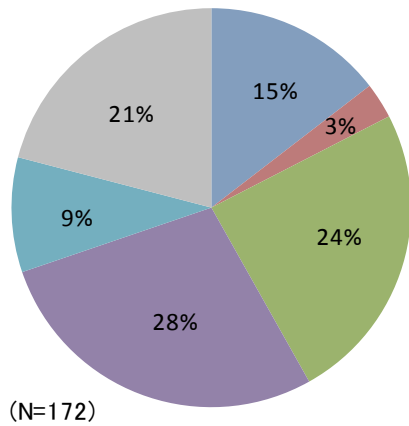


■ バスを利用するための改善策（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「高齢者に対する割引を実施する」が91%と、他と比べて53ポイント以上高くなっている。

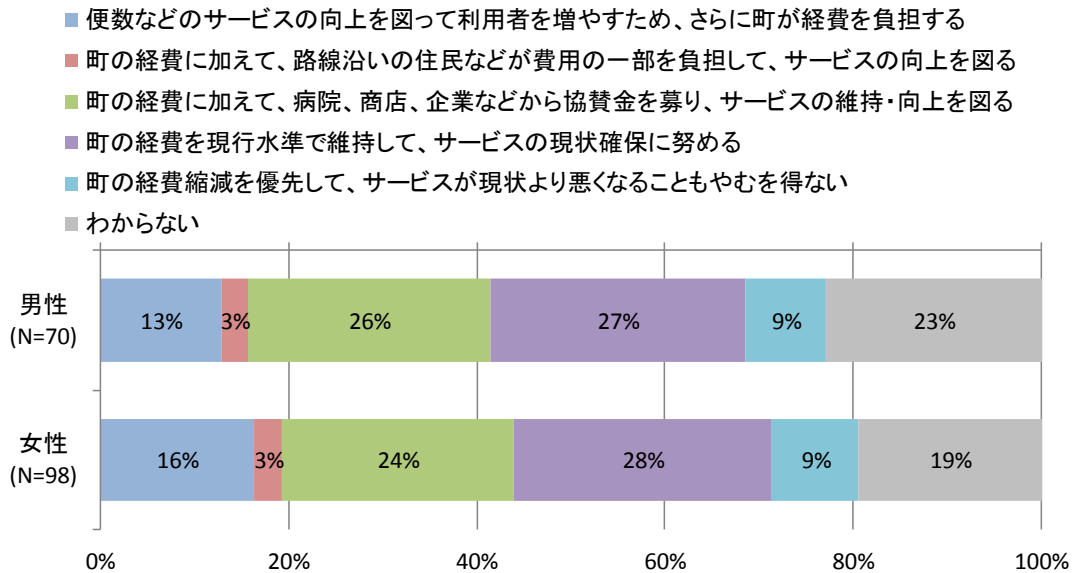


②④	バスを公共交通として維持するための対策	【新規設問】
<p>・「町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める」が 28%で最も多く、次いで「町の経費に加えて、病院、商店、企業などから協賛金を募り、サービスの維持・向上を図る」が 24%、「便数などのサービスの向上を図って利用者を増やすため、さらに町が経費を負担する」が 15%となっている。</p>		



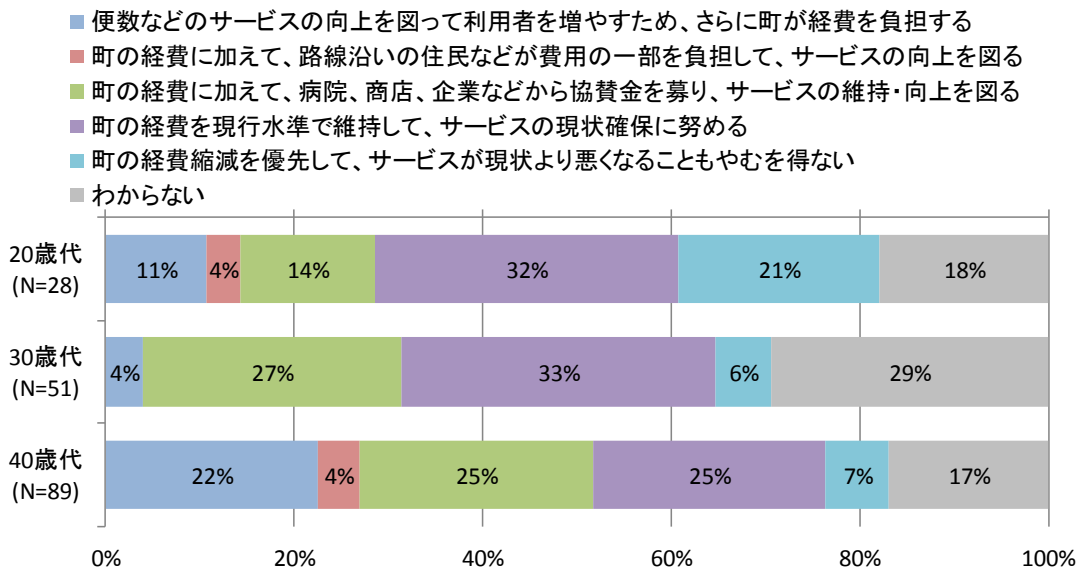
- 便数などのサービスの向上を図って利用者を増やすため、さらに町が経費を負担する
- 町の経費に加えて、路線沿いの住民などが費用の一部を負担して、サービスの向上を図る
- 町の経費に加えて、病院、商店、企業などから協賛金を募り、サービスの維持・向上を図る
- 町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める
- 町の経費縮減を優先して、サービスが現状より悪くなることもやむを得ない
- わからない

■	バスを公共交通として維持するための対策（性別）
<p>・性別では、大きな違いはみられなかった。</p>	



■ バスを公共交通として維持するための対策（年代別）

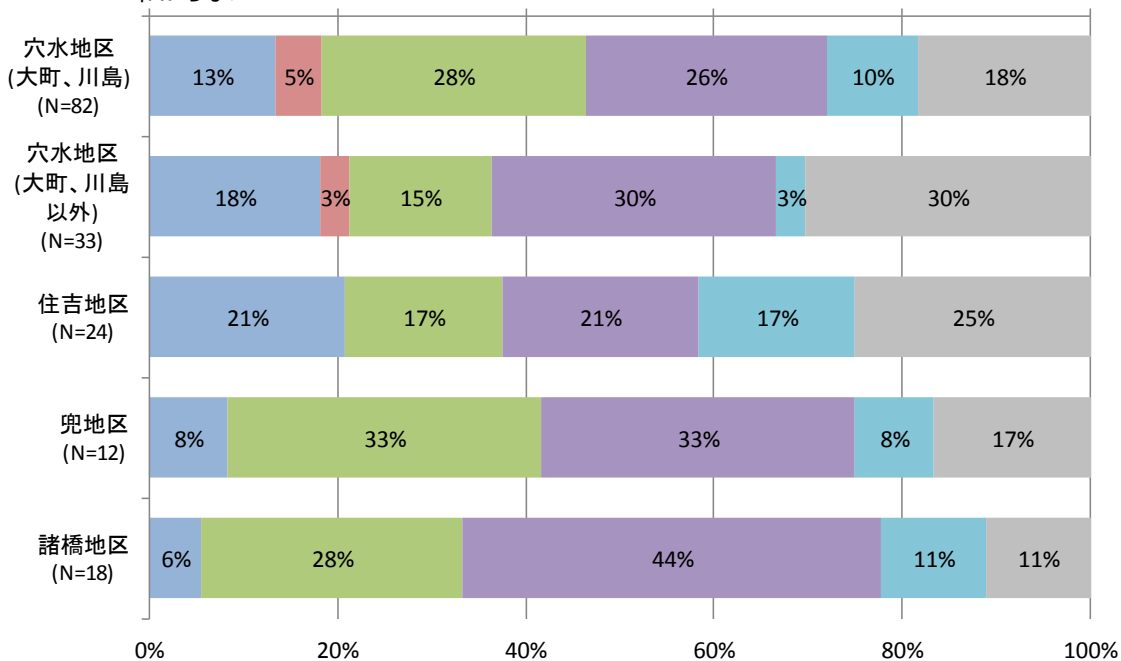
・年代別では、20歳代で「町の経費削減を優先して、サービスが現状より悪くなることもやむを得ない」が21%と、他と比べて14ポイント以上高くなっている。



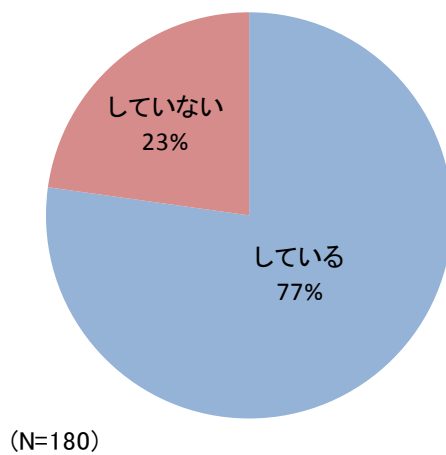
■ バスを公共交通として維持するための対策（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める」が44%と、他と比べて11ポイント以上高くなっている。

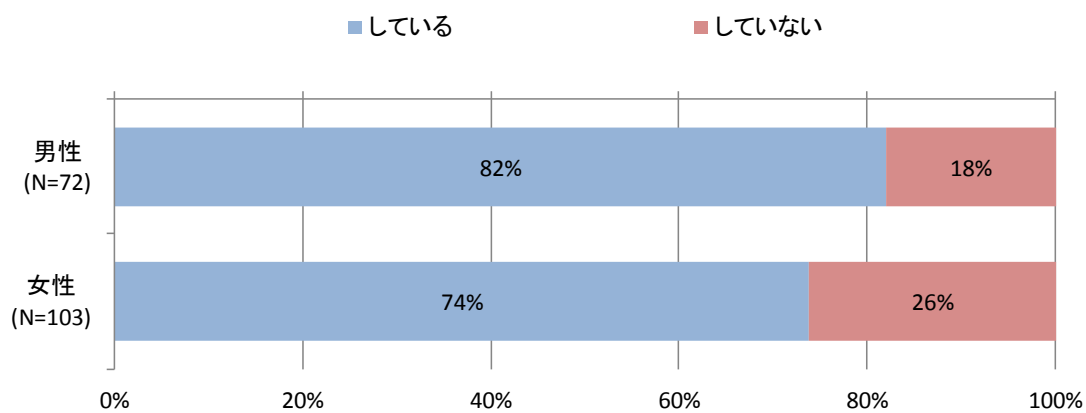
- 便数などのサービスの向上を図って利用者を増やすため、さらに町が経費を負担する
- 町の経費に加えて、路線沿いの住民などが費用の一部を負担して、サービスの向上を図る
- 町の経費に加えて、病院、商店、企業などから協賛金を募り、サービスの維持・向上を図る
- 町の経費を現行水準で維持して、サービスの現状確保に努める
- 町の経費削減を優先して、サービスが現状より悪くなることもやむを得ない
- わからない



⑫	墓の所有	【新規設問】
<p>・「している」が77%、「していない」が23%となっている。</p>		

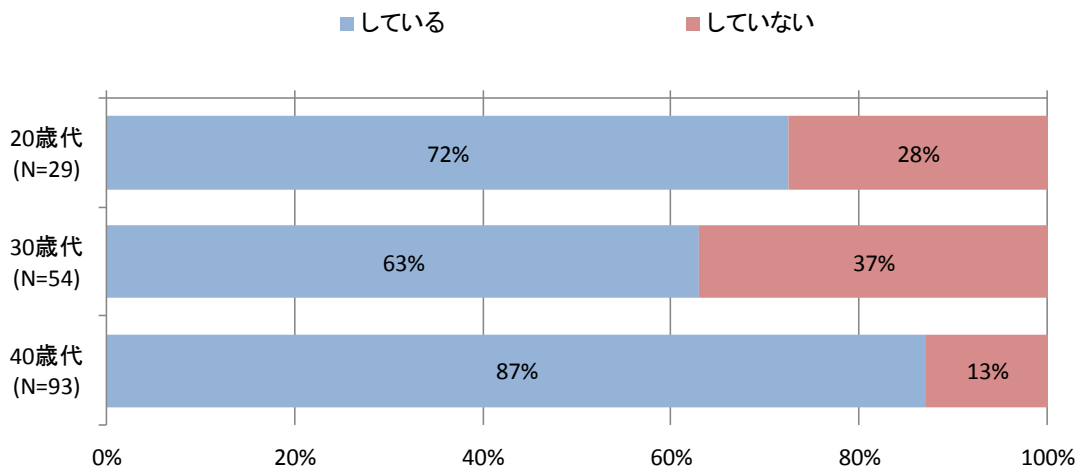


■ 墓の所有 (性別)
<p>・性別では、男性で「している」が82%と、女性と比べて8ポイント高くなっている。</p>



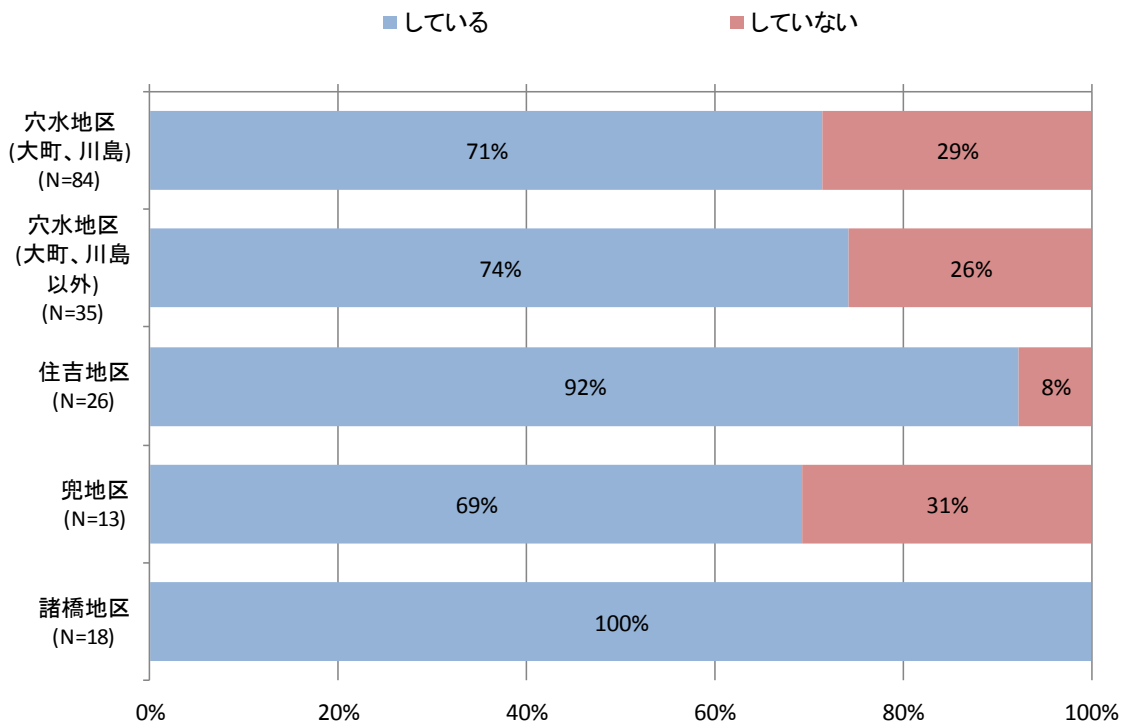
■墓の所有（年代別）

・年代別では、40歳代で「している」が87%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。

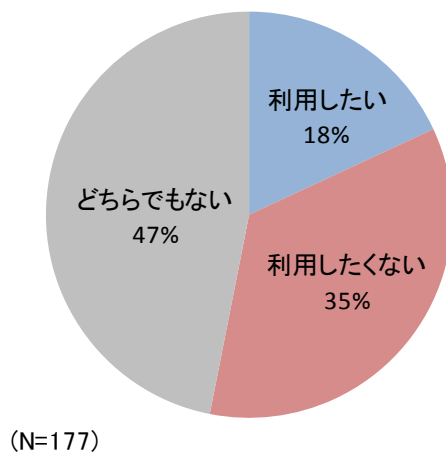


■墓の所有（居住地別）

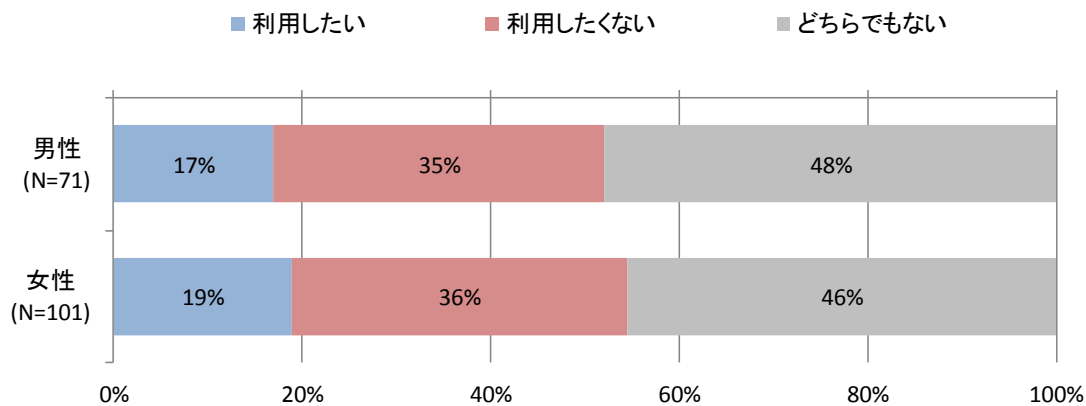
・居住地別では、諸橋地区で「している」が100%となっている。



②⑥	合葬墓を利用したいか	【新規設問】
<p>・「どちらでもない」が47%で最も多く、次いで「利用したくない」が35%、「利用したい」が18%となっている。</p>		

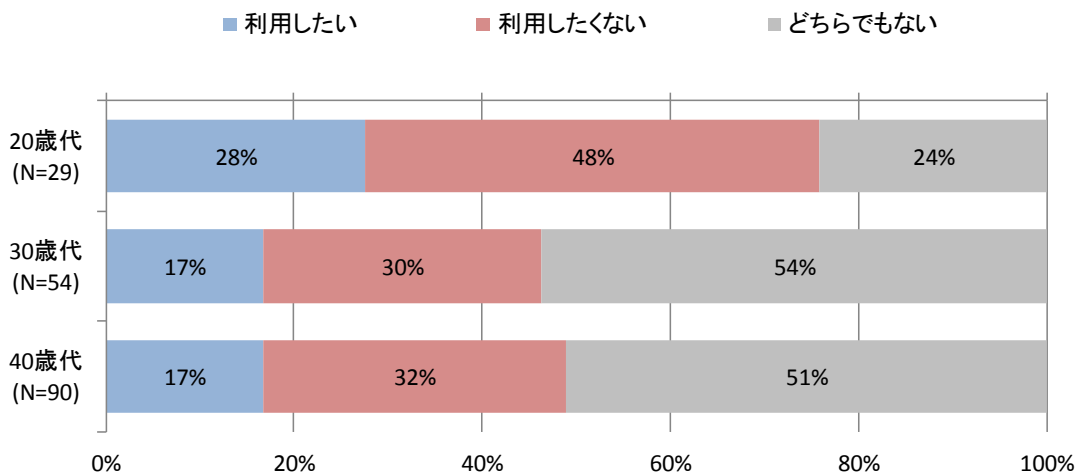


<b>■ 合葬墓を利用したいか (性別)</b>	
・性別では、大きな違いはみられなかった。	



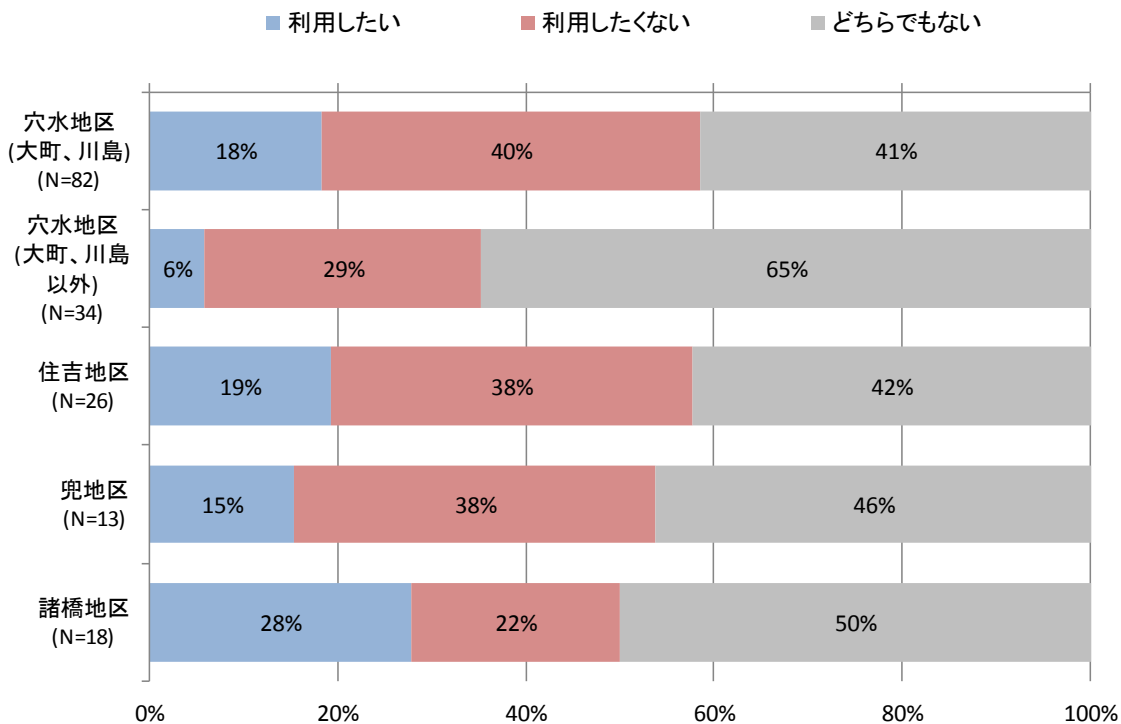
■合葬墓を利用したいか（年代別）

・年代別では、20歳代で「利用したくない」が48%と、他と比べて16ポイント以上高くなっている。



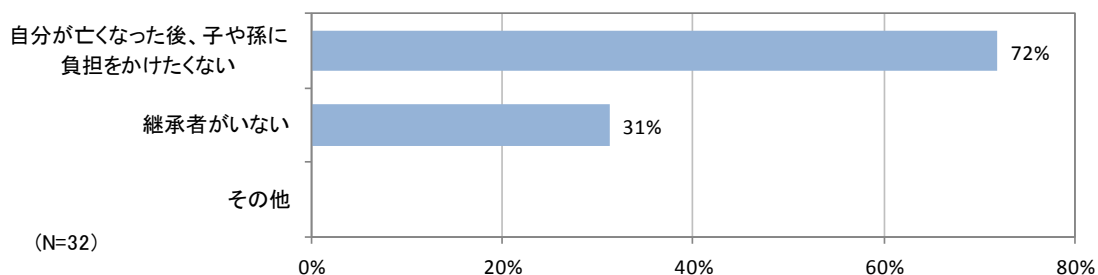
■合葬墓を利用したいか（居住地別）

・居住地別では、穴水地区（大町、川島以外）で「どちらでもない」が65%と、他と比べて15ポイント以上高くなっている。

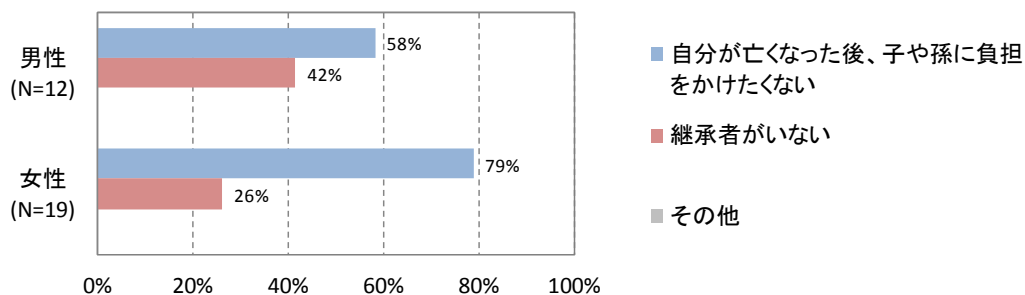




⑰	合葬墓を利用したい理由（当てはまるものすべて回答）	【新規設問】
※⑯で「利用したい」との回答者を対象に集計		
<p>・「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が72%で最も多く、次いで「継承者がいない」が31%、「その他」が0%となっている。</p>		

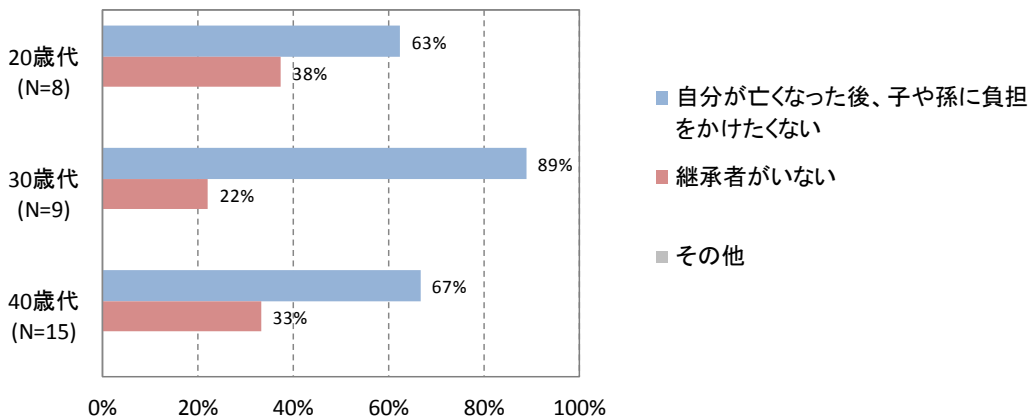


<b>■ 合葬墓を利用したい理由（性別）</b>	
<p>・性別では、女性で「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が79%と、男性と比べて21ポイント高くなっている。</p>	



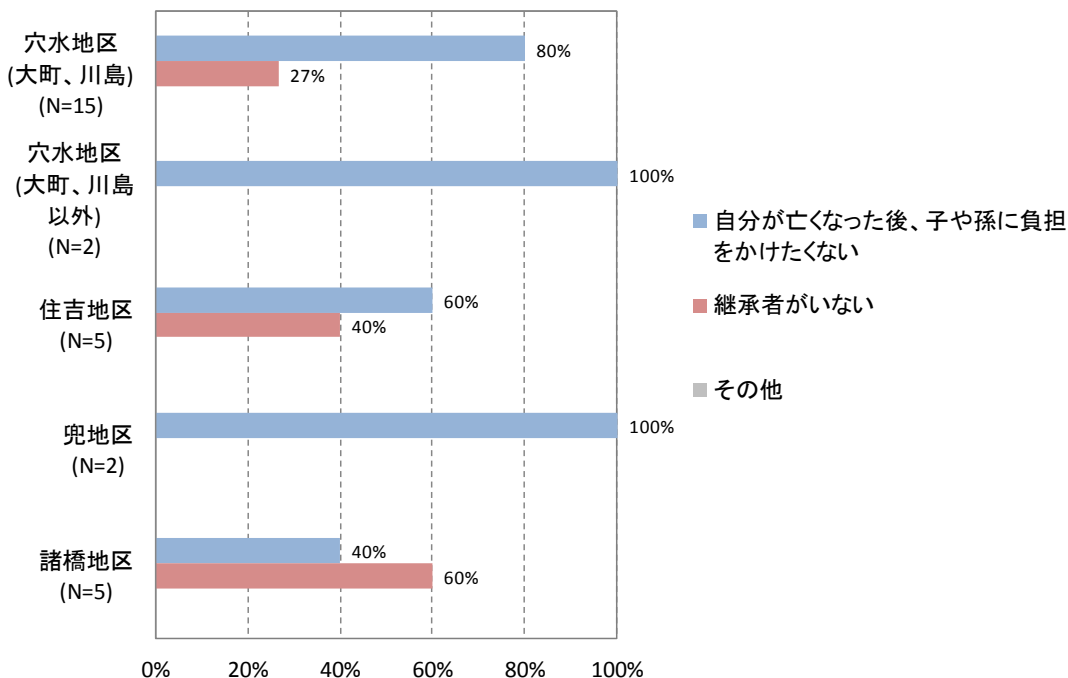
■合葬墓を利用したい理由（年代別）

・年代別では、30歳代で「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が89%と、他と比べて22ポイント以上高くなっている。

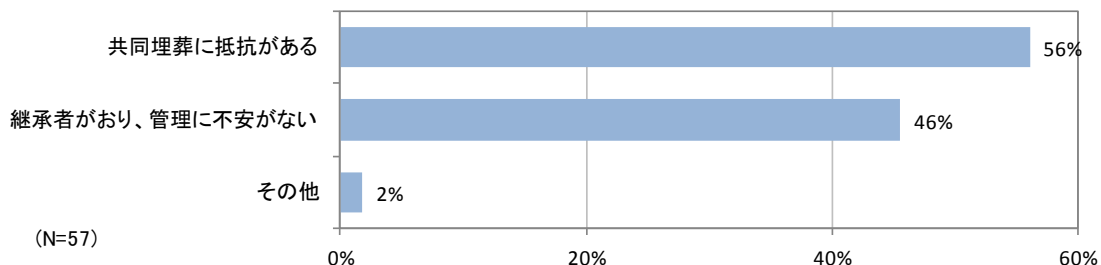


■合葬墓を利用したい理由（居住地別）

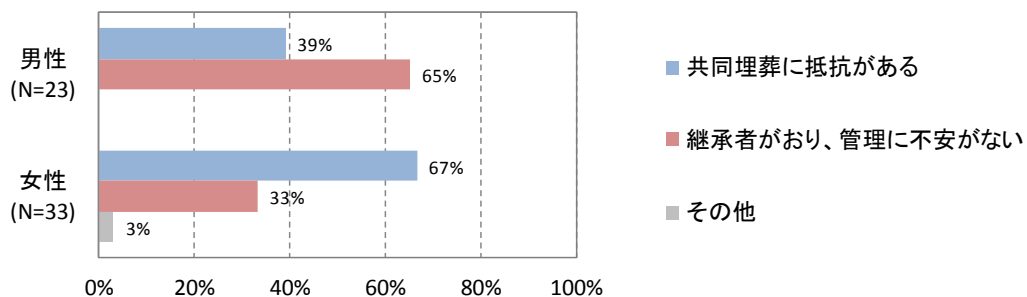
・居住地別では、諸橋地区で「自分が亡くなった後、子や孫に負担をかけたくない」が40%と、他と比べて20ポイント以上低くなっている一方で、「継承者がいない」が60%と、他と比べて20ポイント以上高くなっている。



⑳	合葬墓を利用したくない理由（当てはまるものすべて回答）	【新規設問】
※㉔で「利用したくない」との回答者を対象に集計		
<p>・「共同埋葬に抵抗がある」が56%で最も多く、次いで「継承者がおり、管理に不安がない」が46%、「その他」が2%となっている。</p>		

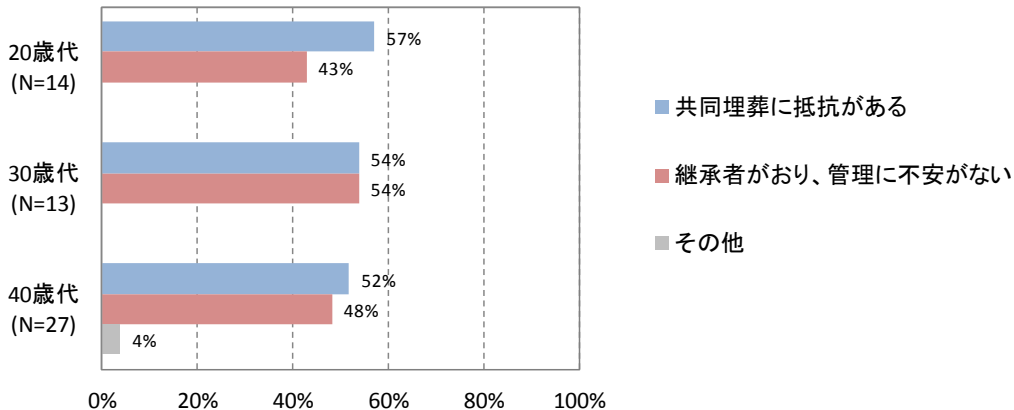


<b>■ 合葬墓を利用したくない理由（性別）</b>	
<p>・性別では、男性で「継承者がおり、管理に不安がない」が65%と、女性と比べて32ポイント高くなっている。</p>	



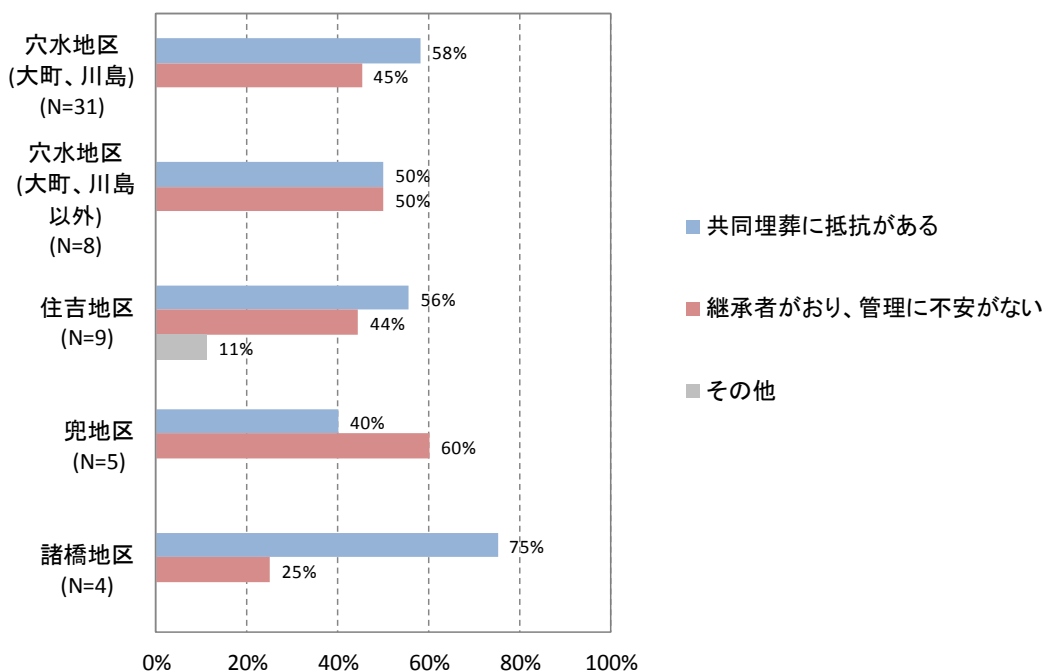
■合葬墓を利用したくない理由（年代別）

・年代別では、30歳代で「継承者があり、管理に不安がない」が54%と、他と比べて6ポイント以上高くなっている。



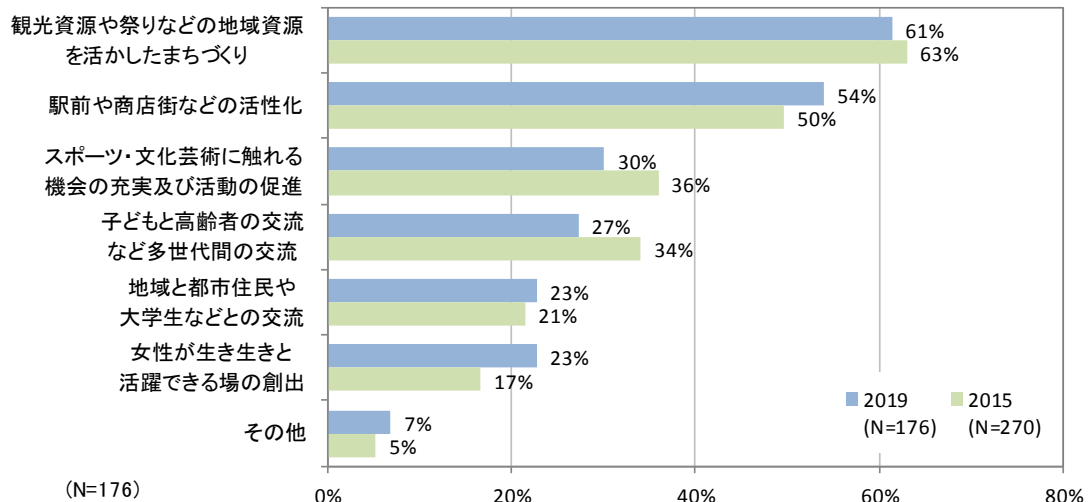
■合葬墓を利用したくない理由（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「継承者があり、管理に不安がない」が25%と、他と比べて19ポイント以上低くなっている。

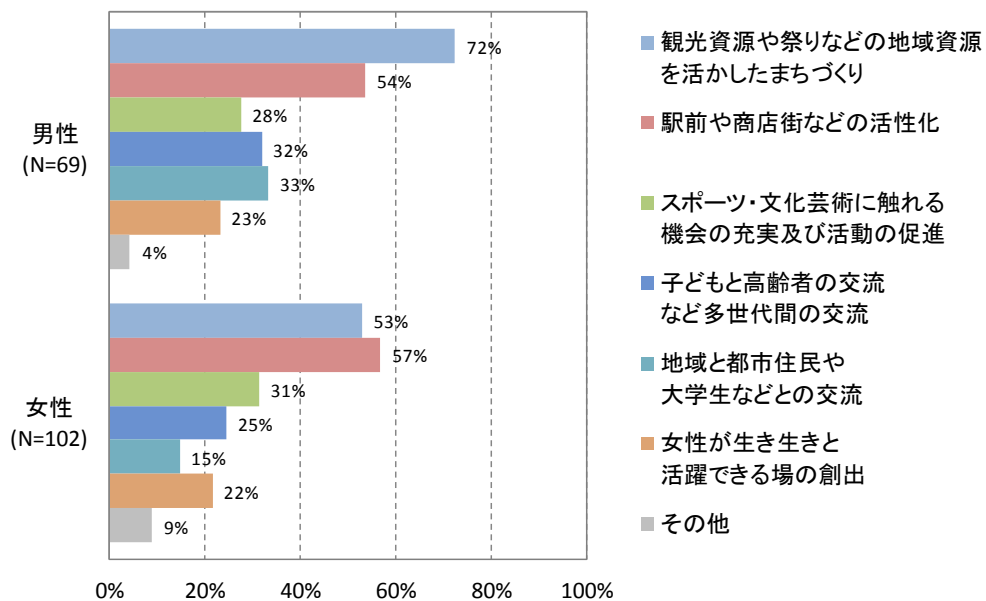


【問6】今後の穴水町の活性化とまちづくりの方向性について

⑳	地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（3つ以内で回答）
<p>・「観光資源や祭りなどの地域資源を活かしたまちづくり」が61%で最も多く、次いで「駅前や商店街などの活性化」が54%、「スポーツ・文化芸術に触れる機会の充実及び活動の促進」が30%となっている。</p> <p>・前回との比較では、2019年で「子どもと高齢者の交流など多世代間の交流」が27%と、2015年と比べて7ポイント低くなっている。</p>	

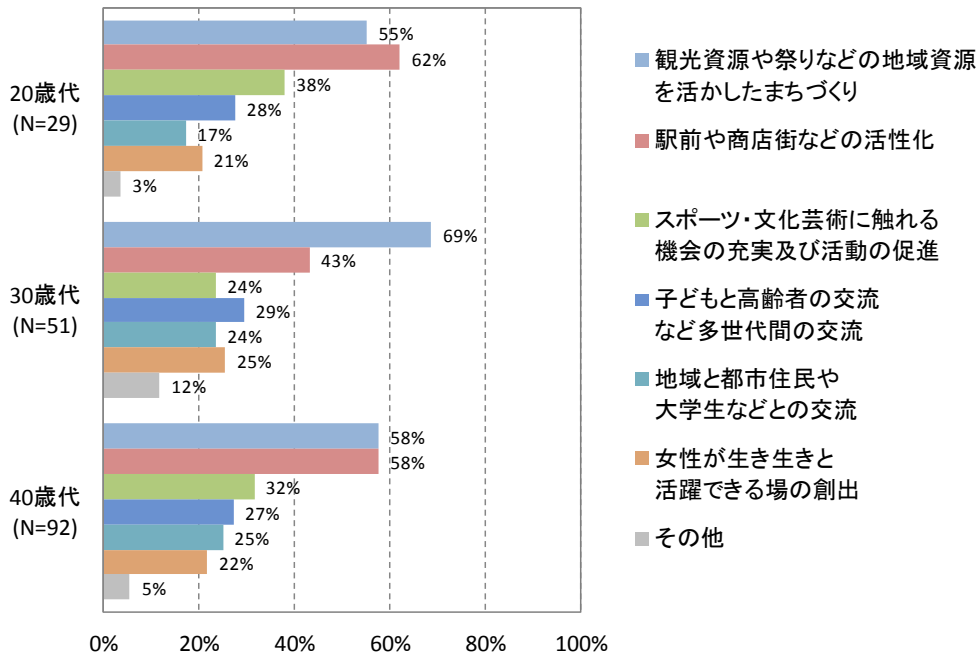


■	地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（性別）
<p>・性別では、男性で「観光資源や祭りなどの地域資源を活かしたまちづくり」が72%と、女性と比べて19ポイント高くなっている。</p>	



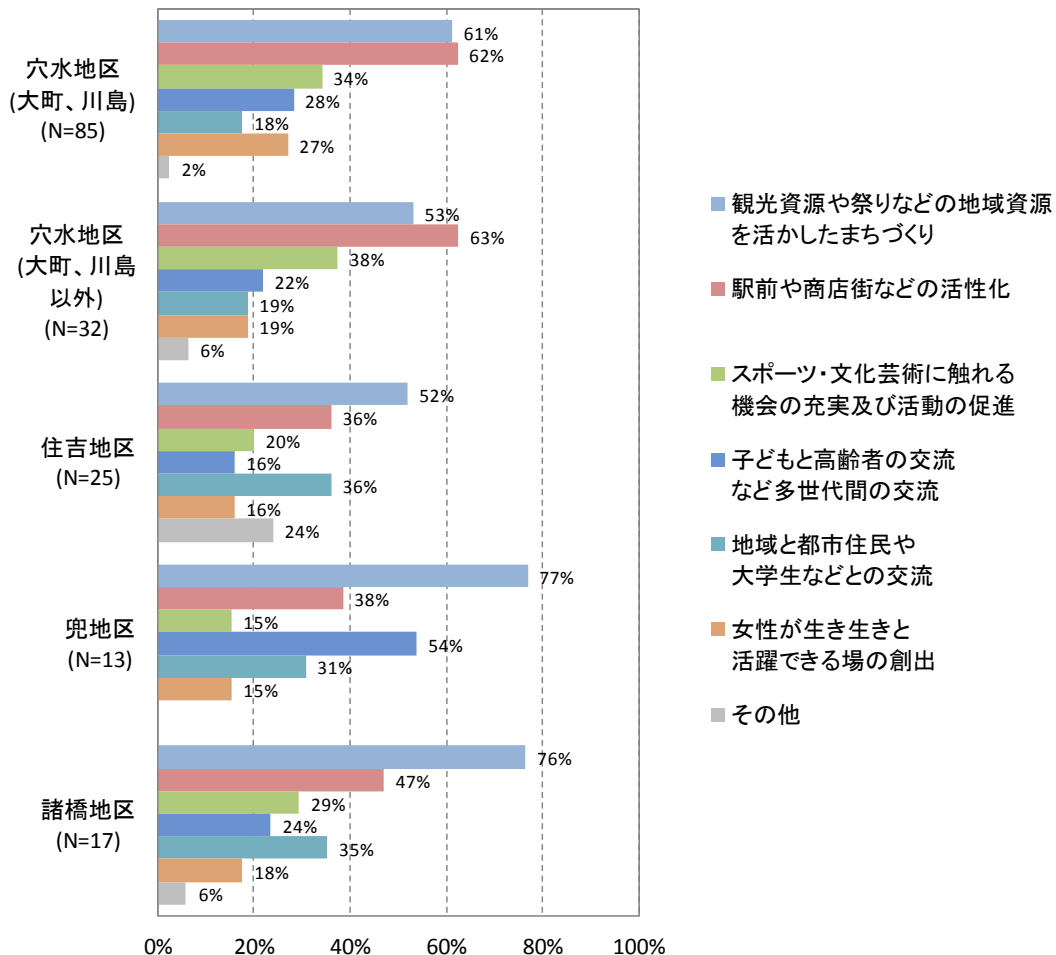
■地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（年代別）

・年代別では、30歳代で「駅前や商店街などの活性化」が43%と、他と比べて15ポイント以上低くなっている。



■地域の活性化、にぎわい創出を目指す取組（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「子どもと高齢者の交流など多世代間の交流」が54%と、他と比べて26ポイント以上高くなっている。

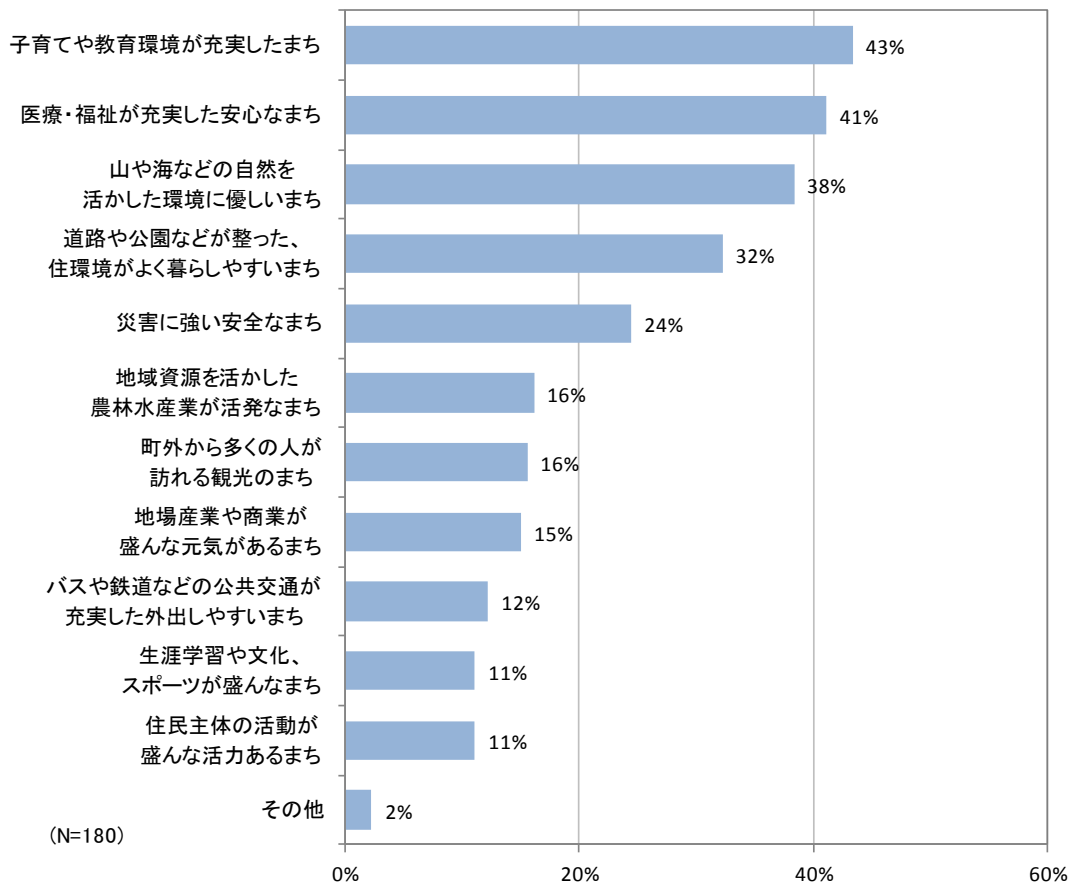


⑩

穴水町の目指すべき姿（3つ以内で回答）

【新規設問】

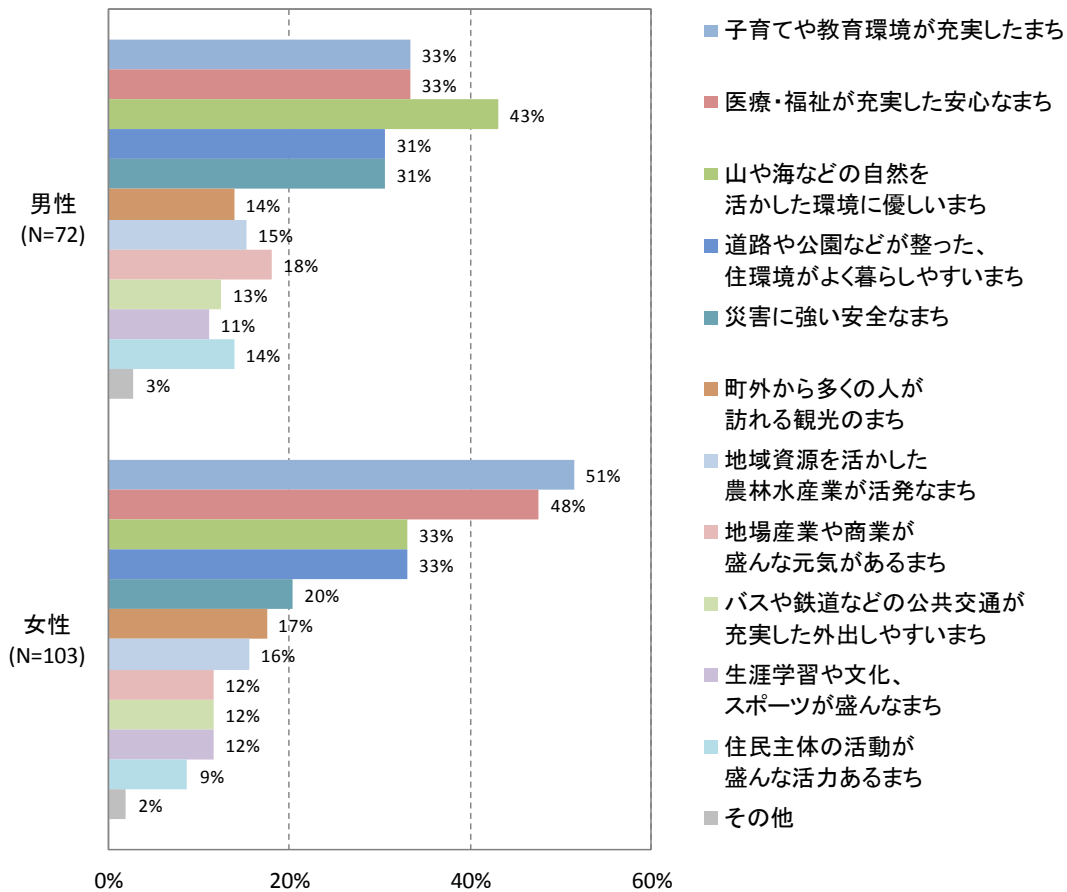
・「子育てや教育環境が充実したまち」が43%で最も多く、次いで「医療・福祉が充実した安心なまち」が41%、「山や海などの自然を活かした環境に優しいまち」が38%となっている。





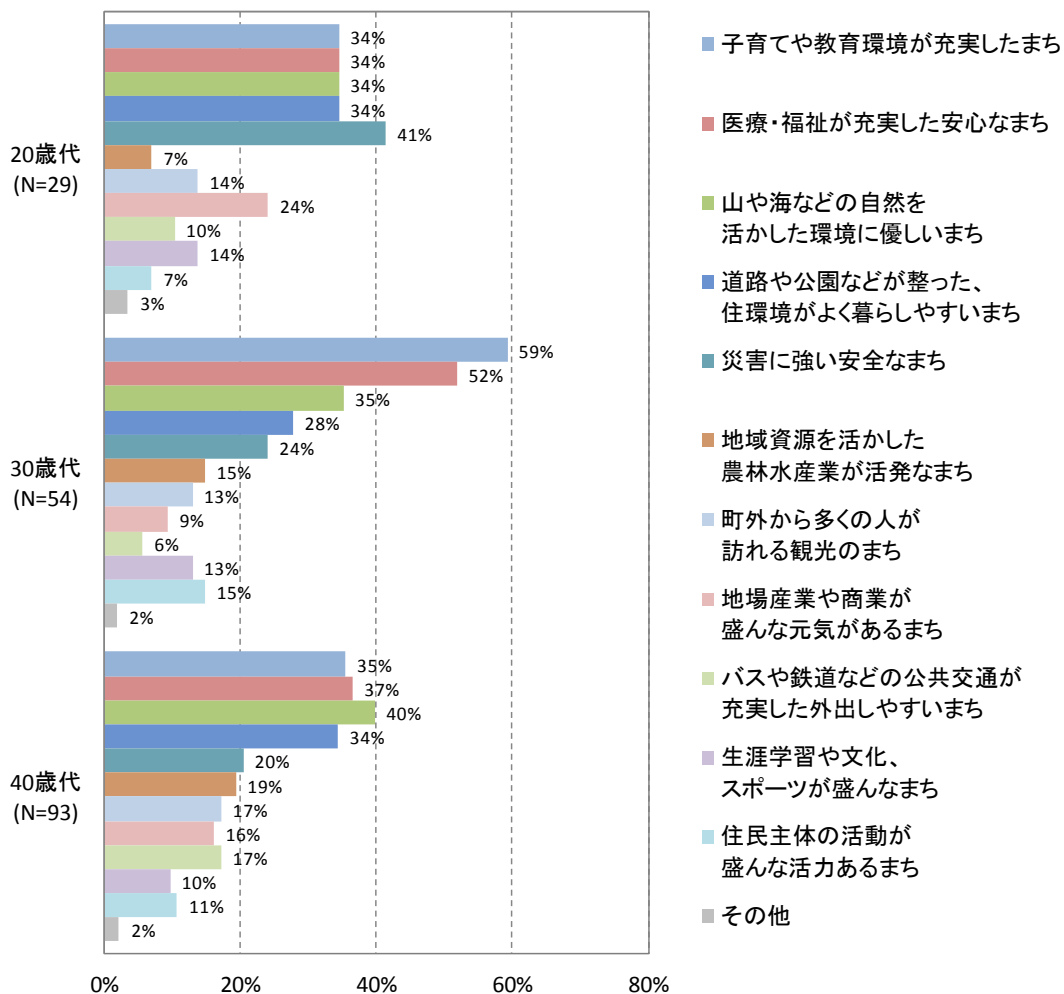
■ 穴水町の目指すべき姿（性別）

・性別では、女性で「子育てや教育環境が充実したまち」が51%と、男性と比べて18ポイント高くなっている。



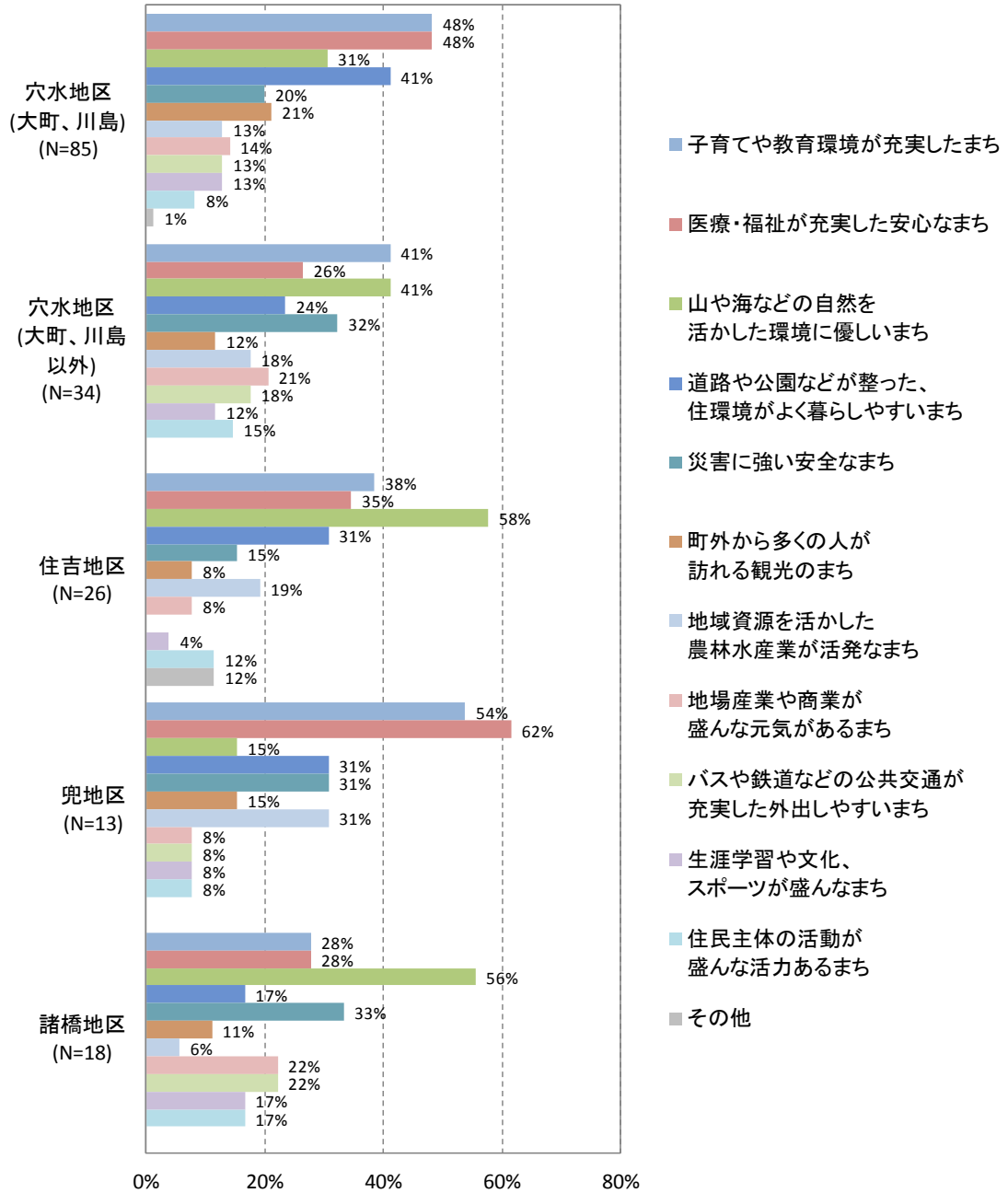
■ 穴水町の目指すべき姿（年代別）

・年代別では、30歳代で「子育てや教育環境が充実したまち」が59%と、他と比べて24ポイント以上高くなっている。



■ 穴水町の目指すべき姿（居住地別）

・居住地別では、兜地区で「山や海などの自然を活かした環境に優しいまち」が15%と、他と比べて16ポイント以上低くなっている。

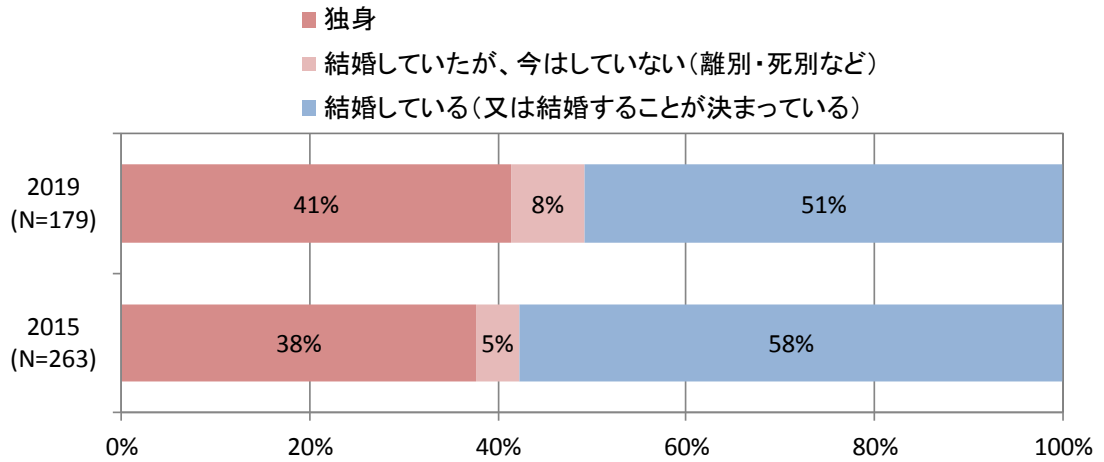


③①	意見（自由回答）
	・「行政（14件）」、「環境・施設整備（12件）」、「まちづくり（6件）」、「交通（6件）」に関する回答が多く、「行政」では主に「行政サービスの向上」「経費の削減」等が回答されている。

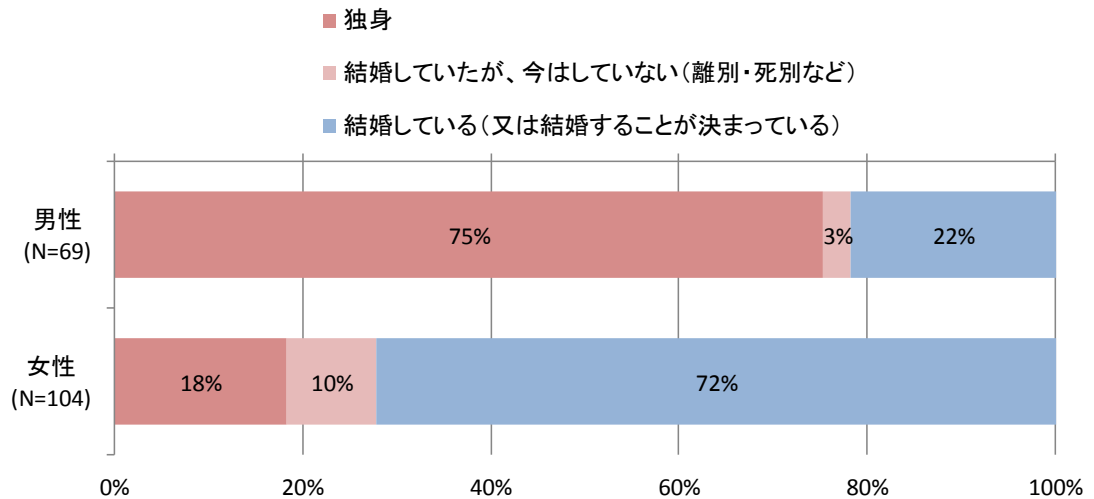
項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=56)	2015年 (N=90)	
行政	14	12	行政サービスの向上 経費の削減
環境・施設整備	12	21	公園の整備 商業施設の充実
まちづくり	6	15	移住者が住みやすいまちづくり
交通	6	7	公共交通の充実
観光	4	3	観光スポットの充実
イベント	3	4	地域の人たちが参加しやすい行事づくり
企業誘致・雇用	2	9	労働できる場所・環境づくり
子育て	2	7	子育て支援のさらなる充実
空き家・空き地	2	-	空き家の再利用
地域協力	-	4	-
その他	5	8	イノシシの利用、ジビエ料理の商品化 水道代が高い

【問7】結婚・出産・子育てについて

⑳	結婚について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「結婚している（又は結婚することが決まっている）」が51%で最も多く、次いで「独身」が41%、「結婚していたが、今はしていない（離別・死別など）」が8%となっている。</li> <li>・前回との比較では、2019年で「結婚している（又は結婚することが決まっている）」が51%と、2015年と比べて7ポイント低くなっている。</li> </ul>

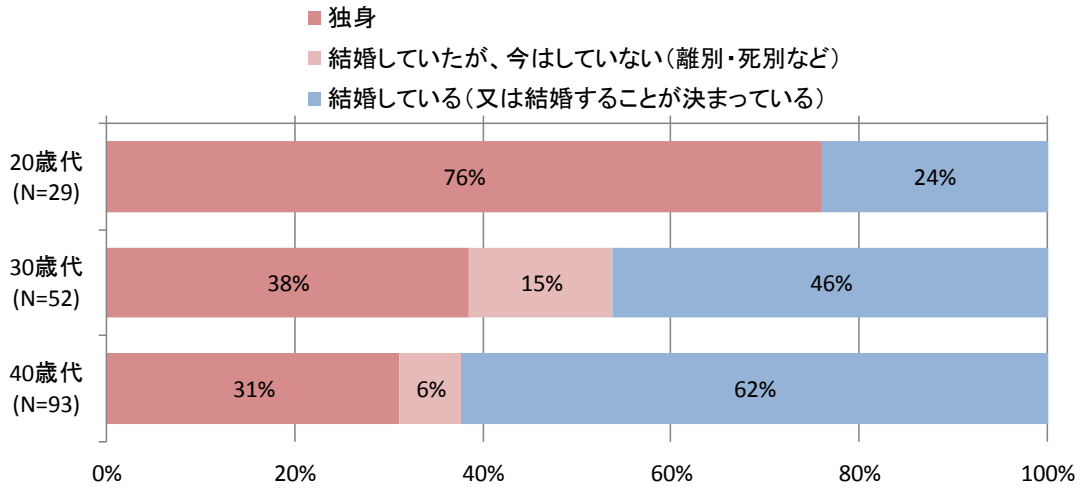


■	結婚について（性別）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別では、男性で「独身」が75%と、女性と比べて57ポイント高くなっている。</li> </ul>



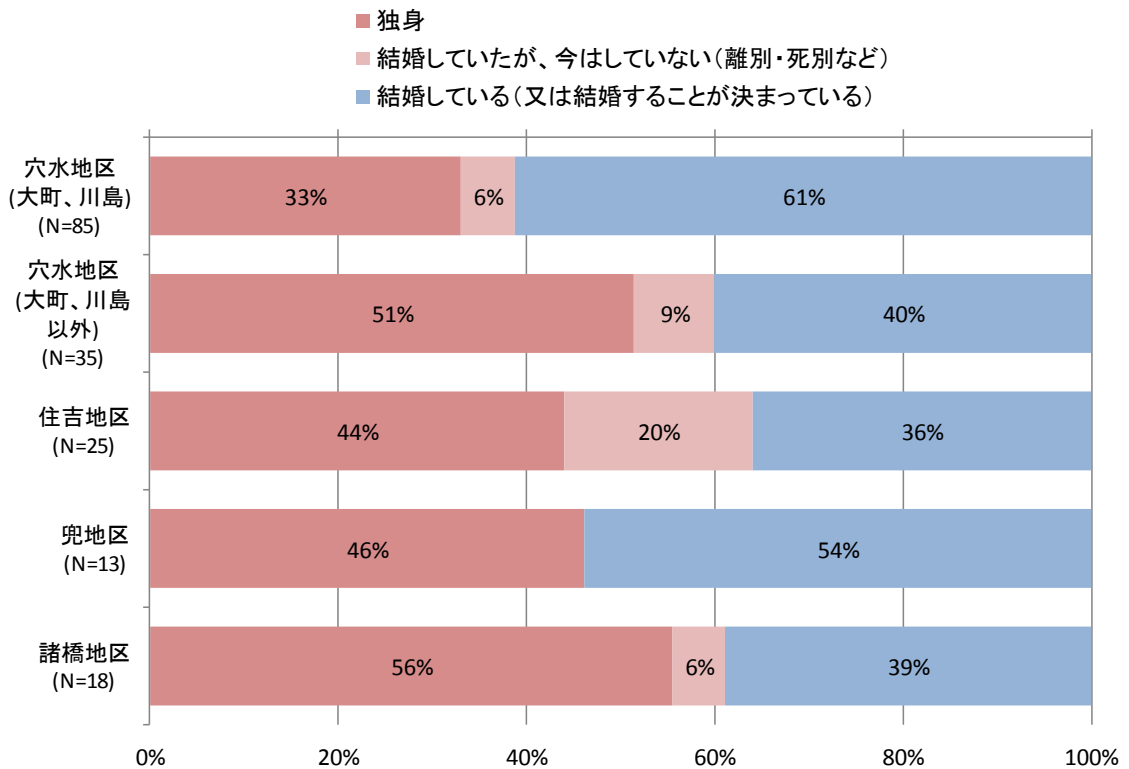
■ 結婚について（年代別）

・年代別では、20歳代で「独身」が76%と、他と比べて38ポイント以上高くなっている。

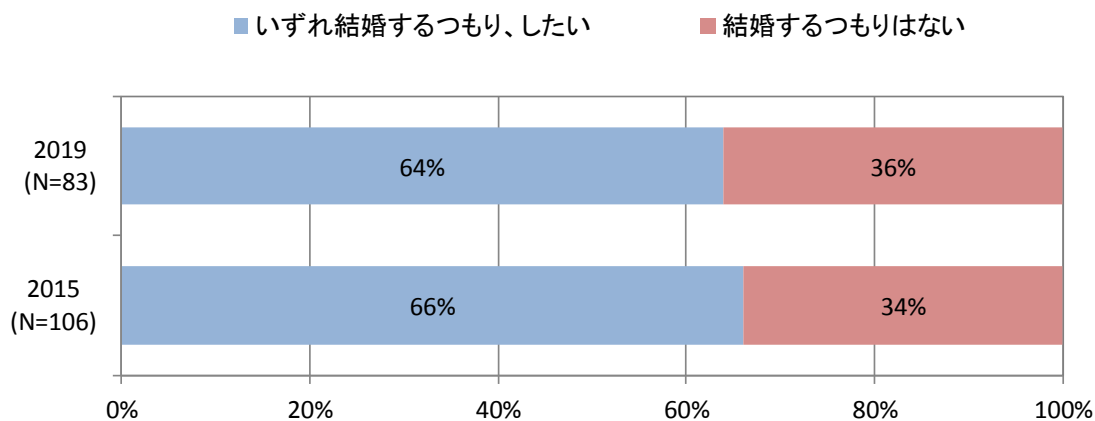


■ 結婚について（居住地別）

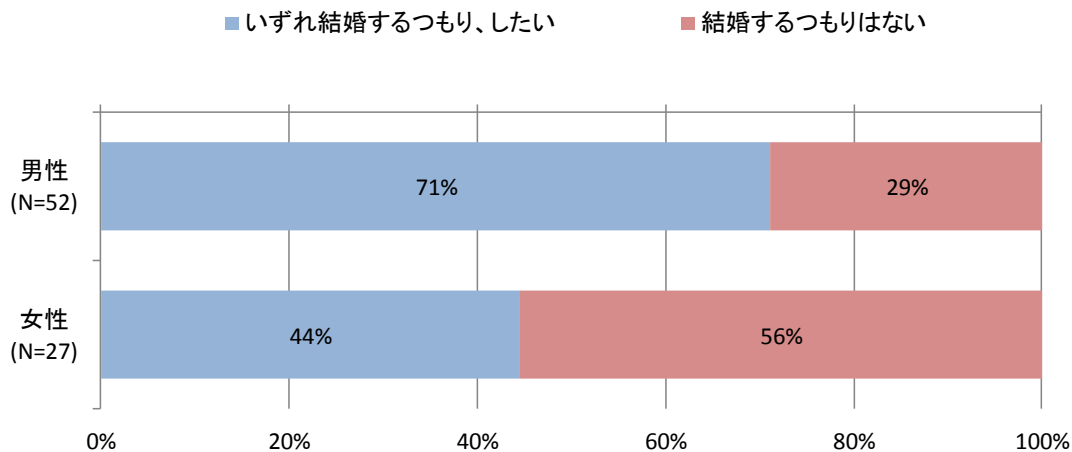
・居住地別では、穴水地区（大町、川島）で「独身」が33%、他と比べて11ポイント以上低くなっている。また、住吉地区で「結婚していたが、今はしていない（離別・死別など）」が20%と、他と比べて11ポイント以上高くなっている。



③③	<b>将来結婚したいか</b> <small>※③②で「独身」「結婚していたが、今はしていない（離別・死別など）」との回答者を対象に集計</small>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いずれ結婚するつもり、したい」が 64%、「結婚するつもりはない」が 36%となっている。</li> <li>・前回との比較では、大きな違いはみられなかった。</li> </ul>	

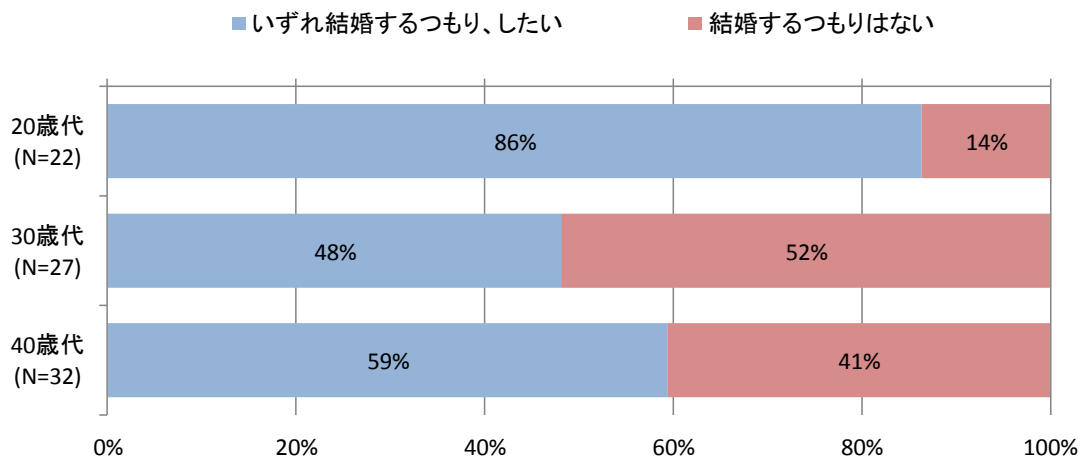


<b>■ 将来結婚したいか（性別）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別では、男性で「いずれ結婚するつもり、したい」が 71%と、女性と比べて 27 ポイント高くなっている。</li> </ul>	



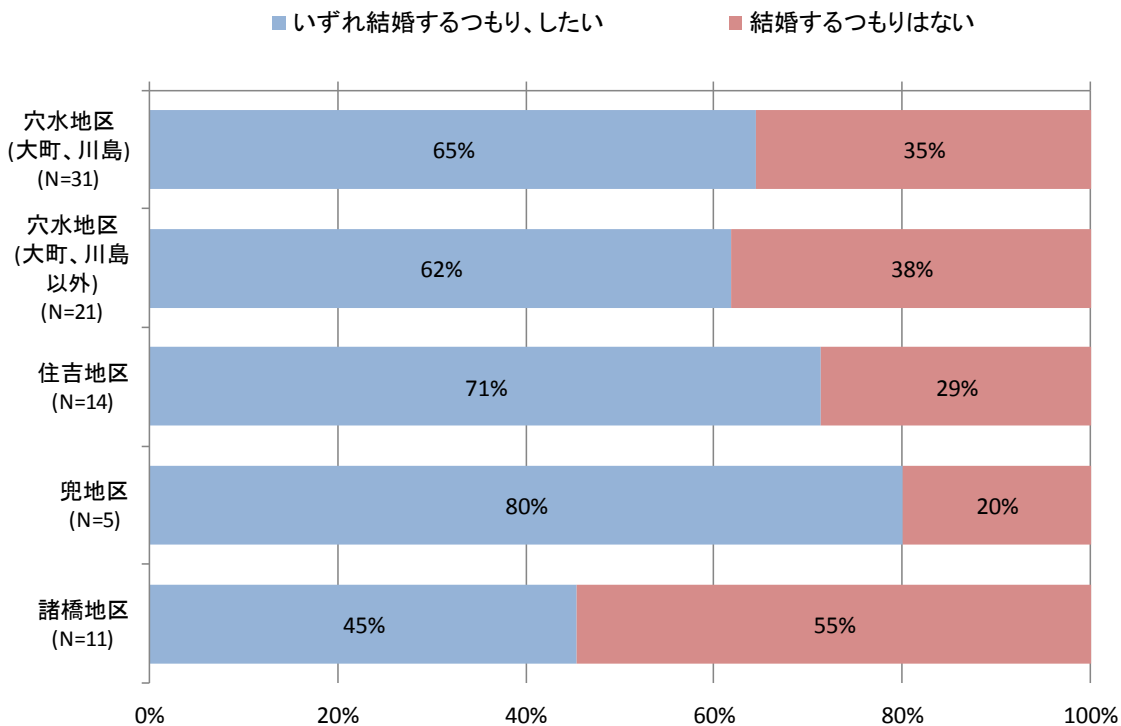
■ 将来結婚したいか（年代別）

・年代別では、20歳代で「いずれ結婚するつもり、したい」が86%と、他と比べて27ポイント以上高くなっている。



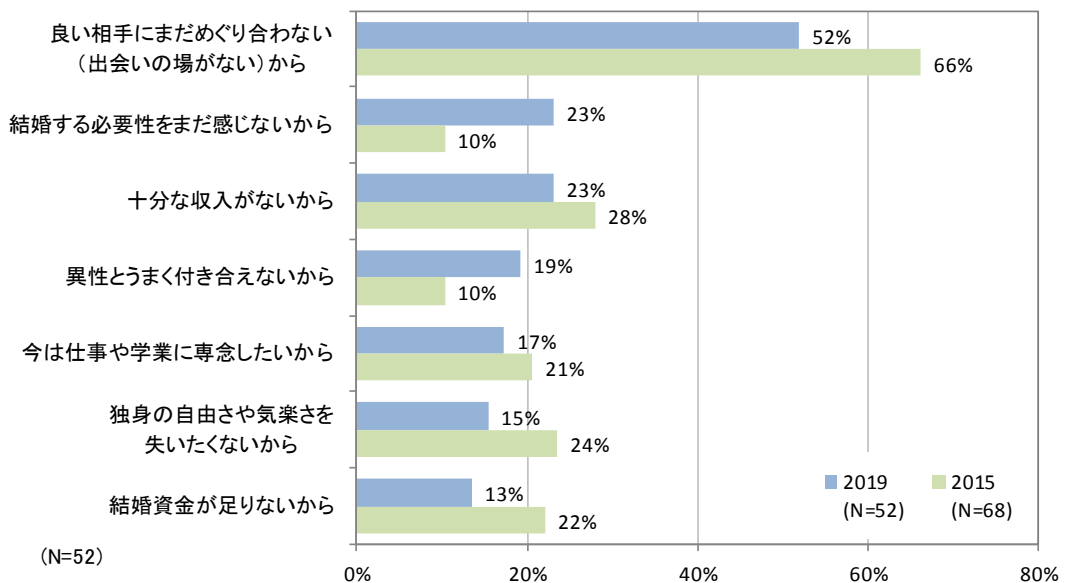
■ 将来結婚したいか（居住地別）

・居住地別では、諸橋地区で「結婚するつもりはない」が55%と、他と比べて17ポイント以上高くなっている。





③④	<b>独身でいる理由（3つ以内で回答）</b>
	※③④で「いずれ結婚するつもり、したい」との回答者を対象に集計
<p>・「良い相手にまだめぐり合わない（出会いの場がない）から」が52%で最も多く、次いで「結婚する必要性をまだ感じないから」「十分な収入がないから」が23%となっている。</p> <p>・前回との比較では、2019年で「良い相手にまだめぐり合わない（出会いの場がない）から」が52%と、2015年と比べて14ポイント低くなっている。</p>	

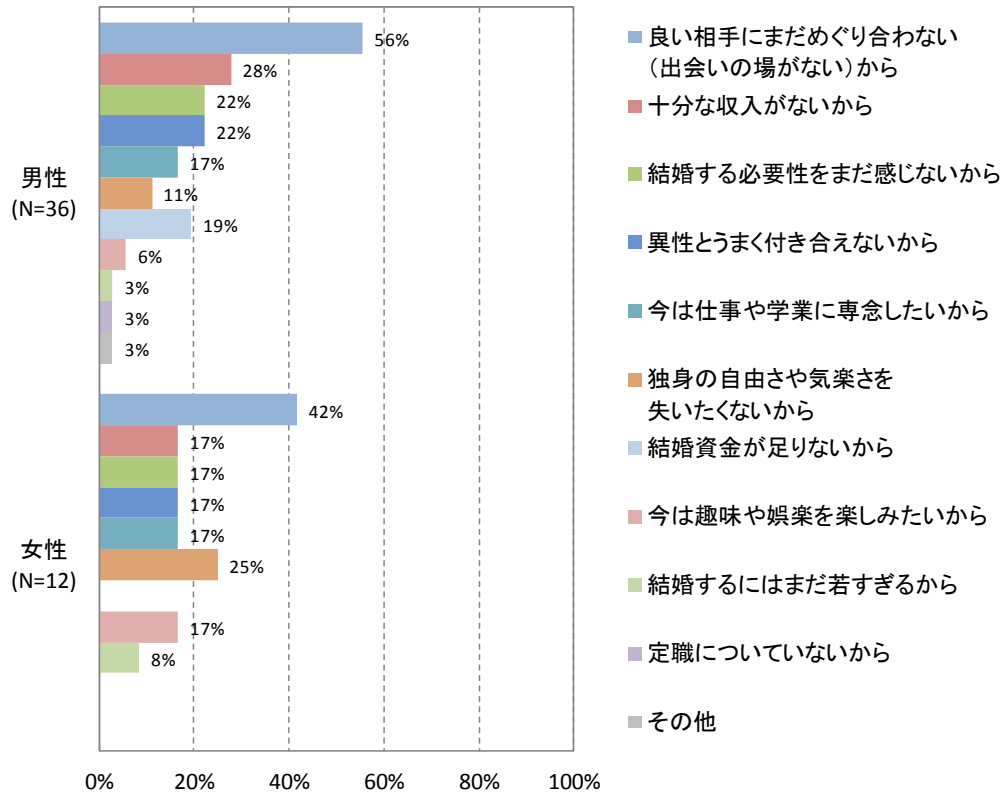


※選択肢について

本調査（2019年）では、前回調査（2015年）で回答が少なかった一部の選択肢を除いている。なお、2015年の値は削除した選択肢を除いて再集計している。

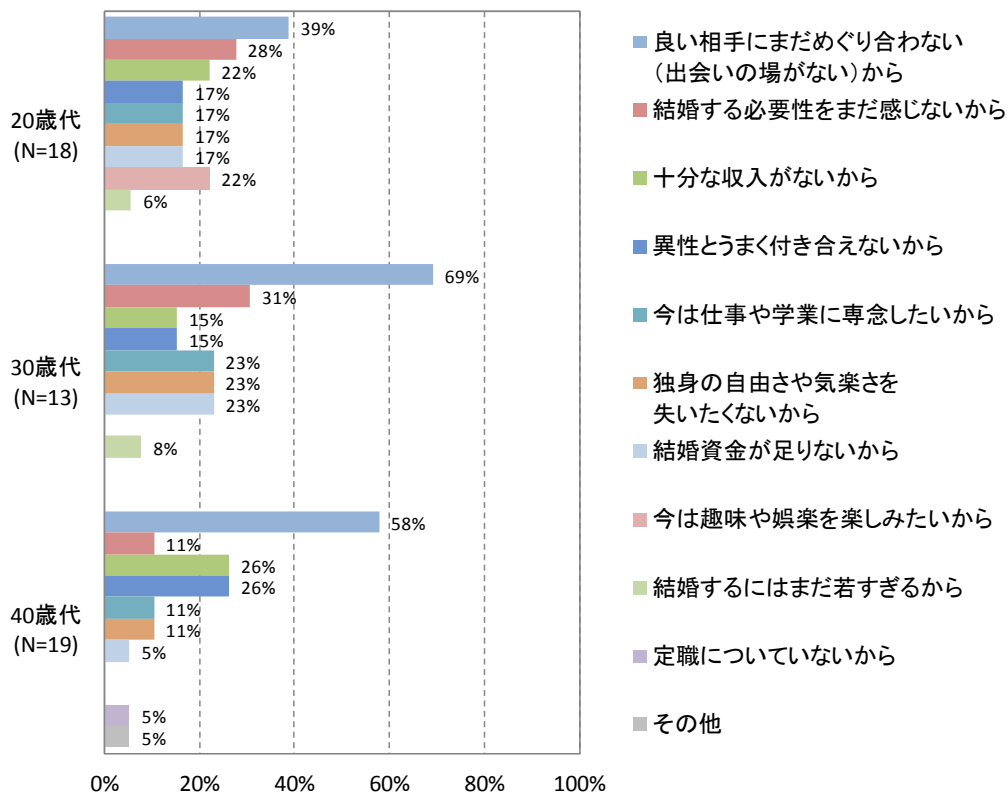
### ■独身でいる理由（性別）

・性別では、男性で「結婚資金が足りないから」が19%と、女性と比べて19ポイント高くなっている。



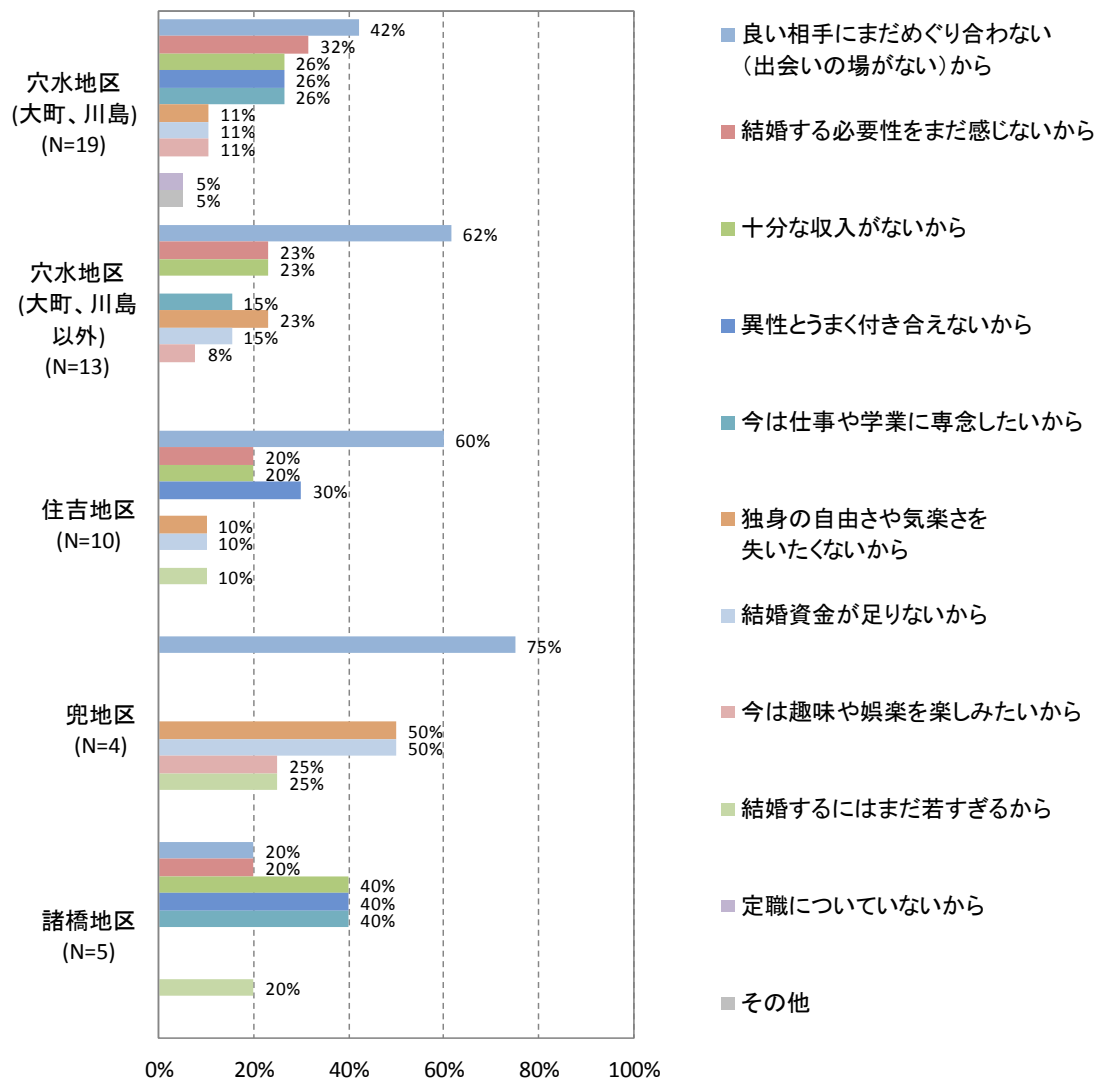
■独身でいる理由（年代別）

・年代別では、20歳代で「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」が22%と、他と比べて22ポイント高くなっている。

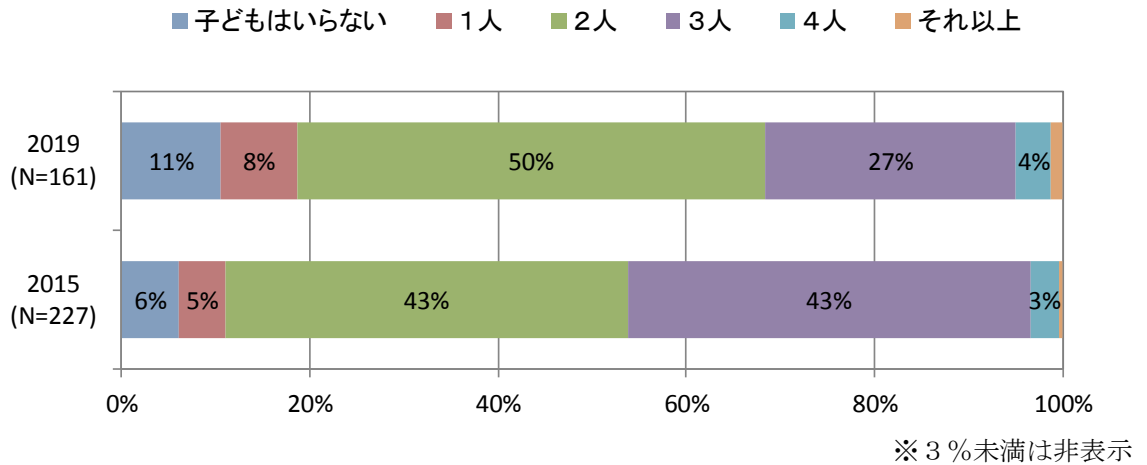


■独身でいる理由（居住地別）

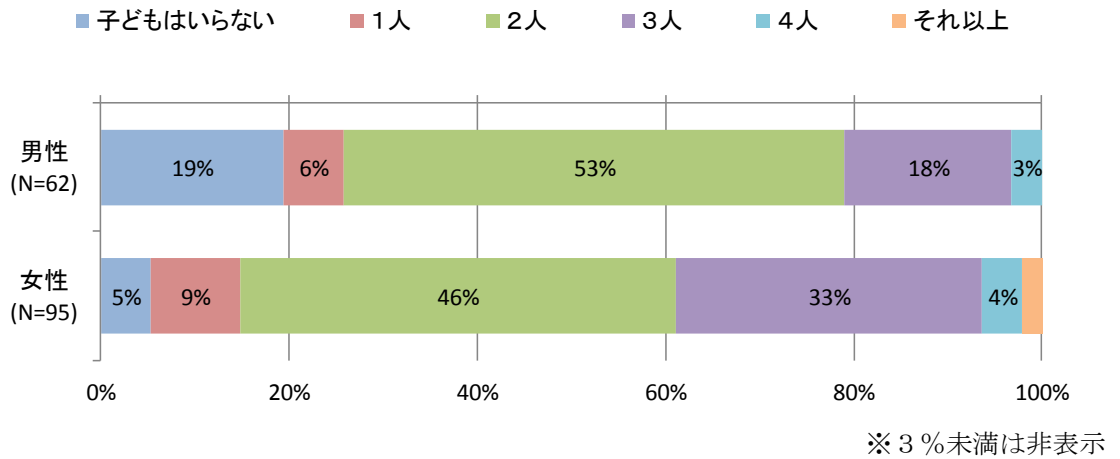
・居住地別では、諸橋地区で「良い相手にまだめぐり合わない（出会いの場がない）から」が20%と、他と比べて22ポイント以上低くなっている。



③⑤	<b>理想的な子どもの人数</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2人」が50%で最も多く、次いで「3人」が27%、「子どもはいらない」が11%となっている。</li> <li>・前回との比較では、2019年で「3人」が27%と、2015年と比べて16ポイント低くなっている。</li> </ul>	

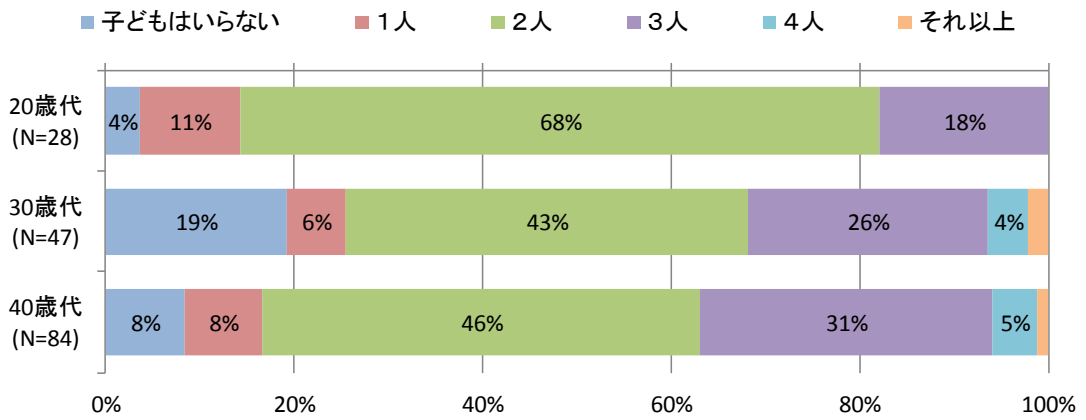


<b>理想的な子どもの人数（性別）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・性別では、女性で「3人」が33%と、男性と比べて15ポイント高くなっている。</li> </ul>	



■理想的な子どもの人数（年代別）

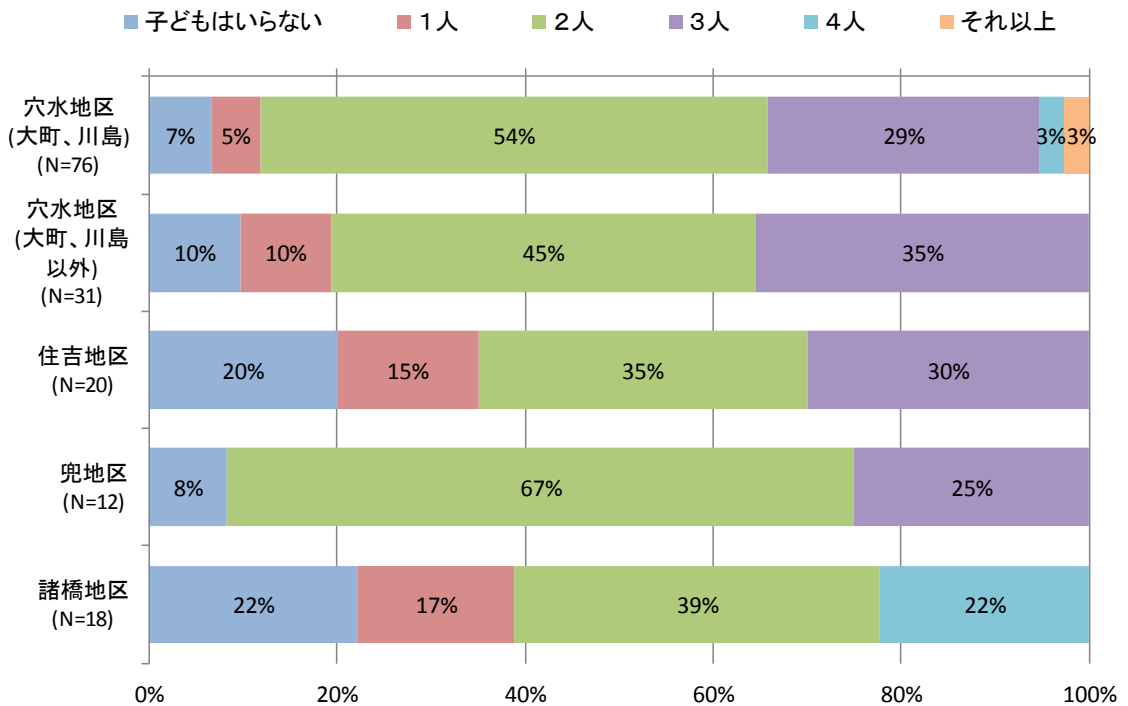
・年代別では、20歳代で「2人」が68%と、他と比べて22ポイント以上高くなっている。



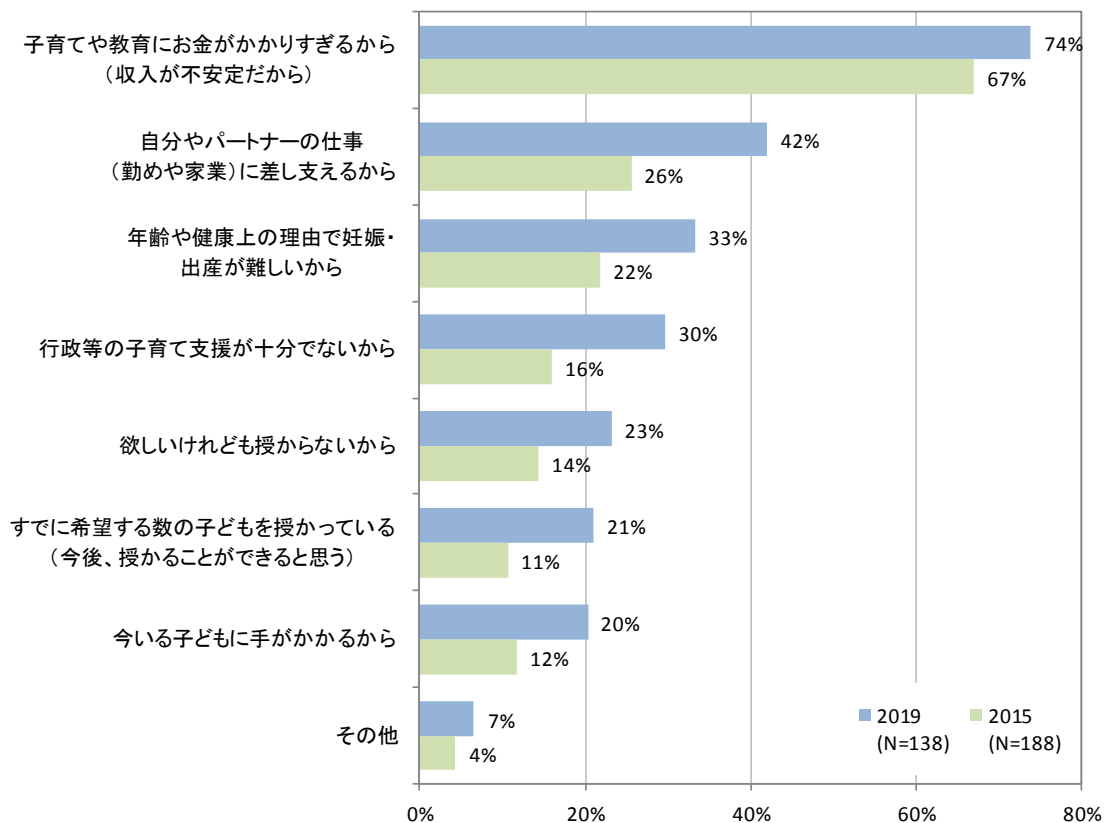
※3%未満は非表示

■理想的な子どもの人数（居住地別）

・居住地別では、住吉地区と諸橋地区で「子どもはいらない」が約2割となっている。



③⑥	<b>希望する子どもの数を持っていない場合に想定される要因（3つ以内で回答）【前回比較】</b>
※③⑤で「理想的な子どもが1人以上」との回答者を対象に集計	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が74%で最も多く、次いで「自分やパートナーの仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が42%、「年齢や健康上の理由で妊娠・出産が難しいから」が33%となっている。</li> <li>・前回との比較では、2019年で「自分やパートナーの仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が42%と、2015年と比べて16ポイント高くなっている。</li> </ul>	



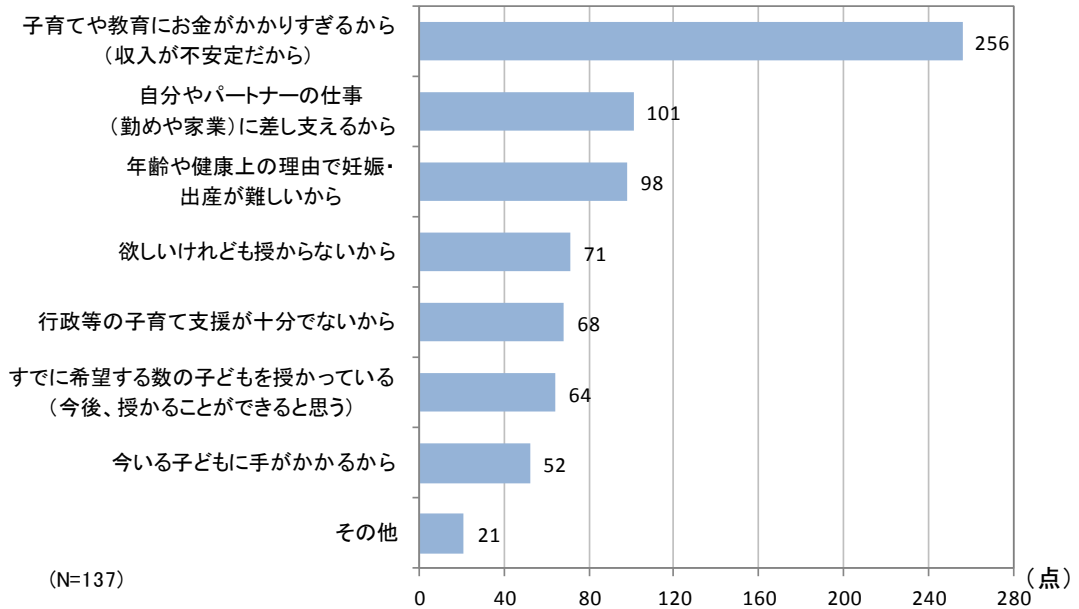
※集計について

前回調査（2015年）の結果と比較するため、順位を考慮せず集計した。

※選択肢について

本調査（2019年）では、前回調査（2015年）で回答が少なかった一部の選択肢を除いている。なお、2015年の値は削除した選択肢を除いて再集計している。

⑩	希望する子どもの数を持っていない場合に想定される要因	【順位付け】
<p>・「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が 256 点で最も多く、次いで「自分やパートナーの仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が 101 点、「年齢や健康上の理由で妊娠・出産が難しいから」が 98 点となっている。</p>		



※算出方法

調査票では、1位～3位と順位毎に回答欄を設けており、1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計し、各項目の点数を算出した。

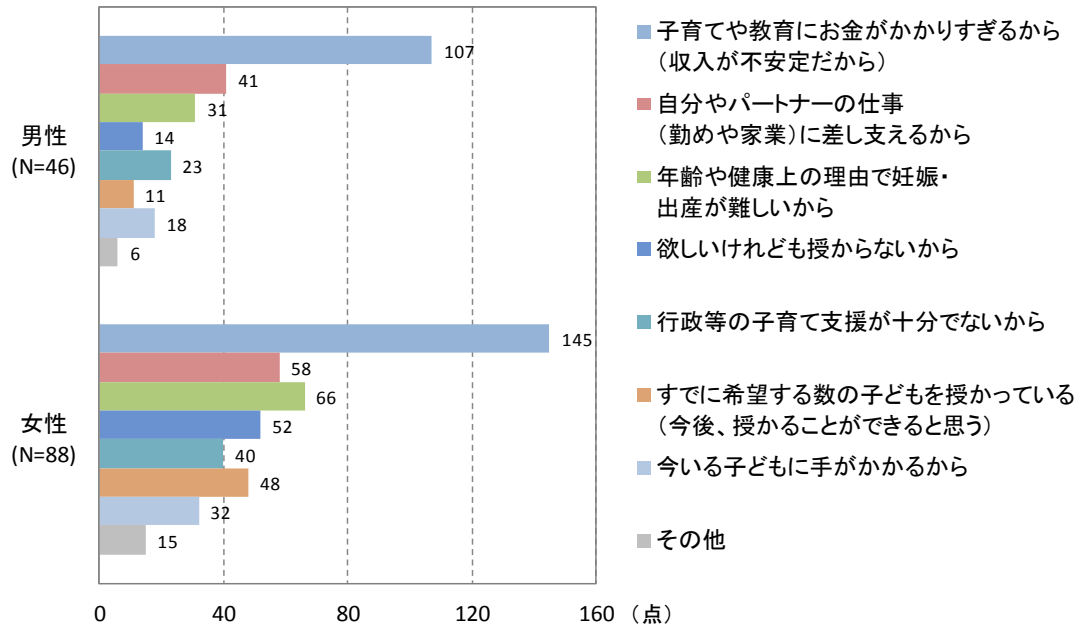
※母数について

1位～3位のうち、2位のみ無回答である回答は集計の対象外としているため、101頁の「前回比較」のグラフよりも母数は少なくなる。



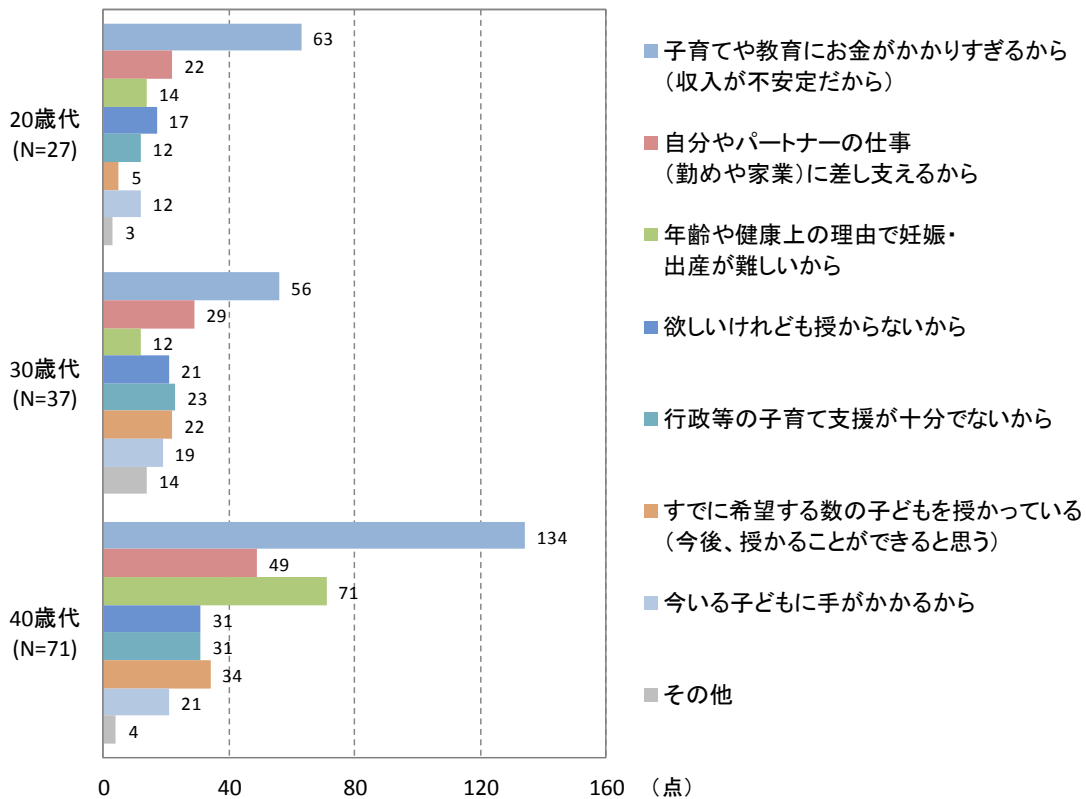
■希望する子どもの数を持たない場合に想定される要因（性別）

・性別では、男性、女性ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が最も高くなっている。



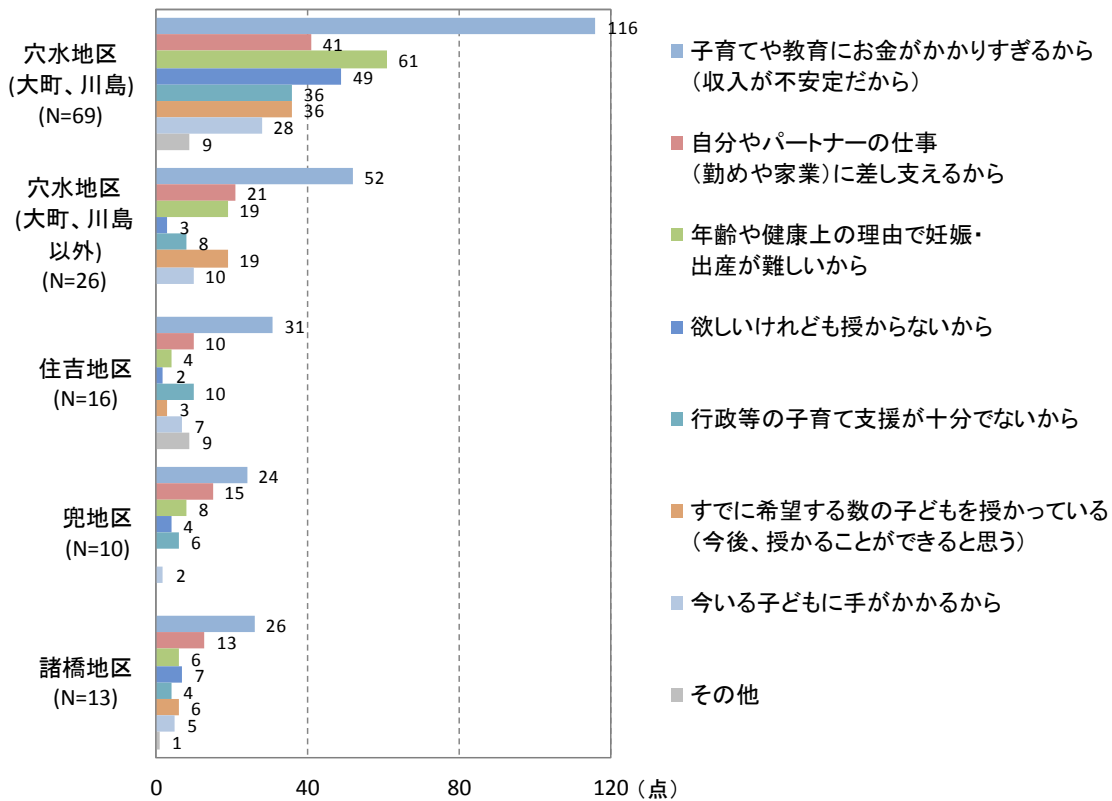
■ 希望する子どもの数を持たない場合に想定される要因（年代別）

・年代別では、全ての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が最も高くなっている。



■ 希望する子どもの数を持たない場合に想定される要因（居住地別）

・居住地別では、全ての地区で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから（収入が不安定だから）」が最も高くなっている。



③7	意見（自由回答）
<p>・「子育て（13件）」、「企業誘致・雇用（9件）」、「環境・施設整備（7件）」に関する回答が多く、「子育て」では主に「産婦人科の復活」「子育て支援の充実」等の回答がみられる。</p>	

項目	回答数	回答数	主な回答
	2019年 (N=43)	2015年 (N=67)	
子育て	13	28	産婦人科の復活
			子育て支援の充実
企業誘致・雇用	9	10	子持ち世代の働きやすい環境整備
			若者が戻ってきて働きたいと思えるような職場の充実
環境・施設整備	7	6	レジャー施設の充実
助成	4	6	手当の充実
行政	2	5	税金の徴収
出合い	1	6	結婚相談所の整備
その他	7	6	将来に対する不安